

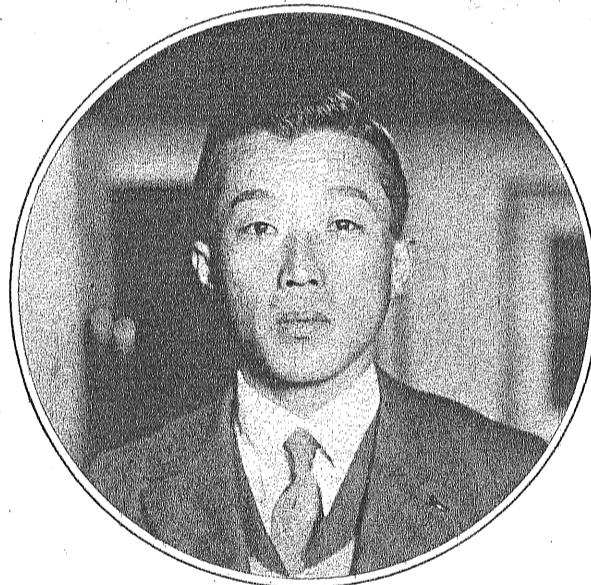


試合は十二月十七日一高で舉行、五対二で早大が勝つた

Waseda takes a soccer game from the First High, 5 to 2 at the First High field December 17.

## 研究事項と改善事項

山田 午郎



山田 午郎君

アソシエーションフットボールは明治三十八年ごろ東京高師の講師デハビランド氏に依つてその體裁を整へられてから二十餘年を経た。明治の末期から大正の前半期まではその技術方面も普及の状態も遅々として大衆から顧みられるやうなものではなかつた。

一般競技の幼稚な時代の、而もその裏面に附隨しての存在は僅かに所謂體育家の間にのみフットボールとして認識されるに過ぎないもので、その技たるやこのデハビランド氏を中心とした一部講師者が同氏から授けられた概念を以てボールを操作する位に止まるもので、勿論今日のやうにトレーニングも組織だつたものではなかつたゲームなさはこの組織だつたトレーニングのない結果であるから、今日比較にはならない。ホンの

遊戯に類したものである。かくして芽生ぬた斯技は大正七年にいって名古屋にむける名古屋蹴球團主催の中等學校蹴球大會、東京にむける東創社後援東京蹴球團主催の中等學校大會ごこの二競技會が東西呼應したやうに開催された、しかししてこれ等の大會によつて試練の機會が生れ、從來の遊戯の殻を脱して競技として猛烈なトレーニングに入つて愈よ興隆への第一歩を踏み出した。斯くて漸く競技化した後を承けて大正十年に第一回を舉行した全國選手權大會は更に全國的統一の端緒をなし、關東大震災後は又特に水際立つた普及發展の實を示して來た。チームは逐年激増し技術に於ても其の進歩發達の著しいものが認められる。この急激なる進展に伴うて各地に各重各様の體裁形式を以て右の全

F本選手權大會の他明治神宮體育大會の爭覇、大小交えて大會の數は實に五十を突破するの盛況を呈した。

この大會を名古屋を中心として東西に分つならば東に三、西に七の比率で舉行されてゐる。しかしてこれをチームの數から見れば東六・西四の比率を示してゐるにむいて關西方面の大會が如何に頻繁であるかわかる。

然し興隆を期した自然の成行きはいへ名義を異にし主催者を異なるだけのこの種の同一形式の大會が狹小な範囲に限られて、同シーズンに幾回なく、舉行されることは參加チームのために學業支障の問題を除いて練習と研究の不足を直して被達の中に當然障礙が伴ふこことになるのみでなく參加チーム争奪等の苦々しい、融い問題も捲き起されてくる。

之によつて協會當事者の間に大會整理の問題が喧しく論議されてゐるが、之は非常に難しい問題で一朝一夕にしてこの主旨の貫徹を期することは先づ覺束ない。

かかる問題が玄爲される興隆の期に移り、殊に集團力、結合力の涵養の上に、體育方面から絶対價値を認められ、一部識者間には將來十年を期して野球を廃した歴史時代が建設されるであらうまで傳へられてゐる。今日、技術は勿論その他に亘つても改善を要する問題は限りなく残されてゐる。

年頭に際して反省を求める努力を促すための諭言も強ち無意義ではあるまい。

◆

技術方面において今日特に氣付いてゐることで一般的に研究にまつべきものはフォアードのパッキングの巧拙の前に、サイドキックの練習が不足してゐることを擧げなければならぬ。ショウタバスミロングバスミが取交せて行はれてゐるに際して、ロングバスはインステップキックに據るべきが脚力體力の上から自然であるやうにショウタバスにおいてはサイドキックによるが體勢からいつて自然であり、合理的のものである點から見て、この顧みられないサイドキックについて更に練習と研究の

要がある。なほケツドチャノスミしてのコーナーキックは、サイドキックの罪られてゐると共に無關心の状態にある。今日ノウタツチオンが認められてゐるにも拘らず成功することはある、殆んど稀であることは次の事實が立證してゐる。余は昭和二年のシーズン前半において親しく見たゲームは五十八に及び、このゲームにおいてコーナーキックの記録されたものは實に六百十三の多數を示し、このコーナーキックがノウタツチに成功したものは驚くなれ僅かに七、この比率は〇・〇一一、百のキックに對し一のゴールイン、この結果がアーチャーの完璧に本づくものならまだしも、失敗はいづれも貧弱なキックに因してゐることにおいて問題として提唱せざるを得ない。

更にこのコーナーキックによりゴールアウトしたものは二百八十七で〇・四六八の失敗率を示してゐる。右の結果をチャンスとしてのコーナーキックを無關心に過し

てゐるさいはすに何といひ得やう疎んじられた練習と研究のない結果で、實に悲惨なものである。ここに至つてトウキックの練習を必要として成る。微妙なインカーヴィングアウトカーブはこのトウキックによつて初めて得られるものであることを念頭に入れて練習を望むものである。なほヘッディングは近來練習の効一時に現はれてゐるが、それに伴つて未熟さ濫用の傾向があり、特にフルバツクにかいして濫用の甚だしいものがある。之は前記の事項と共に警めて更に一段と練習を望むものである。この他技術方面において議論するべきもののはなほ取扱されてゐるが、他は後日機会を得て述べることにしてこの他一般的に改善を必要とするもの、第一にレフエリーに就いて言及したい。

◆

レフエリーはゲームの勝敗を左右する程にプレイヤーと緊密な關係にある、ルールに精通するを第一要件とするが、ルールを究めてしかもこれが直ちに名審判とはいはれない近時ゲームの數を増すと共にレフエリーの任にあたる人にも一般觀衆のまゆをひそめさせるやうなものがしばしば見受けられる。それはルールに暗いことよりも決定的速断の缺乏と冷感觀察の不足から生ずるもので、看過することは出來ない重要な問題である。素質のない、素養の足りない者を充てなければならないやうに憤しいやうにゲームが行はれてゐる。

現今のプレイヤーは精神的訓練が出來てゐて、一般に善良であり不平をその都度形に現はすことなく過してゐるから、往時のやうな醜惡な面は描かれるこゝなく済まされてゐるが、当事者はこれを以て甘んじてゐることは出來ない。ゲームに對して眞摯勤勉なる競技者に對して、審判はまた絶対的に忠實でなければならない。

今日かかる審判上の不備は決してその儘に黙過さるべきのものではない、往時の苦々しい不祥事を未然に防止し健全なる發達を期するために先づ萬全を期する施設を必要として来る。

近時ゴールチャージが亂暴、危険に流れてゐるのはその一例で、これもレフエリーの優柔なる判定が生んだもので、この優柔なる判定は又その人を得ないことを權威の失墜を物語るものである。

協會は茲においてこの不十分にして無權威なる審判に對して統一と指導のため多年の懸案となつてゐる審判規の確立を急ぐ要がある、それに伴つて未熟さ濫用の傾向があり、特にフルバツクにかいして濫用の甚だしいものがある。之は前記の事項と共に警めて更に一段と練習を望むものである。この他技術方面において議論するべきもののはなほ取扱されてゐるが、他は後日機会を得て述べることにしてこの他一般的に改善を必要とするもの、第一にレフエリーに就いて言及したい。

◆

ワイヤーネットのユニホームの袖口を長く垂らしてダラつかせた純重な姿態、實に放埒極りない服装ではないか、更に何時から流行り出したか威勢のよい向ふ鉢巻仇討つやうな後ろ鉢巻、これは孰れも急ぎ改善する要がある。他の孰れの競技においてこの醜惡なる服装が見られやうか、鉢巻に至つては僅かにマラソンの選手の汗止めに見られる丈けで之さへも論議されてゐる今日ではないか。

先づラグガーラの凄まじいあのツオームは何によつて生まれるかを一般の放埒な服装を敢てして平然たるツオームに問ひたい。累して向ふ鉢巻であらうかまた袖口をダラつかせたスタイルは競技の上に如何程の利益をもたらすであらうか。

かうして差引いて来れば幾るものは無益な不快感ばかりではなからうか。

まだ池に改善すべき事柄は幾つも残されてゐるやう。然し競技の根本問題についての改善が根強い基礎を築くことにおいて一部のツオームボーラーの蒙を啓くために一言賛した次第である。

# 全國高校サッカーチャンピオンシップ

廣島高校堂々と優勝す

山田 午郎

東京、京都兩帝國大學學友會ア式蹴球聯盟主催の第五回全國高校ア式蹴球大會は全國の猛者十九の參加チームを集めて元旦から五日まで五日間にわたり東京帝大球場に開催された。

下馬評で優勝候補に數へられた早高、水戸等は第三回戦に退けられ山口は准決勝戦において松山の爲め敗退してしまつた。そして決勝戦は五日午後二時二分から秩父宮殿下台闇の下に中國の王者廣島と四國の雄松山との間に行はれたが松山の健闘は遂に報いられず廣島はその力に格段の差を示して堂堂と優勝し年來の宿望を達した。以下戦績をたゞつて短評を試みよう、匆卒の際あたらぬ點もあらうがそれは豫め宥恕を乞ふ。

## 一回戦

法政、東高、松江

第一回戦に敗退したものに法政、東高、松江である。準決勝も二回戦

は勝ち得るであらうとの豫想は二對一の戦績を残して覆されてしまつた。法政はこの第一戦に全く新陣容を以てしたが、更新もチームの充實にあるものならば未だしもこの更新は如何に見ても無謀さより思はれない。トレーニングもゲームに多年の研究と経験を傾けたそのポザションは斯かる大事の場合に無視すべきものではない。ゲームの際に其の進展に伴うて臨機應變に之を更へるものならば之は探るに躊躇すべきではないが更新されたる陣容を以て短時日のトレーニング、それは結果において豫期に反するのが當然である。計画的に進められたとしてもこの更新は無策に等しいものがある。攻めるには未だしもして守備において一朝危機に瀕しての處置は至難となり勝ちである事を警めたい。

東高はバツクメンの呼吸があはなかつた、そして四対一で八高に制せられたCH林もこゝに苦惱があつて彼獨自の地味でしかも堅實な力は之をすべて現はすことが出

来た。これは松山の守備の上に大きな影響を與へたと共に攻撃の機會を逸してゐたことになる。

前日の苦闘がなかつたならば松山は最後までシツクリ合はずに力を盡したま、敗退した。無念やる方ないのも無理はない。

松江は善戦したが押しがきかず、精りが足らぬ爲め三對零で静岡の爲め敗れた、之はFWにおいて明かに認められた。堂々たるキツキンを示し乍ら不運の敗退はゲームによる洗練の足らない結果であると思はれる。

## 二回戦

二高、八高、新潟  
松本、成城、武藏  
七高、六高

不戦一勝校と第一回戦に勝ち残つた二高、八高、静岡の間に第二回戦が行はれた結果は第一回戦に勝つた二高、八高が却けられ、

新潟、松本、成城、武藏、七高、六高が組みを呑んで引き下つた。

浦和に四點を奪はれて零敗した新潟は新進として傑出してゐる一つであつた。優秀な體格と強いたゞ

クはよく大敵浦和を懲ましたか

松江の夫れのやうにゲームを通じての洗練がないためFWはラストポイントを失すこと屢々で隅蹴も浦和の三に對する六であつたがこれもゲームに経験の乏しい結果好蹴の機を逸する有様であつた。然しこのチームは大に將來あるものと信ぜられる。これに次ぎ同じ新進の松本は早高に對し八對零といふ惨敗の記録を止めたが相當奮戦活躍してゐた。各方面から見てこのスコアの示す程にその差は見出しここが出来ない、之も眞摯の練習のもたらした結果であらう。

新潟チームが續々難倒された中にも一しほ哀愁を殘したものは何といつても成城であらう。關東の一角に割據して優勝の榮譽を狙つた水戸を焦燥の渦に巻き込んだ

強敵廣島に對して八對零のスコア然しこのチームにもう少しコンビネーションがあつたならこの結果は生じなかつたらうと思はれる。

ゲームに對してはまだまだ若い。東高を一蹴した八高は、同じく東海の猛者静岡を見ると、二対二のスコアを以て延長戦に入り、土俵際にウツちやりを食つてしまつた。この日の八高は東高に對した時の偉力を失ひ、三宅、永野の活躍なく静岡の意氣に感服されてか眞の力競を發揮し得なかつたやうだ。8=3の隅蹴に好機を失してゐたのはダッシュの足りないためで相手を恐れたためかまた前日の疲労が因になつたが、二高は山口のため出鼻を挫かれてしまつたFW



全國高校ア式蹴球廣島對松山の決勝戦

Hiroshima High fights it out with Matsuyama High in the last soccer game of the series.

## 三回戦

早高、水戸、一高

静岡

第三回戦は参加十九校の中から選り抜かれた浦和、早高、廣島、一高、松山、水戸、山口、静岡の間に行はれたが力が愈よ接近したので接戦が演ぜられた結果、優勝の呼び聲高かつた早高が二対零で浦和にうつちやられ、水戸が又五分の試合で松山の爲め二対零に惜敗したなぞ轉た今昔の感にたへぬものあり、一高又捨て身に出たが廣島の爲め六対一に屠られ、静岡も健闘したが及ばず山口のため四対零に一蹴されてしまった。

早高は昨夏浦和における敗辱の復讐戦であったが、浦和の地力は殊の外に強く早高の攻撃をよくも避けて機先を制してしまつた。早高頻りに奪還を企てたがFWパスはいつなく不正確である上に連繋が不十分で、弱いといはれる浦和のバックを突き抜くことが出来なかつたのは、やはり早高FWの缺陥を物語るものであるといへる。浦和も一蹴して山口ならスコアすることも可能であつたと思ふ。浦和はチームとして各選手の力が均等であつた、この點早高はさうか。

一高はスタートが非常によかつただけに後半に残すべき力を費してゐた。然し金城鐵壁を誇る廣島の堅陣に一矢を報いたこそは特筆するに足るものがある。力の差…敗北…それは一高戦前の覺悟であらう。そこに技術を超越した傳統の意氣をたのみとする一高の攻法が生まれたのではないか、結果は敗化に終つたとしても俊豪廣島を向ふに廻はしてこの前半の健闘は賞賛に値する。只FWが後衛の活躍に比して劣つてゐるのは練習が足らないといふことになる。

水戸の鐵桶の軍も近藤が傷ついてゐたために大きなハンデキャップがつけられ、之が守備のみならず攻撃にも影響してゐた。然しハーフバックが松山に比して劣弱であつた事實を否む事は出来ない。あのHBを以てFWはよく活躍した、然し得點はない。これはFWのシューティングの拙劣よりも相手方松山のGK奥野の超人的飛躍のもたらした結果であるといひた。奥野は本大会中の白眉で打つも蹴るも達者、攻撃を受けても卑のやうな彼の慧眼は瞬時に判断して動作に移る、この俊敏この妙技に對しては水戸も足踏せざるを得ない。然し後半二十一分CHのチャージボールに際してRI、RWの進出が一齊であつたことが焦つてゐた爲めに期せずして一致したのであらうが、あの場合策の得たものではない。後詰めに一人残りたかつた。春山が巧者に災されて爲す所なく終つたのは水戸の爲めに遺憾至極。

静岡はこのラウンドでも優勝候補八高を屠つた無銘の利刀の味を見せやうとしたがアリアリ押しにキキ足を拂はれてしまつた。山口の粒揃ひの體格に對して静岡は敵ではない、然し善戦幾度も好機を作りながら逸してゐたのは前日の對八高の大物食ひから來た疲労と體格の劣弱から來る押しの効かない結果によるものである。若し前半九分に得た右左のCKを物にしてゐたならばスコアはもつとクロスを多く打つべきだ。

## 准決勝

廣島=浦和

松山=山口

いよいよ准決勝は粒揃ひの廣島と浦和、松山と山口との間に行は

## 決勝戦

廣島大に勝つ

決勝戦は武藏、水戸、山口を組み伏せた松山と、六高、一高、浦和を難倒した廣島との間に行はれた。松山は前日の對山口戦において後半苦闘をしてゐるだけにキビキビした彈力のある體格の廣島に刃向ふには不利である。開始直後、浦和はFWを攻撃して、そして最初の一點は名キーパー奥野にも似ず判断を誤つた進出であつた。ダッシュした内藤がこれに兜したLIP大石に任せて彼一流の堅實なキーピングに依つた方がよかつたではないか。奥野としては魔に魅られたかと思ふ大きな判断の錯誤であつた。CH西村は疲労してかボザションに亂れが

く左下へつづく

く左上からつづく

あつた。これは松山の守備の上に大きな影響を與へたと共に攻撃の機會を逸してゐたことになる。

前日の苦闘がなかつたならば松

山はもつと廣島を脅かすことが出来たであらう。これがため斯界の驚異といはれたCF若林も祕められた力を現はすことなく終つたの

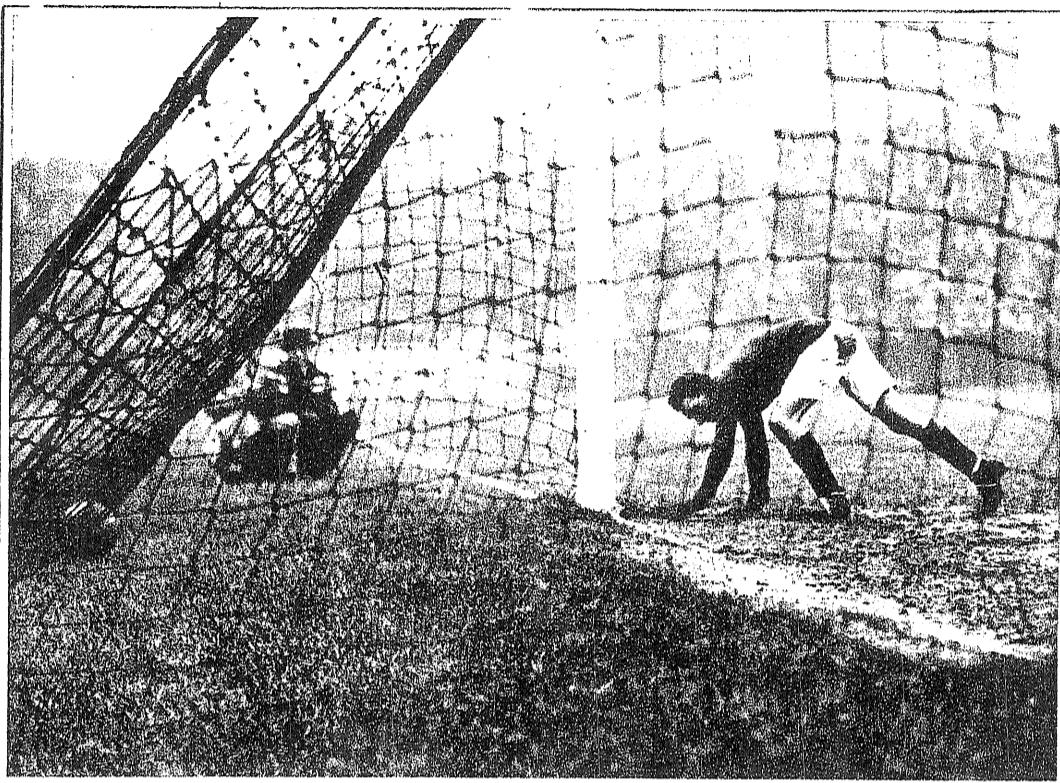
は松山にさつて返す返すも氣の毒である。これに對した廣島は攻守共に松山を凌ぐものがあつた。殊に輕快俊敏として頑強なFWをし

て力残りのないやうに活躍せしめたCH野澤はまさに當代の名手で、斯界を通じて彼の右に出る者はあるまい。(一・五)



一月一日から東京帝大球場に行はれた全國高校ア式蹴球戦に優勝した准決勝チーム  
Hiroshima High School soccer team, all-Japan higher school champions.

S 3 - 1 - 15



・英國フルハム対ストークの蹴球戦、一対五でストークの勝ちとなつた。写真は鮮かなゴール  
ショット

Football: Fulham (1) vs Stoke (5) at Craven College, London, Nov. 12th. Dixon,  
the Stoke goal keeper, beaten by a goal shot.

S 3 - 2 - 1

## 全国中学校大会関連

### サッカー戦の印象

吉 保 秀 夫

#### 都島工対岐阜中

塞さたためかプレーが延びないと思へるほど進行振りの遅い、諒味のない試合であった。都島は確かに優勢であった。前半R.H.谷野のハーフシュートは綺麗な得點であつたがその後得点の機會がしばしばあつたのに得点のないのはフォワードが全然なつてゐなかつたからだ。特にR.W. L.W.のポジションでの動きこそ、出足の遅いことは物足りない。その他フォワードにシュートないこそ、またはハーフパスの強過ぎる等が缺點で、フルバックのL.F.大江 R.F.池田は割合によいコンビネーションミシヤツメントを持つてゐた。H.C.山本は都島チームの中に光つたプレイヤーである。一方岐阜中学のあのフォワードでは都島のフルを抜き難い。L.F.小木曾の延びたキックをフォワードに送つて逆襲の機会を作つて居たのがフォワードのダツシユの運びではためで、フォワードとハーフとの連絡は割合に取れて居たが小脳のためかダツシユミバスの運びのが恨みである。

#### 廣島中対富山師

廣島一中が殆んじハーフラインを越して富山師範を攻め連續的に得点して大勝したのは技倆の差として止むを得ない。唯富山師範が最後まで元氣よく戦つて居た事は頗もしかつた、その優れた體力とその意氣で基礎練習を十分して捲土重來を期されたい。

#### 宗實対京都師

平城宗實は豫想通りの強さで堂々と勝た。H.B.T.W.の早きラン

誤りバーに當て、許す。R.W.木下コーナーカーヴしてG.K.黒崎セーブ利かずゴールイン。最後の點はR.H.和田のロングシュートG.K.黒崎叩き横ねて附中のL.W.西川ダツシユ軽く當て、入るの五點で御影は少くともコーナーの二點の中の一點、R.H.和田のロングシュートの一點、L.F.大江のミスキックの點は十分セーヴ出来る點である。少くとも平常のG.K.黒崎を知るものとしては別人のやうに感じたであらう。ロングシュート及びチャージボール時のG.K.の判定の誤りではなからうか。

#### 廣島中対都島工

廣島の主力はH.B.の與田、小田掘の三人であつた。フォワード五人は一體に小脳のためにダツシユしてゐたが全軍に鬪志なく臆したものと見えた。H.B.片岡 R.F.中島よくキックしてゐたが全軍に鬪志なく臆したものと見えた。H.B.三人のアバーパーは都島のフォワードの進出が懸念のために十分に利いていた。五番番の得点の差はさの優劣は認められないにしても、廣島のH.B.が都島に優れ、廣島の勝は當然である。廣島が後半壓迫されたのは都島L.F.大江 R.F.池田の好防護、H.B.のフォワードオーバーとR.F.青木の若いプレーとG.K.金子のダツシユ出題れ等のためである。都島は得点の機会に達しながらシュート遅く、又は方向を失し落敗した。

#### 宗實対附属中

幸運の附中も平城宗實に對しては恵まれなかつた。幾度かH.O.和のロングキックで逆襲に出ても今一步さいふ所で入らない。後半四十分ゴール前の密集にも遅くはれなかつた。あの際L.W.西川の思ひ切つたチャージがあれば得點したかも知れない。G.K.藤岡は危機をしばしば救つてゐたが、然し連續的に繰く危機に際したのだからG.K.の責任もいへない。宗實は確実に附中を破つた。宗實のアグチグな戦法は附中のバツシグの作戦を壓したのだ。附中のウエーチングなカット主義は宗實に對しては効を奏しなかつた。宗實は駿足に出足早くフットワークも巧妙にバーンナルプレーを行ひ、急にフロントバスミスルーパスを交ぜ

て、一氣に抜いて附中の作戦の逆を行つた形になつてゐる。何れにしても宗實の勝は當然であるが、そのプレーのラフに流れたことを惜む。一方附中は大會第一の好印象を與へたチームと解した。

#### 優勝戦

平城宗實對廣島一中の優勝戦は兩軍最初ハーフラインを挟んで接戦したがフォワードに弱き廣島は幾分壓迫され氣味でR.I.末岡、L.I.伊藤を下げて守るを、宗實發足ロングキックで攻め、廣島のハーフパス浮き氣味になれば廣島のフオアは小脳のため一層不利になり二十四分H.C.李のハーフシュート極つて一點。

廣島二十七分セントラースリーで進み、ついで宗實の反則で恵まれたが入らず宗實一氣にオフエンスに出でH.C.李のハーフシュート、F.C.金、L.I.宗のチャージにゴールイン。

前半タイムアップ一分前、廣島G.K.の後R.I.末岡のバツクバス、F.C.小田シュートして一點を得た。後半廣島側にも機会が多かつたがダツシユもシュートも遅く或は弱くして遅くはれなかつたことは惜しい。廣島のバツグメンは懶F.に宗實のダツシユを防がんとしたが宗實はその快足さフットワークの伴ふたコンビネーションに廣島を壓し、L.I.宗のシュート、H.C.李のシュート、小山の足に觸れてのゴールイン等で計四點を許した。

最初よりスコアは少くとも四點以上の開きを見せるこを豫想し、廣島はその差を出來得るだけ少くしようとしたが、宗實の駿足さその遅いキックには敵しかねた。そして味方に來たチャージも最後を決定するフォワードのないために宗實にきり抜かれた。廣島のプレーは若いながらに甘味もあつたが、強さが缺けてゐた。また廣中ばかりではないがゴールを低くコントロールしてパスするに對し、宗實は少々高ければシャンプして早くダイレクトパス或はトーキングの早いパスに出でゲームを樂に進行せしめてゐた。またフロントバスミスルーパスで

廣島のバツクを抜き、ゴール前の密集にはH.C.李のハーフシュートを利用してG.K.をチャージしてゐた。この際G.K.金子のダツシユが一體に運かれた。

◇

なほあれだけ諒味あるH.C.李をフリーにしたこは廣島の手落ではないか。ディフェンスには早くマークすべきこ事が必要であり、ボールを得ればこれを有利に扱く陣形に變るべきである。宗實のL.H.が常にR.W.河野をマタクさして有効に働いてゐた。

S 3 - 2 - 1



英國劍牛兩大學サッカー戦は廿四日に舉行、牛津方が二対六で勝つた。寫眞は雨中に惡闘した劍橋のG.K.カーター君

The Oxford U met Cambridge U. for their soccer match on Dec. 14th. Oxford won by 6 to 2. Photo shows A. D. Carter the Cambridge goal keeper.

S 3 - 2 - 15



東朝社後援の關東中等學校ア式蹴球大會は駒場球場で舉行  
寫眞は優勝旗返還式

Returning the championship flag to the officials before the Kwantu intermediate school soccer games at Kamaba, supported by the Tokyo Asahi.

一月二十九日早大グラウンドにおいて行われた三田稻門ア式蹴球戦  
Mita and Tomon meet in a soccer game at Waseda January 29.

## シーズンの終った後に

### 上海交通大学を迎へて

#### 東都三大學のサッカーワーク

山 田 午 郎

昭和二年度のア式蹴球界も年中行事の大半を終了して、シーズンの幕が閉ぢられやうとする時、上海の交通部第一交通大學は日本遠征を發表した。然るに同チームはこの交渉の未成立中に年末から上海遠征中であつた關西學院チームの後を追うて一月十日上海を出發してしまつた。玄海灘のシケにあつて殆んざ初航海の選手達は船艤に苦しんだにも拘らず十三日神戸入港、十四日から三日間に亘り神戸で三戦し一勝二敗の戦績を残して十八日の正午近く入京した。この間東京の諸チームは、同チームの潜伏を思はれるやうな無理解な交渉に専からず迷惑を蒙つたが、兎に角明、早、帝の三チームが遠來の交大チームを迎へて國際的對戦を試みることになり、十八日に

スケデュールを發表した。

◆

十九日を第一日としてこの國際試合の幕は明治神宮外苑競技場に開かれた。前日の寒風は名残りなく晴れ上つて静かな小春日和、北西の微風が外苑の冬木立をそよがすのみで試合には眺へ向きの天氣であつた故にチームを應援せんとする留学生、遠來の強敵の妙技に接せんとする熱心な観衆でスタンドは押し合ふ有様、殊に二十日の對抗戦は極東大會の日本代表選手の大半を以て編成された早大チームの上海における活躍を偲ばうとして集る人々のため一層観衆はその數を増し、二十二日の對抗戦は、一勝一分けの戦績を残した彼を粉碎するのはたゞ帝大のみといふ大きな望みをかけて

群り集つた其數は實にア式蹴球界未曾有いはれる程であつた。唯懐みるのは十八日の寒雨にローンのグラウンドが水を含んでいたところ我が三チームは練習不足で遠來の交大チーム以上に不利な条件の下に置かれ全くその力を現はし得なかつたことである。

第一戦を引受けた明大は敗れ、二軍に備へた早大は引分け、最後に止めを刺すべき帝大は惜敗してしまつた。然し孰れもゲームには勝つて居て結果がそれに伴はなかつたのである。之は練習不足の結果とはいへ時に研究する所である。GK周賀言その人の洗練された技術、謹らぬ判断と處置ばかりがこの結果を招來したのであるまい。彼にこの備へがあれば我又に對する策がなければならぬ筈である。

### 對明大戦

先陣を取はつたのが明大で、蹴踏みの形で波の力試めではあるが、關西の戦意に氣を盛らして來てゐる點もあるので強ち明大が歩の悪いといふ事もなく。唯明大としては、リーグ戦に於て洗練したゴール・ゲッターのRI鈴木を失つた後を補ふ爲めに相當悩みがあつたか、兎に角引退してゐる妹尾を起用ししCFに据ゑ、青山をRIに配置した。この陣容を以て彼を破りたい。までも全然ゴールを擧げぬことはなかつたと思ふ。

開始後五分半、LW曾田のドリブル・エンド。シュートは弱かつた、そしてGK周が之を拾つて處理しようとした瞬間DI青山のチャージがあつた。この際青山のモーションが今一歩早かつたならば必ずゴールを得るこ事が出来てゐたと思ふ。しかもこの際一點を先んずるこ事が出来てゐたならば出鼻を挫いてこのゲームは如何なる進展を見せたか解らない。

◆

我的シュートは決して確定的のものではない。ゲームの進展と共に間髪を容れぬ判断と動作が一齊に現れねばならぬ。シュートとチャージは同時に行はるべきをFWは覺悟し又シュートの結果に依りゲームの展開を待つべきではない。ゲームは常に自己の手に依つて打開することを企てねばならぬ。この心掛けがあつたにしてもそれが動作に現はれなかつた。そして明大は得点なく終つた。なほそのほかにパスの時機の問題がある。

パスの時機は一様に遅れてゐた。殊にその感を深くしたのは兩翼である。あまりにゴールライン近く深く運び過ぎてゐた。従つてパスが行はれる時、既に相手にはゴール前に完全なマークが出来てゐた矢張り之は相手がフォローする爲

\* 右ページにつづく

めに、陣容の亂れてゐる間隙に乘じた方が専策であつたと思ふ。一體に得点せん爲めのパスでなく、窮屈の策としてのパスが行はれてゐたのは焦つてゐた結果で、結局得点をするこゝなくして終つてゐるのは當然である。尙スコアを大きくした原因を見らるべきものはハーフバックもフルバックも押し出すことを考へて徒らに進みキーパーの連絡上常に空虚を作つてゐたこゝで、之は相手をマスクする事が等閑にされる許りでなく、バッケンは敵を邀へ撃つ威力を示すよりもフォローするの不利に立つことになつてゐた。斯かる未知数の相手に對して特に留意すべき條件を放任してゐた結果の破綻ともいへる。

◇  
またキーパーは退いて守ることよりも進んで守る機会の方が多かつた。之は時に必要缺くべからざるものであるが常に探るべき方法ではない。ゴールを目指して送つて来るボールを、一步進んでその角度の誤差を生ずるよりも、從來の位置を保つて正確な判断に相俟つて球速の鈍つた所をセーブする方が危険率は少い。徒らに進出はボールを以て敵のダッシュに接近する危険に飛び込むことになる。身を挺して危機を救ふるのは勇敢であるが、勇敢なる行為必ず有効であり、味方に有利であることは一概に言ひ得ない。ヒタ押しに押す事が必ず結果において勝るとは決らない。押してみて勝ち得なかつたこゝに對して十分の研究が必要であらうと思ふ。

## 対早大戦

第二日の二十一日は交大一日の休養をして相手になつたのが早大である。この日北端の風や、強く第一日よりもグラウンドのコンディションは悪かつた。兩軍苦戦して一対一の同點で引分けに終つた。この得點は孰れも申合せたやうに風下にあつて得たもので、兩軍共に風上に位しても風は決して幸しなかつた。早大は全く最初のチャンスを見事捉へて一點をリードしてしまつた。交大には全く施すべく術のない、必然的に許さねばならぬ筋の一點であつた。然し早大は其懲押し切る事は出来なかつた。その奪はれた一點に對してはHBに於て唯の一回でもよいからタックルを試みて欲しかつた。之は決して無理の要求ではない。成し得る所にHBは位置してゐたのだから、せめて一回のタックルが試みられたならばあの場合のドリブルも一度は亂調に墜ち、それが再び順調に復す迄にはHBは兎に角としてFBのラインだけは稍正位に近くバックする事が出来て應急の処理を果たし得たらうにと思ふ。あれは全く見す見す與へたやうなもので、それまでのHBの活躍を反古にしたといつても無理ではあるまい。一対一の同點となつてから後も早大には得点すべき機會が交大のそれよりも多かつた。

◇

然しそれはシュートすべきそのチャンスが僅かに早いといふよりも僅かに遅れたものが多かつたやうに思ふ。これは早大のみではな

い、明大も帝大も相似たるもので壓しつけて得点がなく或は得点が少い結果に終つてゐる。之は孰れもゴールに近く迫つて決定的の得点を挙げようとする努力が炎してゐたものである。それはさに彼の周は裏盤に際しての球向、球速の判断が明敏であつた。之は矢張り十八番の型を踏むよりはチャンスを捉へた瞬間に、寧ろ速断的にシュートした方がよりスコアさせ得たであらうと考へる。

GK 周は如何なる凡球にしても彼自らが一旦セーヴした球に依りつけさまに裏盤されるやうなヘマな球捌きはしなかつた。密集から洩れる難球に對してはブッシュしてコーナーキックを許してゐた斯かる沈着明敏なるキーパーに對しては、ゴール直前に確定的位置を占めてシュートするよりも、亂射亂撃であつてよかつたと思ふ。この點に於てこの日 RI 玉井は老巧な所を見せてゐた。

◇

早大FW の五人がよくこの間の呼吸がシックリ合つてそして相手の瞬間的のフォーメイションの亂れを衝いてゐたなれば案外得點があり、且恐るべきRW 駆、RI 陳の複雑が現れなかつたのであるから味方の守備上に些の不安がないだけに勝を制することが出来たであらうと惜しくもなる。早大は關東に於て唯一回の勝つべき機会を以がしてしまつた。やはりCF には近來加速的の技術を上げてゐる高師を配したものもいが、斯かる大試合には相手にこだはらぬ者を以て充てる方が妙ではなかつたらうと想痴も出る。

## 対帝大戦

帝大は第三日に豫定された、風もない蹴球日和の二十二日、關東に於る最終戦であり、交大にも負けられぬゲーム、帝大にしても關東の興奮を擋つて立つた以上勝つて腹癪をしなければならぬ。この両チームは見た所見たり難く弟たり難しいいふ、全く伯仲の實力を有し遠征チームだけに交大がやや不利と言はれて帝大の勝利に賭けられてゐた。然るに彼は二點をリードし帝大は頻りに追撃したが一点を回復したのみで二対一の惜敗の結果に終つてしまつた。しかも帝大は交大に劣つたものがあつた。



早大対支那交通大学のア式蹴球戦

The Waseda - Chiao Tung Soccer game

たらうか。このゲームを親しく見た人々は交大を兄とし帝大を弟とする事を肯定するであらうか。この日交大はLW に施を入れてゐた。施は長身の軽快なFW アレイヤーで一度彼に渡つた球は決して彼の足を離れず、恰も彼の足の一部分の如くに自由に操作されてゐた。この施を入れた交大 FW は入京以來の物語を加へてゐた。

たうか。このゲームを親しく見た人々は交大を兄とし帝大を弟とする事を肯定するであらうか。この日交大はLW に施を入れてゐた。施は長身の軽快なFW アレイヤーで一度彼に渡つた球は決して彼の足を離れず、恰も彼の足の一部分の如くに自由に操作されてゐた。この施を入れた交大 FW は入京以來の物語を加へるために馳驅するこゝなく LW 鈴木の緊密なる結合がなつてもつとチャン

なるものがあると言はねばならぬ。後半はこのために確実なる三點を奪つてしまつた。これは練習不足から来る判断の遲延に依るものと思ふ。HB の活躍の乏しかつたこゝな立派に之を裏書きしてゐる。もしHB が期待したほゞ活躍したならばLI 竹脇がFW と HB とのコラボレーションを整へるために馳驅するこゝなく LW 鈴木の緊密なる結合がなつてもつとチャン

傾勢から後半はゴールキック 3 對 24、コーナーキック 6 對 0 と FW は全く敵壘前のみで健闘した記録を残し帝大は前半ゴールキック 7 對 9 コーナーキック 7 對 1、後半ゴールキックは 6 のタイ、コーナーキックは 4 對 2 と 善戦を裏書きしてゐる。之を以て見ても彼に遜色のないのは明らかで寧ろ彼を凌ぐものあるを窺知れるこゝが出来るであらう。

たゞ彼のあけたゴールの通計 8

に對し我的 2 は、FW が難球を處理するのに自己の正しいフォームを希望し、球を其の容易な場所にまで導くの不判が因をなしてゐる。

畢竟練習不足が破綻を招いたのである。

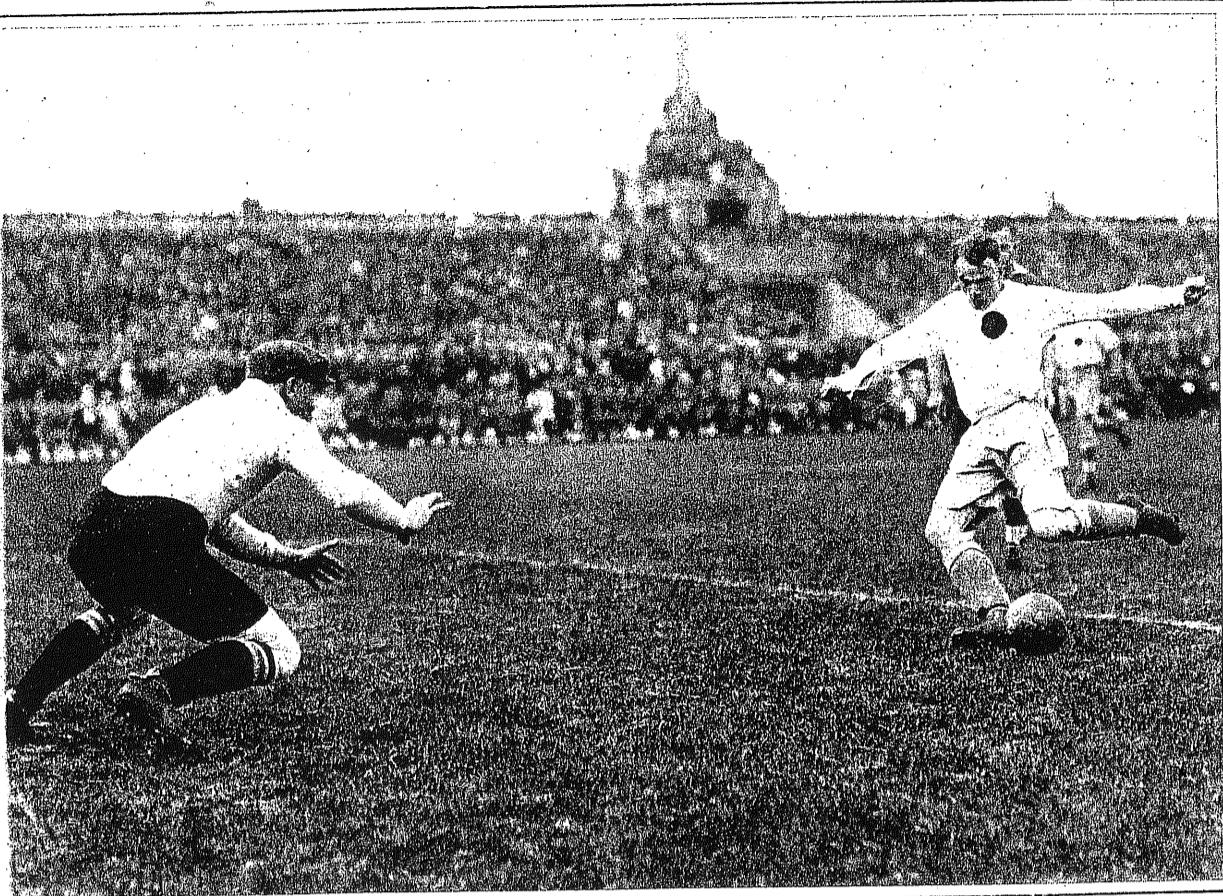
◇

しかし一言にして盡せば彼は決して恐るべきものではなかつた。殊にコーナーキックの場合チャンスとして之を生かすことを知らぬのではないかと思はれるほゞ未完成の點もあつた。三ゲームを通じて彼には 9 のコーナーキックがあつた。その中 5 はゴールアウトに終り、ただ一回だけがチャンスの因を成したに止つてゐる。是等の點から見ても、シーズン最中の來征であつたならば、決してこの不運はミラなかつたこゝ。思ふ。けれどもこの來征に依つて我チームも歴へられるものがないではなかつた。最近輕視されてゐる球のストップ、やや亂暴で無理なタックル、チームウォークを考へ球の推移を考慮してのプレーなど彼に學ぶこゝではなかつたらうか。



交通大學対明大のア式蹴球戦

The Meiji - Chiao Tung soccer game.



ヌーレンベルク vs ヘルターの選手権試合最後の一場面  
Near the end of the Nuremberg - Herta game in the German championship soccer series.

## 十六年振の國際大會出場に 必勝を期せる獨乙サッカー 附最近の歐米ア式蹴球界

伯林にて 工藤一三

### 獨乙の大會の準備

昨年十月中旬ダンツヒでドイツア式蹴球協會會長選舉があつて十一月一日からフレツキス・リネイマン氏が新任することになつた。

當日の會議の席上で、更に本年度の國際オリンピック大會に派遣するドイツチームの豫算八萬マルクを可決した一行は三十五名の選手ミコーチャー(ドイツベルリン體育大學教師オットーネルツ氏)マツサージ師、蹴球會長附添ひ二

名といふ陣立であるといふ。

その翌日スエーデンのグスタフ・ルーベンスオソノ氏は、スエーデンでは選手派遣の費用三萬クロネの中、最後の一萬クロネの融通がつかみから本年度は參加を見合せるといふ聲明書を出してゐる、面白い對照ではないか。

ドイツに初めて蹴球協會が出来たのは一八七一年、それ以來一九二四年に至るまでに會員既に百二十萬、フェラインの數一〇三〇〇〇餘といふ夥しい數に達した。ドイツ體育協會に屬する部の中で會員

百七十五萬を有する體育聯盟に頗る大きなフェルバンドになつて躍進するものがある。

一九二八年度(即ち昨年の秋から今年の初夏に亘る)シーズンは九月第一日曜から全ドイツ國內一齊に開始された。日曜の午後三時からは蹴球場といふ蹴球場では何處もかっこも日曜の散歩を兼ねた見物が一杯であつた。しかし何といつても面白くなるのは、今年の

三、四、五月といふ頃である、其の頃には段々強いチームが幾つて來てドイツ選手権試合に力が這入つて来るからである。

一千九百二十七年の争覇戦は六月十二日ドイツ・ステオントで、ベルリンヘルター vs ニールンベルクの I.F.C.O.M. の間に争はれたが結果二対〇といふ成績でニールンベルクが勝つた、その日南方のニールンベルクからは應援が二萬人特別列車でやつて來たのでスタディオンは觀覧席を纏ぎ足すといふ大騒ぎであった。

### 選手権競技様式

さてドイツにおける蹴球選手権試合の様式をいへば、先づドイツ蹴球協會は全ドイツの七大フットボール聯盟の各個においてオーバーリーグアクラスのチームのリーグ戦を行はしめその勝敗率を査定して南ドイツ、西ドイツの二聯盟が

らは各三、爾餘の五聯盟からは各二、計十六チームを出させしめそれに勝抜き試合を行はしめた結果その年度の優勝チームを決定するのである。

そしてこの七大聯盟はまた各々所屬の各フェラインをこの實力によつて次の様に區別してゐる  
(イ)エチロクス。(ロ)エルステイクラス(ハ)リガア(ニ)オーバーリーグア

前記のドイツの選手権試合に、地方代表として出席し得る資格を有するチームはオーバーリーグアに屬するものののみで、リガア以下のものは無資格である、然し毎年度

の成績審査の結果、各級の一一番成績の悪いチームが二つ下の級にはいり、その代り下級のチームの方から最も成績のよいチームが二つその上の級に編入されるのであるから、今年ペチルクスに屬するチームも毎年一番成績がよくさへあれば四年後には完全にドイツ選手権を獲得する可能性を生ずるから決して悲観したものではない。

### 伯林で觀た大試合

私がベルリンに來て觀た一番大きな試合は二月二日ポストスティオントで行はれた伯林對巴里的ステイティッシュカントンだつた。この試合は歐洲戰亂前から行はれてゐる歴史的のものであるが、昨年試合方が三人の重傷者を出すほどの奮闘した甲斐もなく五対一といふ近年にない大きな開きをつけて敗れてしまつた、私は宛然日本のチームを見る様な氣のするパリ方に大いに聲援したが幾念だつた。

當日の景氣は實に素晴らしいもので、愈よ試合が開始されやうとして兩軍選手が一齊に軽足でフットボール内に現はれるご觀衆のブラー

ーの聲に和し嵐の様な拍手が起る、そのころまで會場の天空を飛翔してゐた飛行機は急に下け船をさして場の低空三十米位に下降しセンターラークルの真只中を目薦けて球を投じ去つた褐色の新しい球は心持ちの好い音をたて、灰色の空に跳ね上つた。始球式である

その以後隨分色々の試合を見たが一九二七年の大きなものといへば四月十八日のヘルター對ウルカーノの試合で結果は二対一でヘルタ

ーは前回のオリンピックの優勝國チームを一蹴してしまつた。

六月十二日は前記ヘルター對ニールンベルクのエンドスピール、六月十八日はヘルター對スペインのバルセロナの試合、これは四對二でヘルターの勝。バルセロナはスペインの選手権を持つてゐるチームだがヘルターにすつかり翻弄されてゐた。

本年度シーズンに入つてからはまだ大した試合もないがそれでも特筆しなければならぬものは、九月下旬ポストスティオントで行はれたセントラルユーワイツ(スイス國)對伯林の試合である、一對一で引分けだつたがセントラルユーワイツ方のゴールキーパーブルフナーの妙技は異彩を放ちヘルター側は手も足も出なかつたが、辛うじてオツサイドをズマかして一點を得たのである。

十一月六日には伯林對ストックホルムのステイティッシュカントンの試合、これも二対二の引き分けだが伯林側は一寸落ちた感があつた。

### 最近歐米の状勢

ここで一寸最近の歐洲ア式蹴球界を観いて見るのも無趣ではあるまい。

先づドイツではピックアップチームをスエーデンに送つたが三対〇で敗れデンマークには六対二で大捷した、何れも先方の首都に遠征したのである。

遠く南アメリカでは日下南アメリカの選手権試合を横行中でありウルガイ、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、チリ、ブラジルの諸國では本年度オリンピック大會出場選手決定の豫選の最中。

十月二十三日ブラーで行はれたチエコスロバキア對伊太利の試合は二対二の引分け、但しチエコ側の觀衆が伊太利選手のやり口に憤慨して伊太利選手を襲撃しよう

とし危く警官のために阻止された事なきを得たといふ、また十一月一日の巴里對ケルン(獨乙)のステイティッシュカントンは二対四でケルンの勝、同月巴里で行はれた巴里對ロンドンのステイティッシュカントンは一対一、昨年は三対二で巴里の負けだつた。

十一月六日には伊太利對オーストリアの試合は二対〇でオーストリアの勝、同月チュニシでスイス對スエーデンの試合は二対二で引き分けとなつた。

その他エナジーでは最近英國の職業選手を年額三百六十ポンドの報酬で十ヶ年間の契約で雇用し、大にア式蹴球を鼓吹せしむるといきまいてゐる。そして本年度のオリンピック大會には勿論出場する事である。

だが本場の英國からは多分チームをアムステルダムには送らぬことにならうと風評されてゐる。

これは幾分舊聞に屬するが露モスクワでは革命十周年記念といふ意味ばかりではなく、昨年八月例年より大規模の競技大會を擧行した、その時全露十六運動區轄の間に男女のバスケットボールとア式フットボールの兩争覇戦があつた。

本年のアムステルダムの大會には獨乙は全獨乙のピクアップ・チームで向ふこになり、既にその候補者も決定されてオットー・ネルツ氏指導の下に今や合宿練習の真最中である。

## 三度青師の優勝に歸した

### 關東中等學校蹴球大會

#### 各參加チームの寸評

清水芳介

昨年諒闇のために延期された關東中等學校蹴球大會(サッカー)はその第十回を、去る一月二十八、二十九、二月四、五、十一、十二日の六日間駒場農大球場および明治神宮競技場で舉行、光輝ある優勝旗は三度青山師範の得るところとなつた。以下大會を觀て感じたこと、頭に残つてゐることもを記して見る。

◇ 東京高校尋常科=人の和しいふことはチーム。ゲームに最も必要であるが、それが此のチームの特長であらう、そして技術も各人よく平均してゐたが、惜しいことに元氣が缺けてゐた。あれで元氣があつたならば本郷中學には勝つも負ける事はなかつたらうに。さうか今後フットボールの養成に一段留意あらんことを。

立正中學=一體に身體が大きくしてキツクもよく利いた。然しボールが少しもコントロールされず、折角キツクしても相手にまられてゐた。ゲームに馴れて居らぬ爲めかチームワークなく、それにまかいで技術を缺けてゐた。そしてワードは如何にしたならばゴールを得る事が出来るかを研究せねばならぬ。それにはゲームの数を多くして戦わせる事が肝要である。

獨協中學=よく戦つた。あの敗戦は結局は體力の相違の然らしむる所である。併しチャンスをつかむこゝが下手だつたが、原因はチームが若いこゝ、ゲームに馴れてをらぬこゝに歸着するのではないか。由來東京の中等學校は運動易に惑まれてをらぬ爲め、個人としては技術があるが、ゲームには實に弱い。

麻布中學=各人の技術にむらが多くつた。そのために折角のチャンスを失つた事は度々あつた。それに殆どチームの人總てがキツクが不確実であつた事、ワードのシュートが少かつた事が目についた。懲りをいふならばインステップの力強いシューティングの武器を會得して貰ひたい。

豊山中學=五中との對戦は實に息づまる様な接戦であつた。負けても堂々たるものである。パツシングを正確に、そして適當にロングパスとショートパスを使つて前進して行くこゝ、ボールをコントロールしてキツクする事が足らぬ様であつた。

神奈川師範=茨城師範にモーションが一步宛離れてゐた様であつた。ワードの進出を今少し機敏に思ひ切つてシュートをする事に留意されんこゝを茎む。

◇ 府立第一商業=第一に體力の相違が目に付いた。同時に走力が非常に乏しかつた。これが敗因の第一であつた。それにモーションも

遅かつた。走力の乏しいこゝ、モーションの遅いこゝはフットボーラーの最も苦手である。フルバツクのタックルは思ひ切つて勇敢にせねばならぬ。師範の兩ウイングに對してマークが足りなかつた爲めに自由に活躍さしてゐたが、ハーフの兩翼が常にマークする事が必要である。

明治學院中等部=ゲームの數が足りぬためか、今一步いふ所で何時も八中にしてやられてゐた。ワードのシューティングが足りぬからもつこ數多く行つた方がよろしい。

横濱三中=善戦した。師範の總てに對して少しも見劣りはなかつたが、幾らか意氣の方で壓せられてゐた様であつた。ワードのパスをち少し前に出す様にしたならば前進も速く樂に行く事が出来る。

不動岡中學=フルバツクのポジションが悪いこゝ、バツクの一つの任務であるタックルが餘り出来てゐなかつた。チーム全體としてスピードがない。得點の無かつた事もワードのスピードが缺けてゐる事に、原因があるこゝと思はれた。

◇ 赤坂中學=ゲームの數が少い様である、攻勢に出た時には陣容が亂れないが、一旦守勢となると混乱する様である。ワードの内インナーはバツクしても後の三人は攻勢に備へるために残つてゐなくてはならぬ、それから誰かがボールを持つて進む時に(味方の者が)他の者が邪魔をせぬ様にポジ

ションのチエンヂをする事が必要である。

横濱二中(横濱二中4-0立正中學)=スピードのあるチームで各ラインのコンビネーションもよかつた。對立正中の時はワードは非常に好調であつた。師範の時も最初二點リードしてゐたのであるからバツクの方で頑張つてを

ればよかつたのに惜しいこゝをし

た。かゝる際には兩インナーが常

に下つて來て防戦に力めた方が得

策である。

埼玉師範=往年の面影なく新進水海道中學に敗を取つた。餘りに自重し過ぎたのではなからうか。もつこ各人の活躍が望みたかつたそれに型にこはれ過ぎてはゐ

ないだらうか。バスやポジション

・チエンヂやシューティングにも

もつこ自由な所があつてほしかつた

さ思ふ。

◇

淺野中學(浅野中學1-0麻布中學)=偉大な體格の持主があつて氣強かつたがチーム全體にスピードなく、ゲームの掛け引きがなかつたのが對五中戦の敗因の大きなかつたをなしてゐる。五中との對戦の時は意氣なく呑まれた形であつた。基礎になる總ての技術が足りぬからその練習から進んだならばきつこ偉大なチームとなるこゝが出来よう。

東亞商業=意氣込んで思ふ存分活躍してゐた。チャンスも度々あつたがそれをよくつかむこゝが出来なかつた。バツクメンのキツクは良かつたがワードのシューティングを交ぜたならばよいと思ふ。ワードはも少しパツシングに脚のサイドキツクを用ひる様にしたなら

シングに各人のむらがあつた。一樣に力強いシュートが出來たならば勝負は逆になつたかも知れぬ。

ワードはよく活躍して衆目を惹いた様であつた。

◇

府立八中(府立八中1-0明學中)=ワードのショートが足りない。ペナルティエレア邊に來たならばざんざんシューティングにうつてよろしい。そしてウイングをもつて活躍さし他の三人がシュートする様にすればもつこ得點があつたらしい。對立正中の時はワードは非常に好調であつた。師範の時も最初二點リードしてゐた様であつたが前半戦にもつこ頑張ればスコアはもつこ小さかつたであらう。

城西學院=最初から終りまで元氣でゲームをしてゐた。これが伸びる所には兩インナーが常に下つて來て防戦に力めた方が得策である。

埼玉師範=往年の面影なく新進

水海道中學に敗を取つた。餘りに

自重し過ぎたのではなからうか。

もつこ各人の活躍が望みたかつた

それに型にこはれ過ぎてはゐ

ないだらうか。バスやポジション

・チエンヂやシューティングにも

もつこ自由な所があつてほしかつた

さ思ふ。

本郷中學(本郷中學3-1赤坂中學)=元氣あり、スピードのあるチームであるだけに何時もきびきびとしたゲーム振を見せてゐた。ライフルバツク、ライトインナー、センターハーフはよく戦つた。攻勢に出た時ハーフの前進がワードに遅れた時が度々あつた。師範のゲームの時はフィールドが悪くて泥濘に馴れて居らぬ爲め隨分苦戦をしたやうであつたが、そんな時にはツキツクをしないゴールが進まない。

◇

水海道中學(水海道中學1-0獨協中學、水海道中學3-1埼玉師範)=大きな身體の持主の揃つたチームでそれが他のチームより一步優る所であつた。バツクシングにロングパスとショートパスを交ぜたならばよいと思ふ。ワードはも少しパツシングに脚のサイドキツクを用ひる様にしたなら

ば確實にあらう。一般にパツシングが不正確で殊に五中とのゲームの時に目に付いた。

栃木師範(栃木師範5-1府立一商、栃木師範5-0府立八中)=スピードあり體力ありそれにキツクがよく利くので優勝候補と目せられてゐたのに茨城の時には餘り自重し過ぎたのか今までの調子が少しも出ずに終つた事は残念であつたらう。それと前二戦に調子を出し過ぎて疲労が出たのかワードのパスは泥濘の時には大き過ぎる位で丁度よい。矢張りツキツクが必要である。フルバツクの防戦のポジションが悪くハーフのゴールのカバーが足りぬ。出来るだけ強いチームでゲームをして研究するこゝが肝要である。

浦和中學(浦和中學3-0不動岡中學)=辯の無い伸び伸びしたチームである。身體のこなし方、キツクフォームも皆よく、技術は相當よかつた。フルバツクの守備とコンビネーションは大會中の花であつた。ワードがも少しシュートが利いて得點するこゝが出来たならばもつこ良い成績を収めたであらう。フルバツクと共にセンターハーフ、センターワードはよく活躍した。

府立五中(府立五中2-1豊山中學、府立五中6-0淺野中學、府立五中4-1水海道中學)=ゲームの數を加へる毎に實力を表はして對水海道中學の時は實に調子よく此の調子が師範の時にも出たならば優勝出来ると思はれたが、一フワードコンディションが悪い爲に見る事が出来なかつた浦和のフルバツクとこのチームのフルバツクは實によく活躍した。蓋し大會中第一であらう。

對水海道中の時はワードの前進に連れてハーフの進出に次ぐにフルバツクの占めるポジション。ウイングとインナーとハーフまたはセンターハーフのトライアングルバランス。ハーフのドリブルのワード



關東中等學校ア式蹴球大會青山師範對茨城師範兩チームの優勝戦

The Aoyama Normals and the Ibaraki Normals play the final game in the Kwantung Intermediate School soccer tournament.

左  
ペ  
ン  
カ  
ウ  
フ  
ブ  
く

のチエンダ等皆模範的であり、パツシングも正確であった。ハーフは時々相手のゴールに向つてチャージボールを送るこが必要である。對青山師範の時は氣を呑まれてゐたのかモーションが一步宛星れてゐた。

静岡師範（静岡師範2—1横浜三中、静岡師範4—0城西学院、静岡師範2—1浦和中學）=センターハーフ、センターフォワードはともに活躍してゐた。このチームも身體の大きい人が多く、相當にスピードがあつた。ワードのパスも中々味な所があつた。攻勢の時のハーフの進出は良かつたが防戦の時のゴールのカバーにフルバックと呼吸が合はぬ時があつた併し今年のチームは前年出場の時から見るご格段の強味があつた今一步さいふ所で惜しい敗をした捲土重來を望む。

茨城師範（茨城師範2—1神奈川師範、茨木師範3—1東京商業、茨城師範2—1栃木師範、茨城師範1—0静岡師範）=意氣元氣のチーム併しまだ技さいふ方面に未完全の所がある。優勝戦の時前半によく戦つたのであるから後半に技を以て戦つたならばより以上の成績を收め得たと思はれる、が前半に餘り元氣を出し過ぎた感があつた、ハーフもワードも共にセンターが光つてゐた。兩翼のハーフは相手のサイングにマークするこが必要である。ライトハーフは守勢に出た時に相手のマークを疎かにしてゐた様であつた。ワードのシユーティングが遅い。センターはドリブルしてボールをさばくのであるから、インナーはパスされたボールをその盤シユートするこが最も大切である。

◆

青山師範（青山師範3—2横浜二中、青山師範4—1本郷中學、

青山師範2—0府立五中、青山師範2—0茨城師範）=三度優勝した此チームは傳統的な強味がある。そして只蹴るさいふ許りでなく、味のある技術を多分に持つて來た。その上に力強いシユーティング、それがワードの誰からもされ、又時にはハーフからも送られる。之れが此のチームの強味とする所である。センターハーフは身體がよく利きよくボールをセイフしてワードに送つた。またレフトインナーはよく味方の危機を救ひ、プレーが確實でモーション早く、スローインのボールを非常に巧にサイングに出してゐた。兩サイドのドリブルキックは味方のチヤンスをよく作つて魅味なプレー振を示した。たゞフルバックは前方から来るボールのキックはよいか横に少し弱く、ボールをコンドロールしてキックするこが必要である。そしてタックルが餘り貧弱であるから研究問題としてタックルの上達を希望して置く。

各チームに対する所感は終りとして、全體に對してコーナーキックを研究してほしい。コーナーキックは最もよいチヤンスでありながら未だ等閑に附せられて居る今大会ヨーナーキックの數は澤山あつたが成功したのは一二しかなかつた。それから中學チームは元氣意氣の養成、師範チームは技術の鍛錬を望む。猶パツシング（正確な）さいふ事はゲームの上から當然起り得る一つの要素であるが、オフサイドのシステムが異つて來たのであるから、ドリブルさいふ事が必要になつて來た。此の練習も専却されざらんこを望む。



一月十四日英國ロンドンのハイバレーにおいて舉行のアーセナル対ウェスト・ブロムウヰッチャーピオンの蹴球戦は零対二でアーセナルの勝に歸した。眞寫は敵襲を阻止するアルビオンのゴールキーパーがレフト・バック

Arsenal VS. West Bromwich Albion foot ball game at Highbury, London, Jan. 14th. Arsenal won by 2 to 0. Photo shows Albion's goalkeeper and left back stopping an Arsenal attack.



三月廿五日から五日間本郷中學球場で開かれた大日本蹴球協會主催の第一回練習會  
First practice meet at Hongo Middle School ground, under the auspices of Japan Football Society for five days from March 25.

S 3-4-15



英國ワールウキッチアーセナル対ストークシティのサッカー試合は三月三日ロンドンのハイブリーで舉行寫眞はコーンナキックからの球をストーク方選手が巧みなヘッディングをしてゐるところ

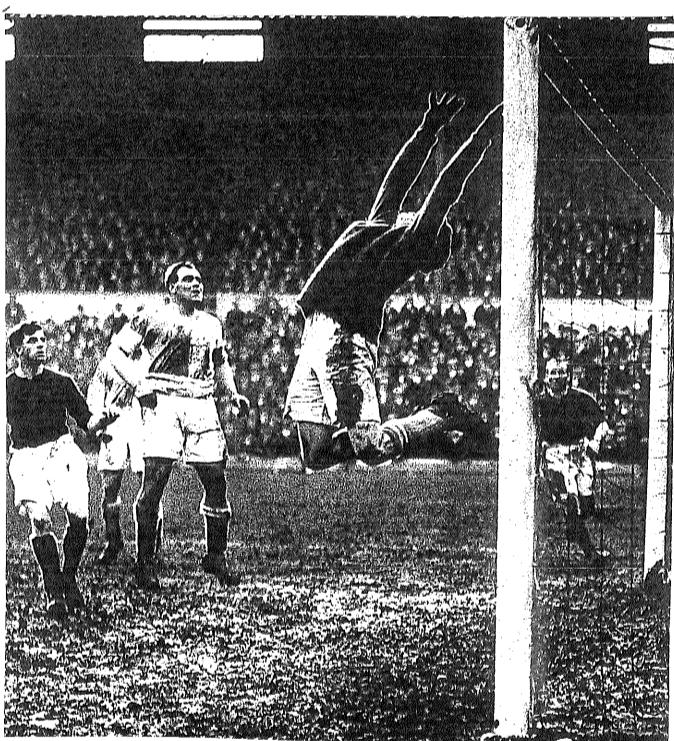
Association football. Woolwich Arsenal vs Stock city at High bury, London on March 3rd. Photo shows Stoke heading clear from a corner kick.

S 3-4-15



英國コリンジアン対クインズパークの蹴球戦は五対一でコリンジアンチームの勝となつた  
寫眞はコリンジアンのゴールキーパーが敵方の襲撃を撃退するところ

Amateur football: Corinthian beat Queens Park by 5 goals to 1, at Crystal Palace. Photo shows H. Baker, the Corinthians goal keeper, foils an attempt by W. G. Nicholson the outside left (Queens Park)



S 3-5-1

英國アーセナル対ブラックバーン・ロバースのア式蹴球戦  
写眞はブラックバーン・ロバースのゴールキーパー  
クロウフォード君がバーとすれすれにシュートされた球に向つて飛び上つたところ

Football sensation, Arsenal vs Blackburn Rovers. Crawford (Blackburn Rovers goal keeper) jumps and steers a shot over the cross bar.



S 3-5-15

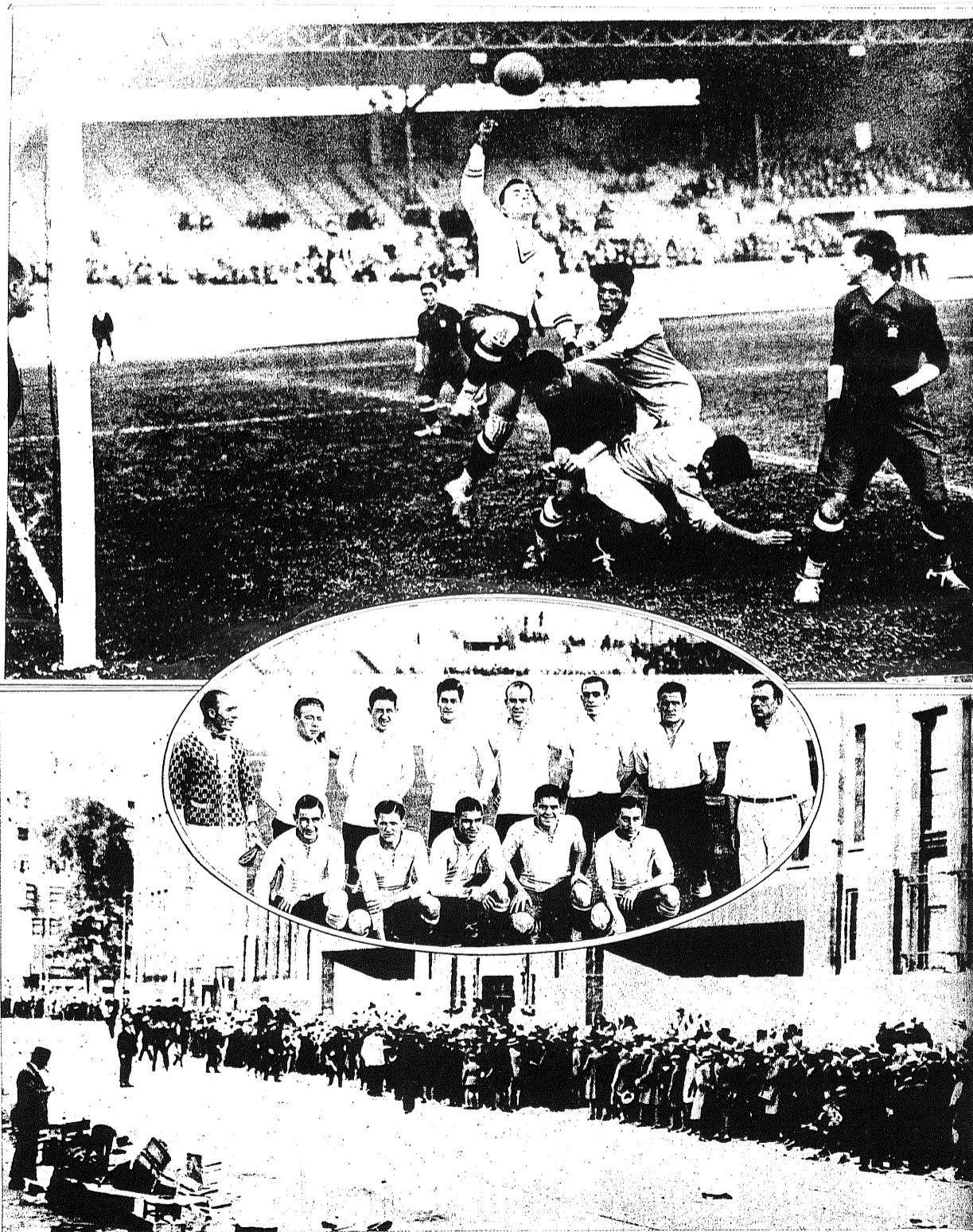
S 3-6-1



九萬の大観衆を集めた英國アソシエーション蹴球決勝戦。四月二十一日ウエンブリーで舉行。ブラックバーン・ロバースは三対一でハンバースフキールドを破つた(右)米國ペンシルベニア・アスレチッククラブ員の妻君連は日々クラブの漕橈機で腕ならしをしてゐる。

Left: The Association Football Cup final, played at the Wembley Stadium, London, on April 21st. Record crowds, over 90,000, rush to Wembley. Blackburn Rovers defeat Humbersfield 3—1. Right: Wives of the members of the Pennsylvania Athletic Club take their daily workout on the rowing machines at the club.

S 3-7-15



国際オリンピック大会の蹴球戦は六月二十七日からアムステルダム競技場で舉行。本年度もまたウルグアイ國の優勝するところとなつた寫眞(上)は葡萄牙對智利の試合で四対二で葡萄牙の勝となつた。中はアメリカを破つたアルゼンチンチーム(下)は和蘭對ウルグアイ戦當日切符賣場に殺到した七萬の大觀衆

Football at the Olympic Games, Amsterdam. Top: The series starts on June 27 with a game between Portugal (4) and Chile (2). Center: The Argentine team, which defeated America. Bottom: A part of the crowd of 70,000 that packed the stands for the Holland-Uruguay game.

S 3 - 9 - 20



第9回 オリンピック（オランダ・アムステルダム） フットボール優勝のウル ガイチーム

S 3 - 10 - 1



英國に於けるア式蹴球のシーズン開きは八月二十五日チエルシー対スワンシーの試合によつて開幕した

Association foot ball season begins Aug. 25th. A Chelsea  
defender fails to stop a Swansea forward's flying kick.

# 高師の蹴球大會

## 各校の技倆接近す

東京高師 後藤 岩男

最近蹴球界の目覺まし進歩と共に、中等學校のティームの技倆の差が逐年縮められたために本年舉行された高等師範主催の第五回全國中等學校ア式蹴球大會は實にエキザイティングの試合が多かつた。從來は參加ティームの技倆を三つか四つのクラスに分類出來たものが本年は、どうしても二つのクラス以上の分類は不可能といふほどに接近して來てみた。即ち東京府立五中、水海道、曉星、成城高校尋常科、獨協、附屬中學、横濱二中、浦和、湘南の實力は殆ど相匹敵するもので本年の分類の第一部に屬すべきものであらう。その外に不動丘、松山中學、横濱三中、本郷中學、目白中學、熊谷中學、札幌一中等も相當の實力を持つてゐたティームであるが惜しいことには試合數の不足のために老巧味乏しく勝を制することが出来なかつた。

しかし斯くの如く各ティームの技倆は接近してゐたが、その試合方法においては特に進歩したティームを見ることが出来なかつた。一體どんなボールも目的なしに蹴るものではない。然るに本年の大會に於いてはティームの殆ど全部がただボールを前方に大きく蹴り合ふ試合をしてゐた。大きく互に前方に蹴合つてゐる間に得點しやうと考へるのは、敵方のミスを拾つて得點しやうとすることであつて有意的攻撃方法といふことは出來ない。もう少し小さいパスで、有意味に攻めて行つて得點するといふ様な方法でなくてはならないと考へる。大きな球を互に蹴り合ふといふのは、幾分應援團につられてゐるのであつて、元來應援團はその如何なるボールがよいか悪いかについては全然無智であるといつてもよい。その應援團がほめるボールといふのは只敵方に大きく高く蹴つた時であつて現に應援團の多かつた豊島、青山兩師範戰や、附中對五中の決勝戰における戦法が此の大きいボールの蹴り合ひ戦

は實に偉とすべきである。全體を通じて五中の方が戦に敗れたといへ美しい技術を有して六分の強味を有してゐたことは見物人の誰れも認める所であつた。兩ティーム共に都の優秀なる學校の選手だけあつて、その蹴り方が實に無邪氣

であり、氣持のよいものであつた特に相手方に怪我でもあると率先して見てやつてゐる所はそのいぢらしさに感激してしまふほどであつた。特に五中の選手においてこの感を深くした。かうした美しい無邪氣な試合を先輩や應援團といふものゝためにみにくくする様なことがあつては遺憾であると思ふ。

熊谷中學、目白中學、不動ヶ丘、本郷中學、水戸師範等の各學校が猛烈な勢で強くなつて今までの強豪にぐんぐん肉薄して來たのは目ざましい。更に一層の切磋を望んでやまない。

であつたのは正に此の戦法と應援團との關係を物語つてゐるものではあるまい。眞にショート・パスの試合をしたのは湘南と浦和の試合位のものであつて、他は殆ど敵方のミスを拾はんとした試合、即ち大きいボールの蹴り合ひ戦であつた。元來バッシングは必ずしも立派らボールを送る必要はなく、有効に目的的所に到達すればそれで十分足りるのであるから、あまり力を入れたり固くなつてパスする必要は少しもないはずである。然るに本年の大會においてはティームの全體のパスが實に齒が少い、ほとどのものであつたことは大に改良の餘地ある點があると思ふ。それから全體の試合が實に亂暴であつた。これは若い少年が生氣溢れての試合であるから止むを得ないかも知れないが、もう少し元氣よくしかも静かに試合して欲しいものである。スポーツマンシップといふことは與へられたる條件の範圍内で堂々と勝を争ふことで、その與へられたる條件を越えて不正の勝を争ふことではない。

◇  
第一部(中學部)の准々決勝戦ごろからはその何れのティームの實力も殆ど伯仲してゐるために、實にエキザイティングな試合が多かつたが、その代表的のものは五中對附中戰である。附中は昨年に比してその實力が低下してゐるといはれてゐるが、それに加ふるに驍將大鷲と大鷲の缺員のために實力はずつと落ちてゐて、C H花井、R H増田、F C新宮、R F三輪田、R W下等がんばつてわづかに往年の名譽を守つてゐた。これに反して五中は主將小峰に率ひられた各メンバーズが何れも揃つた技倆を有し、加ふるにO H松浦が全く敵の攻撃を封じてゐたため、ゲームは附中を常に壓迫してゐた。五中のO H松浦は浦和のハーフセンターと共に實に本大會の明星であつて、附中の老巧F C新宮を封じてその活動を不十分たらしめたの

◇  
第二部(師範部)におけるこの兩ティームは中學部の五中附中戰の如き感じのよい試合ではない。元來師範ティームには中學ティームとは異つた妙に固いぎこちない所があり、その戦法も著しき肉彈戦が多い。青山豊島の戦はその代表的のもので、豊島は春のリーグに優勝以來十分の練習をつんだためか、そのコンビネーションにおいて立派な所があり、強敵青山を二対零で倒したもの、青山のハーフ・バッヂの弱味につけこんで藤田、小山、向井のフォワードの連絡がよくそれに加ふるに疾く固いハーフを持つてゐたためである。一方實力のある晴柳に卒勝した柄木は初めから意氣が充實してゐた。二対零で前半に負けてゐた埼玉に後半に三點を得て勝つた此のティームの意氣が又豊島にどれだけ肉薄出来るかは面白い問題であつた。比較的體力のない此のティームが少くとも攻勢に出た試合をしてゐたのは、此のティームの攻撃法がよいのであつて、もう少しショート・パス・システムによつたならもつと樂な試合が出来たであらう。此のティームには又足をあける悪いくせがあるので危險であるから止めなければならない。兩軍とも實によく蹴るが此の大きな蹴り方としかして筋道的に肉彈戦をやめたら實に美しい試合を見せ得る事と思ふ。柄木があれだけ攻めてみて、もう少しでタイム・アップといふ所でもろくも敗れたのは、來年の重要な考究點を残したといふべきである。

# 全日本ア式蹴球選手権大会

## 全試合を通観して感じた事ども

大日本蹴球協會 千野正人

第七回全日本ア式蹴球選手権大会は、秋晴れの十月二十七、二十八両日、關東、東北、東海、北陸、京阪、中國の代表七チームを集めて、神宮外苑競技場に舉行された。各チーム何れも極度に緊張し、肉彈相打つ好ゲームは、斯界最近の發達を十分うなづかせるに足り、或る力強い何物かが、印象づけられたことを確信する。戦跡その他一般経過に就ては、既に新聞紙の詳細に報道せる所なるを以て、之を省略し、車見の二、三を述べて、先輩諸兄の教示を仰ぐこととする。

戦士一人の有機的に結合したプレイがないため、個々のプレイの断續に過ぎない感じがして非常に目まぐるしく思つた。之は、表面的に謂へばフォワード、ハーフ及びフルバツク相互の連絡統制がなく、個別的乃至個人的なプレイの徒に多い結果であり、内面的にはプレイヤー相互の諒解が不十分な爲か、チームそのものに系統闇の様なものもあるせいか、或は又明確な一定のシステムがない結果だらうと思ふ。京大及び廣島高校のチームにおいて、特にその感を深くした。コンビネーションがア式蹴球の生命であるといふ原則に變更のない限り、斯うした傾向は最も忌避すべきもので、一日も早く除去され度いものである。

コンビネーションの中心をなすものは、勿論ハーフであつて、その位置及び活動は大に今後研究の餘地があり、從來我が國のシステムに對して一大變革の來るべきことを想像するに難くない。此點、早大のハーフには、他者の大に参考するものがあつた。フォワード、ハーフ、及びフルの各線が、從來のポジション論に拘泥して、固定した任務のみについてゐる限り、プレイは自然斷片的なものになつて、ゲーム全體の進展は到底期し得られない。勿論ポジションの重大なることに變りはないが、各線の關係がもつと密接したものでなければならぬ。

從つてフルバツクも、防禦の任務のみを持つといふ從來の考へから、一躍して積極的に幾分攻撃的な位置に立つことが、今後の傾向とならう。チーム全體の眞の活動を完成する爲にも、フルバツクの前進が今少し必要ではあるまい。

限られたタイムに對する精力の使ひ方が、餘り無視されてゐる様に思ふ。定めた時間中に、如何に有効にその精力を使ふかといふことは、この種の大會では特に必要で、勝敗の數を支配する一大要素である。全試合を通じ後半は疲勞による凡失凡勝が非常に多くて、ゲームの白熱化する割合に技巧が表へ、セオリーが無視され勝ちになるのは、こゝに歸着するものと信ずる。在英諸多君の通信によれば、英國では『時間に對する精力の使ひ方』が非常に考究されてゐるやうだ。無駄なキック、無理なパスは結局精力の浪費であつて、合理的なプレイ、滑らかなコンビネーションの必要をこゝにも痛感するのである。

スピードとは無暗に走り、矢張

に突進することを意味するものではない。巧みなコンビネーションに依り、時機を得たパスを以て、シウティング。ポイントを握むことでなければならぬ。近來我國ではスピードを望むのあまり、個人的なプレイや無理なパスが多くなつて、個々のプレイに確實味がない。その結果、折角ボールが進んでも、ゴール前では行詰まつた形となり、徒に敵のフルやキーパーに球を獻上してゐるに過ぎない。

目前一、二の敵を外づさうとして進み、行詰まつてからバスをする、自然バスに対する時機が悪く且不正確となる、從つてゴール前で行詰まる。斯うしたプレイは結局精力の浪費であつて、スピードがあるとはいひ得ない。

敏捷なプレイ、軽快なプレイは誠に結構ではあるが、餘りその方面に墮して、足や腰の踏張りが足りない。從つてよく轉ぶ、よく脚下をボールが抜ける。全身、殊に腰を使ひこなしたキックやタックルの少いことを痛感した。再び足だけのプレイに逆戻りしてゐるのではあるまい。之もスピードを望む餘りの弊害かと思ふ。

全試合を通じ、合理的にして確實性のある得點が甚だ少かつた。多くは個人的な、二のプレイが、敵に乘じて偶然成功した様に見受けれる。これはかたくなつた爲でもあらうが、勝つこと進むことのみに焦りて、滑らかなコンビネーションや合理的なフォワード・プレイのなかつた反證であつて、從つて鮮かなフリー・シウティングの得點が見られなかつたのである。

ゴールズメンの制度は今後全廢したいものである。この制度を設けるに至つた本來の趣旨は、勿論インスペクターとしての意味からではあるが、現在では餘りにその権限が擴大されてゐるやうに思ふ。コーナー・キックやゴール・キックの判別に積極的な態度をとつたり、ゴールインまで幾分ゴールズメンに依つてジャッジされてゐるが如きは、無意識に行はれつゝある。

序でながら、プレイヤーの服装について一言し、斯界の注意を喚起したい。例へば手拭を首に巻いてプレイする、これ等は餘りに無作法、餘りに不體裁ではないか。無意味な鉢巻や帽子も追々廃止することゝしたい。カラースの袖を長くたらしてゐることも、ハンドその他におけるレフエリーの判断を妨ぐるものであるから全廢しなければならぬ。かうしたゲーム以外の問題についても、或程度までレフエリーの権限において、禁じ得るものと思ふ。

条文の解釋に餘り拘泥し過ぎることゝ、極東大會その他で公正と思はれない外人レフエリーの下にゲームを行つた從來の経験上、我國のオフサイド・ルールは、いやに堅苦しく難解なものとなつてゐる。オフサイドを見逃さずにつけることをもつて、レフエリーの不明を云々する傾向が、傳統的に持続されてゐるが、この點一考を要する。

する問題ではあるまい。オフサイドの位置にあつても、全くプレイに關與してゐない、又は出來ないプレイヤー、例へばレフト・サайдで競技されてゐる場合これに何等關係なきライト・ウイングのオフサイド、又はバツクしつゝある時のフォワードの位置についてほ、オフサイド・ルールの適用を不需要に思ふ。

オフサイド・ルールについては色々な見解もあり、場合々々について別個の判断が下されるから、これを一概に寛大にせよと論じ去る譯には行かないが、しかしチャージもしなければ、相手を妨害することもない場合には、オフサイド・ルールを適用しないのが、本ルールの眞の精神ではあるまい、と思考する。

善戰廣島高校を破つた慶大チームが、あつ氣なくW.M.Wに敗れたのは、疲労のせいもあるうが相手方ハーフに對する研究の不十分であつたことを痛感する。フォワードに一ヶ所の缺陷があつたためか、從來の様な鮮かなフォワードプレイがなく、シウティング・レンヂが狭くしかもチャージの皆無だつたことは、来るべき早慶戦までに何とか對策が講ぜられねばならぬ。ハーフとフルのコンビネーションが非常に悪く、却つてキーパーを犯してゐた様なことはないか。今少し積極的な戦法を

とつて、その優秀なフォワードを後援する必要があらう。比較的體調に悪まれてゐないこの種のチームでは、個々のプレイを正確に滑らかなコンビネーションによつて、ボールを一ヶ所に停滞せしめず、常にオープンなゲームをすることが肝要だと思ふ。

東北大學、名高工の兩チームはその歴史が新しいだけに多くを望み得ないのは當然であるが、變化のない型はまりのプレイであるため、その弱點に乗せられて敗れたのである。今少し立派な體調を利用することも必要と思はれる本大會唯一の中學チーム神通中學は、相當よい素質を持つてゐる様に思ふが、北國の雪に埋もれて、相手がないだけに、テクニツクやセオリーに巧味がなく、しかも呑まれ氣味で、中學チームの特有の元氣がなかつた。かうした機會に多くの参考を得て、他日の大成を望みたい。唯、長途遠々大會に参加した意氣と熱とを、大に多とて衷心欣快に堪へない。

ア式蹴球は英國の國技である。英國の偉大なること、その國民性の堅實なる事を説くものは、先づその教養の一機關として、到底このア式蹴球を見逃す譯には行かぬ。これは體育上にも、精神上にも、且また運動そのものの、趣味の上にも多くの長所特質を有するからである。然るに我國のア式蹴球界が、相當に古い歴史を有しながら、今日一向不振の状態にあるのは何故であらうか。それは、從來中等學校、師範學校の運動としてのみ局部的に變則な發達を爲し、大學、専門學校級の活躍を見ずして、一般觀衆の注意を促すに至らなかつた結果であらう。

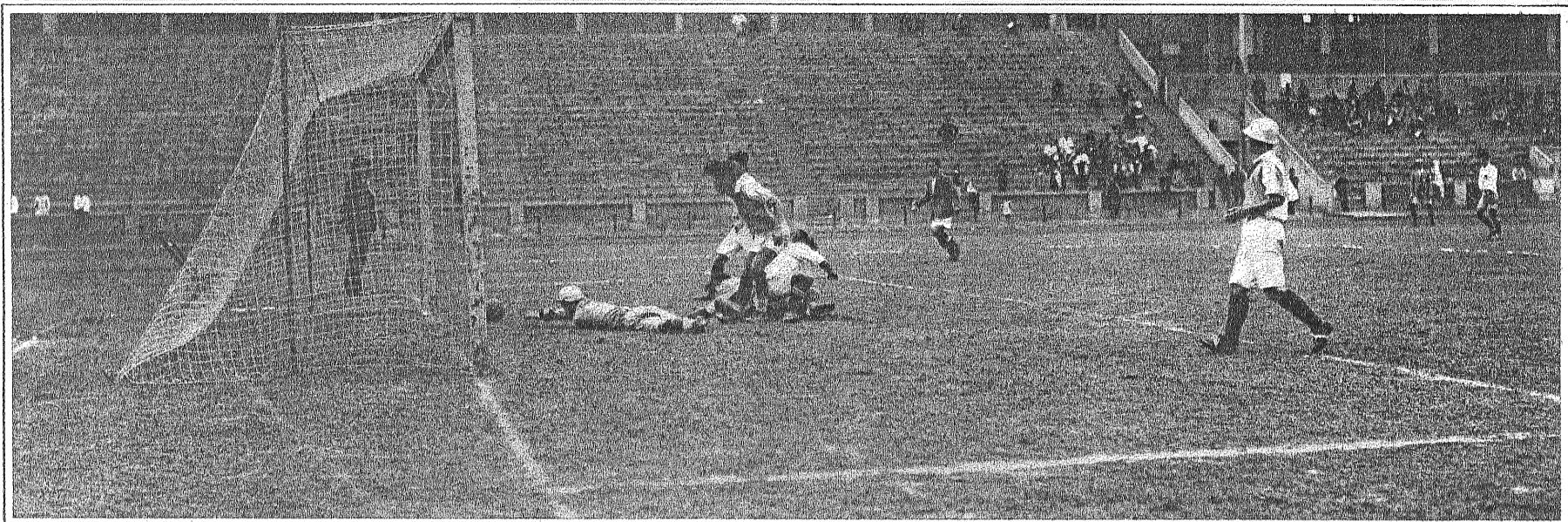
斯界の過去を三期に分つて考ふるに、第一期は中等學校のフットボール時代であり、第二期はクラブ・チームの旺盛時代であり、第三期即ち現在こそは大學、専門學校級の活躍時代である。内容の充實、眞の發達は今後にあることを繰返し叫び、一般同好者の協力一致、以て斯界の發展に貢獻せられんことを希望して擱筆する。

一昭和三年十一月五日稿



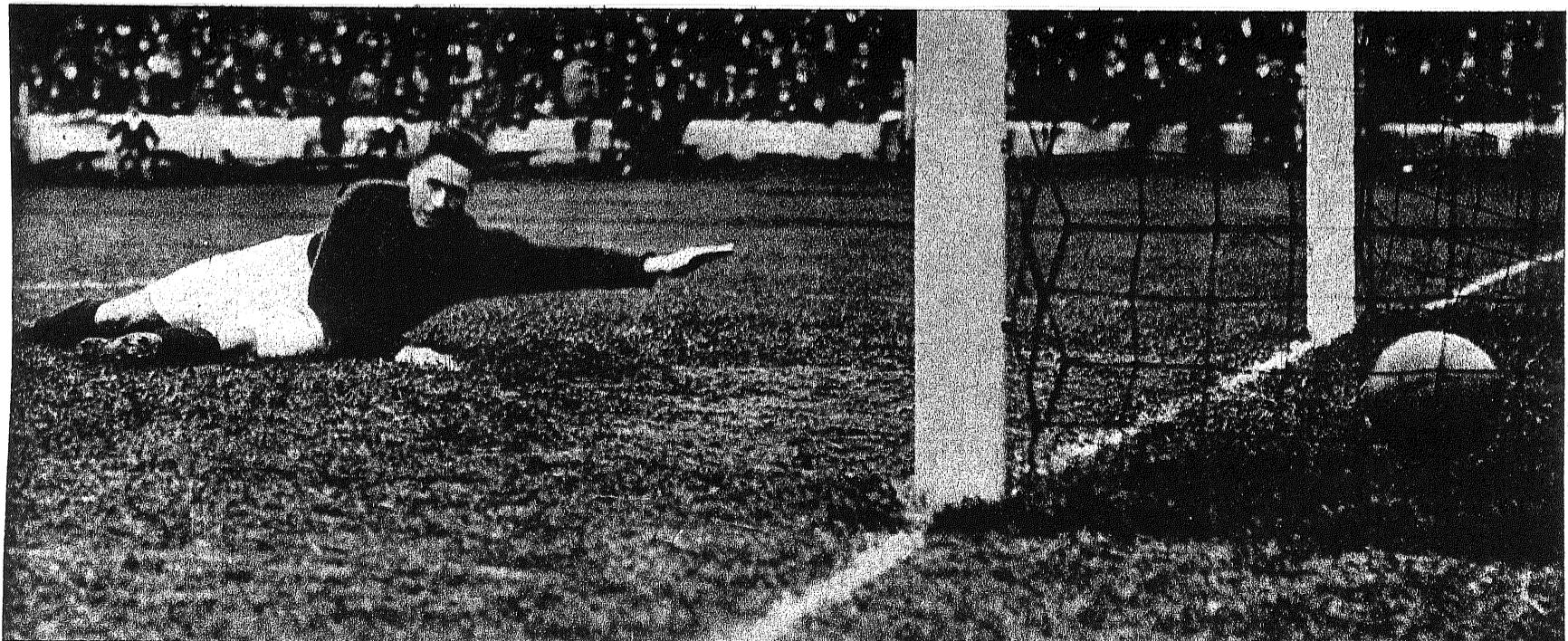
全日本ア式蹴球大會京大早大の決勝戦早大後半二度目のゴール

Waseda making her second goal in the second half of the final game against Kyoto U in the All-Japan association football championship series.



(上) 全日本ア式蹴球選手権試合は十月二十七、八兩日神宮外苑競技場で舉行、早大チームが優勝した。寫眞はその准決勝戦早慶の對戦で早大が得點する刹那 (下) 十月二十六日舉行の帝明ア式蹴球戦帝大側の襲撃

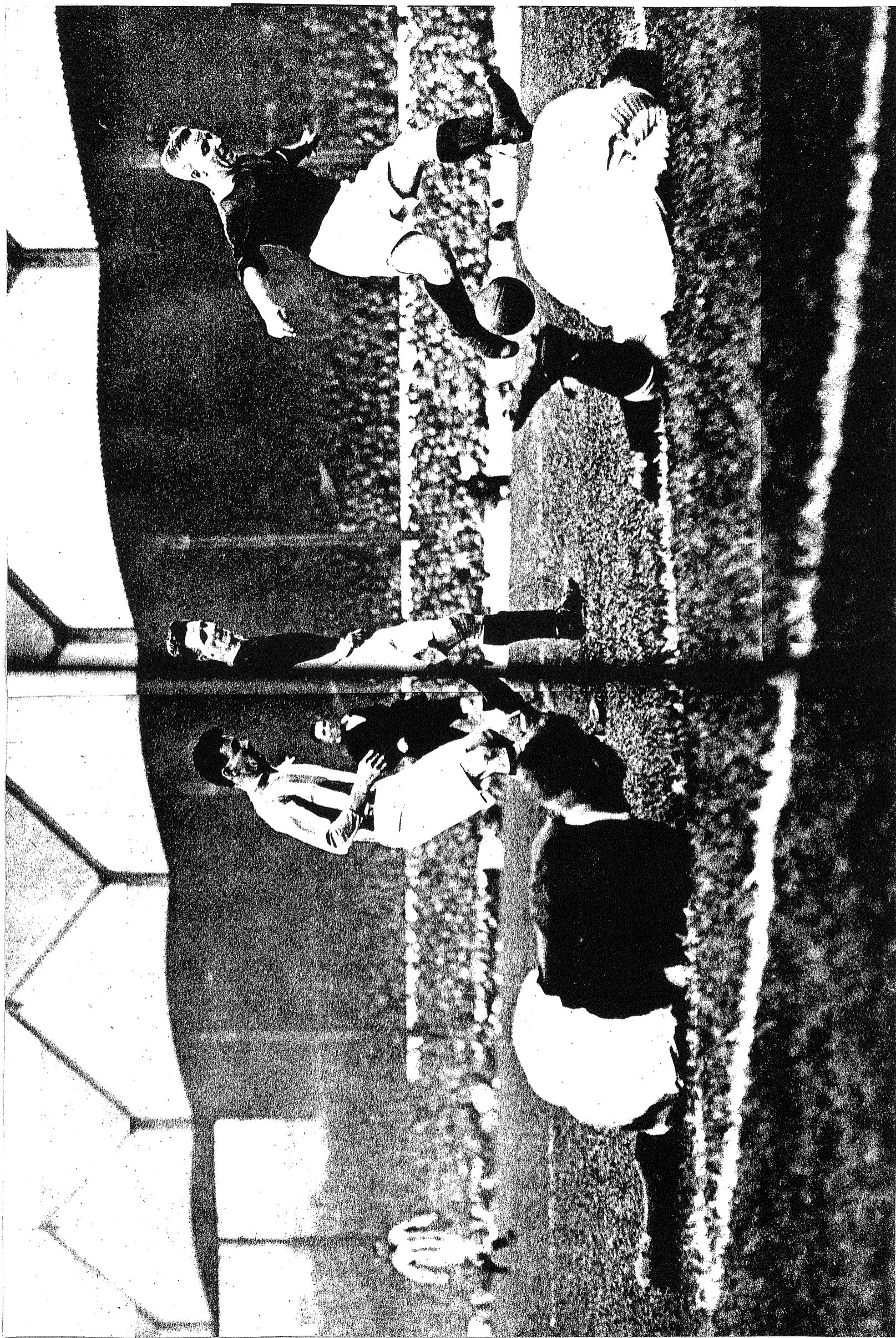
Top: Waseda making a goal in the semi-final game against Keio in the all-Japan association football championship series played at Meiji Shrine October 27 and 28, in which Waseda captured the championship. Bottom: Tokyo U attacking in her game against Meiji.



九月十五日英國スタンフォードブリッジで行はれたチエルシーアーティームとバーンスレーチームとのサッカー戦は〇対一でチエルシーの勝となつた寫眞はチエルシーの算き一ゴール

Chelsea making the only score of the 1-0 association game at Stamford Bridge, England, in which they defeated Barnsley September 15.

S 3 - 11 - 15



九月二十九日英國ロンドンのハイブレーで行われたアーセナルチームハッダースフィールドのサッカー試合は二戦でアーセナルの勝となつた高須ハッダースフィールドの  
ジャッソン君がアーセナルのゴール附近に着実したところ

The Arsenal association football team defeated the Huddersfield team at Highbury, London, September 29, the score being 2 to 0. Photo shows Jackson of Huddersfield rushing near the Arsenal goal.

S 3 - 11 - 15

# 上海に遠征した東大蹴球部

## 氣持よくプレイした二試合

東大ア式蹴球部 中 島 實

我等東京帝大のア式蹴球部の一  
行が、上海に行つて先づ氣がつい  
た事は、すべての空地には必ず  
ゴールがあり、五六歳の小兒から  
中年の紳士に至るまでが蹴球を樂  
しんでゐることである。

上海における蹴球は、かくの如  
き環境に恵まれて上海蹴球協會の  
直接管理するリーグに加入せる、  
相當有名なチームだけでも三十一  
に達し、それを東京のカレッヂリ  
ーグと同様の組織により三部に分  
つてゐる。

今春來朝せる交通大学チームは  
このリーグの第二部の中位に位す  
る強さを有するものゝ由である。  
我等が行つた十一月三日の試合の  
對手チームはリーグ第一部の中、  
上海駐屯英國陸海軍兩チームを除  
いたチームからピックアップせら  
れたものであり、貞四日のチーム  
は海軍四人陸軍七人より成るもの  
であつた。不幸にして雨天の爲中  
止となつた八日のチームは英國軍  
艦チームである。これらは何れも  
我等を迎へる爲に特に組織せられ  
たもので、その母體は皆第一部所  
屬チームである。

△ △

三日の試合はスタディアムにお  
いて午後三時、上海のキックオフ  
に開始。はじめは、全體としてス  
ピードおそく、二三回ゴール前に  
押寄せたことはあつたが、大した  
ことなし。十四分、英L・Wのセ  
ンターしたのを岸山ヘッドに返し  
たが、近藤が飛び出したときに、  
L・Iきおいなロツビングに先づ  
得點。後、ハーフタイム一分前、  
鈴木右ヘロングパスするを春山中  
へ返し、篠島ヘッディング、一點  
を報う。

後半八分、篠島ドリブルに見事  
一點を入れ、しばらくは帝大リーグ

したが、この頃より上海軍やう  
やく調子を出し、スピードある面  
白いゲームとなる。

十六分、英R・Wフルスピード  
にてドリブルし来るを岸山防いで  
コーナー。キックとなる。この時

ボール破れて、新球と交換され  
た。もし、世人のいふ『前兆』とい  
ふものが現實にあつて、それを信  
じてよいものならば、このボール  
のパンクこそ、その日の帝大にと  
つて、正にそれであつた。

この前、上海軍はL・IとC・  
Fを交換し、L・Iの長身を利し  
帝大軍のジャパンビング。ヘッドの  
利がない様なボールをゴール前に  
運ぶ作戦に出たらしかつた。この  
コーナー。キックをC・Hヘッデ  
イングにてC・Fに渡し、軽く當  
てゝゴールイン。

上海軍の攻撃はよい物凄く、  
G・K近藤の美技に帝大やうやく  
危機を脱することしばしばであつ  
た。前述の敵の作戦とポジション  
に慣れるにつれ、成功したわけ  
ある。

二十二分、英L・Wよりのバス  
を受けて、R・Wシュート、ゴー  
ルインし、英軍再びリードす。續  
いて、ブレース・キック直後、英  
C・Fヘッドにてまた點を加ふ。  
更に引續き、C・H三十七ヤードの  
距離からゴールの右隅に跳込み、  
五対二となる。

帝大奮起し、左側より攻めるこ  
としばしばあつたが、三十四分  
鈴木のバスを受けた高山好ヘッド  
にやうやく一點を取いたのみ。審  
判、ホーキンス氏。

帝大 鈴若篠高春大竹瀬岸船近  
木林島山山町腰藤山崎藤  
F H F G  
W B K  
スクマシフコガボウリウ  
トルソングツトイ  
1チクアスシハル1イ  
クヤカレバシソリ  
スルアコタユトンドス

△ △  
四日の試合は同所において午後  
三時、帝大のキックオフに開始。  
前日の苦戦にも拘らず、帝大軍な  
ほ元氣と清新さとを持つてゐる様  
に見えたが、開始後三分ハーフよ  
りのバスを受けた英L・W駿足に



英國上海駐屯軍サッカーチームと東京帝大チーム  
The Shanghai British Defence Force and Tokyo U soccer teams.

任かせてコーナーに運び、L・I  
これを貢つてショートせんとした  
が、岸山のマークに果さず、更に  
C・Fにバス、ショート成つて先  
づ一點を擧ぐ。帝大軍、英軍共に  
コンビネーションが整はないか、  
個人的技術と常識の差により、強  
味は英軍にある。

十四分、英L・Wドリブルに進  
み、バスされたC・H、長蹴に一  
點を加ふ。この直後、敵のドリブル  
を横取りして鈴木一氣にコーナー  
に迫りバスしたが、若林のシ  
ュートはバーに當る。

三十一分、英C・Fのシュート  
を近藤よくはたき出したが、コー  
ナー。キックを與へ、L・Iのシ  
ュートにゴール又破る、三點目で  
ある。

帝大攻撃に移り、好機多かつた  
が、前日の疲労やうやく現れたか  
して、シュート定らず、或はオーバー  
し、さもなくばキーパーに輕  
く止められるのみであつた。ハーフ

帝大 鈴若篠高春大竹瀬岸船近  
木林島山山町腰藤山崎藤  
F H F G  
W B K  
ゲジマヘエステバ A マロ  
クイリベイ B クブ  
ンヨニロオシ ジレラ  
ハシヴロオシ レマヨゴン  
エツツサ ン  
ムズンクト 111 ズルド

フ。タイム直前、L・Iのシュー  
トに英軍また點を増す。

後半、帝大抑され勝であつたが  
よく盛り返し、攻撃において幾分  
よくなつたやうに見受けられたが  
ゴール直前にミス多く、惜しい所  
でチャンスを逃がしてみた。

英軍、二十分、三十分と後半に  
入つて得點のなきにアセり氣味と  
なり盛んにロング・シュートを飛  
ばすうち、三十七分、英C・Fの  
長蹴ゴールイン。

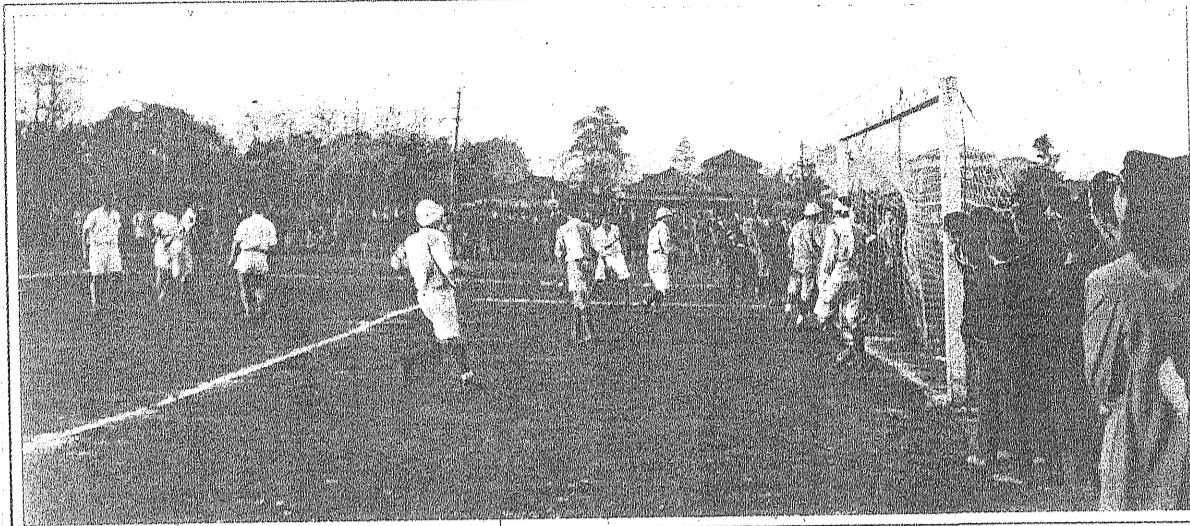
四十分ごろより、篠島のドリブル  
にて帝大ゴール前の混戦を免れ  
てより、殆んど英エリアに球あり  
最後の必死的總攻撃に英ゴール脇  
におびやかされたが何れも得點  
に至らず。辛くも跳みを脱した英  
C・F單身ドリブルにて突進した  
が途中にてタイムアップ。審判レ  
スリー氏。

△ △  
一般にピックアップ。チームと  
いふものは繩絡のとれ難いものだ  
が、今度の對手はどちらにもその  
缺陷は殆んど目立たなかつた。そ  
れは彼等においては、一定なフォ  
ーメイションを作り上げるもので  
なく、常識によるコンビネイショ  
ンを以てする聯絡であり、且つ個  
人として各場合の判断が早く正確  
であり、その結果として動きが早  
い爲だと思はれる。彼等の水準に

達したピックアップ。チームは成  
功し易いものであると考へる。た  
だその精神的匂わせから見た集團意  
識の缺乏によつて、幾分の物足り  
なさを感じさせるのみである。

試合中に最も深く感じたことは  
彼等にファウル・プレイの少いこ  
とである。否ファウルに至らぬ程  
度の粗野なプレイさへも殆んど見  
受けられない、レフエリーがタツ  
チ・アウトの場合に笛を吹かない  
のと相まつて、ゲームが非常にス  
ムーズに運ばれる様な気がする。  
観衆の態度も快く感じさせるもの  
の一つである。観戦といふもの  
に理解を持ち、ゲームを見ること  
を楽しんでゐるといふ事がありあり  
と認められる、ファイン・プレ  
イに對する拍手は別として、粗野  
な應援をする人を往往こぢらで見  
受けるのは、プレイヤーとしても  
いい氣持のものではあるまい。

最後の試合の出来なかつたこと  
は甚だ遺憾であるが、それでも二  
つの試合によつて、技術的に得る  
所が多かつたのみならず、一行は  
精神的にも相當の刺戟を受けて歸  
つたことを信ずる。(十一月二十  
日記)



帝慶ア式蹴球帝大のゴールイン直後

The Tokyo U-Keio association football game.

いまシーズンの半ばにある

## 東都學生サッカー戦を観て

各部の首位を獲るは何か

## 山 田 生

今年の東京インターラグア式蹴球リーグは前シーズンの成績に依り次の如き編成の下に、九月二十七日に行はれた、第三部の國大對立教戦を皮切りとし、十二月十五日の第一部—高早大戦を以て終了することになつてゐる。

第一部 東京帝大、慶應大學、早稻田大學、明治大學、東京高師一高。

第二部 農業大學、法政大學、明治薬專、東京外語、東京高核、商科大學。

第三部 青山學院、立教大學、國學院大學、東京商船、東京高工日本齒科。

第四部 成城高校、東京醫專、東京歯科、大倉高商、中央大學、高等工藝。

◇  
第一部における帝大は二シーズン續けて優勝し名實共にナ・バーヴンとして本年も先づ優勝の第一候補にあげられてゐる。そのF・WはL・W鈴木を残すのみで高校時代盛名をうたはれた新人を以て編成しオッフェンスは昨秋に優る共劣らないといはれており個人としては何れも實に立派な完成を遂げてゐるがF・Wラインとしての完成は未だ望み得ない點もあるがこの缺點はC・Hに下つた竹腰に依つて補はれ、しかもこの竹腰に依り二重のF・Wラインを引くことになつて初めて帝大のオッフェンスの優秀さを示すことになる。

ただその攻撃陣容と守備陣容が果して前倒し得るや否やに多少の疑ひがある、畢竟このチームの眞の完成は今シーズンを終了して初めて見得るべきものであらう。

この點から十二月九日の対早大戦は帝大の大試練の機会ともいひ得る一方この帝大に對立する早大本年のチームは技術よりも精神的融合において著しく目立ち非常な粘り強さを示してゐる、このチームで特に光の本田を中心としたH・Bラインであらう、このH・Bラインが帝大F・Wの巧みな球さばきと持続性のある走力に對し堂々と抗し得るならば早帝の一戦はチームとしての粘り強さを持つ早大に有利であつて、早帝は二年連勝の帝大の王座を奪ふことになるであらう。

この早帝に次で慶應は第三位を占めるであらうが残す対早戦の結果に依つては新進明大と同列になるかも知れぬ、劈頭第一戦の明大と縦期せぬ引分けの一戦をなし今更に大崎の病憲にあるを嘲つ破目に陥つてゐる。しかし慶應は敢て焦る必要もあるまい、多年選手補充難で苦しんだ同チームは本年の如き多士鮮々、しかもその充實は次シーズンにおいて望み得るからである。

◇  
前記のピッカ・スリーに次ぐものは新進明大で、高師、一高の古参チームを後へに第一部登場の第二シーズンに善戦の記録を残したこととは偉とするに足る。

この新進明大の目覺しい活躍に比し高師一高の今日は漫ろに悲哀を催さしめるものがある。共に古い歴史を持つて光り輝いた時代も

あつたのに、相似た徑路をたどつて今や孤城落日の模をなしつゝある。去る十五日のこの兩者の一戦は名實共に互角の引分けとなつてゐるが、他のゲームが豫想の如く順當に進むならば兩者は結局シーズンの最後に、第一部留落の決戦を行はねばならないことになるであらう。

## ◇

前シーズン不振を極め遂に第二部に編入された法政の、本シーズンの成績は極めて良好で、たゞ農大戦を残すのみとなつたが、その四戦四勝、優勝點八點を擧げてゐるに對し、農大また四戦三勝一引き分けで優勝點七點を占めて虎視眈眈たるものがある。法政は本シーズン二部にまはり、農大は前シーズン編入された同士で復活を期すことに變りはない。主將吉田の球捌きが活用されるものならばどの法政農大の一戦は法政に歩が寄るものと見られるが、農大も二シーズンの苦辛をこの一戦に裏ふの懸をすまいから法政に些の油斷も許されない、第一部における早帝の一戦にも比すべきものである。農大は攻撃よりも守備の方が優れてゐよう、C・H森田の活躍如何はこのチームに影響する所大であるが、この守備が豫期通りにいつても攻撃力が弱く勝敗を決定し得ぬ場合は、農大はこのシーズン登場の機會を逸してしまふ、この點農大は法政よりも歩が悪いが、元氣であるだけ勝敗何れに歸するか不明である。

## ◇

この首位争ひの兩者に依つて第二位迄決定するが果して三位は東

この第三部に留まつてます窮地に陥るものに高工あり、國大ありで、高工は前シーズン第二位を占めた意氣昂らず辛うじて國大の上位を保ち得るに過ぎない、國大は青池等の繰り出す後援の一矢に應するの聲なく、ただ求め得たものは陥落の末路のみである。起て沈淪は向上の路ではない、徒らにとゞまつて潤らんよりは動を以てその清新を求めるよ。

第三部に頑として動かぬものに商船がある、何事にも動ぜぬ所は賞すべきも忘れはしまいか大戦を終つた許りで、四戦を残してゐる、しかも商船の頑張を以てしても青山學院、立教には勝味の少いものがある、新進日齒と第三位を争ふか、種々の拘束あるを氣の毒に思ふが只亂暴の拙難あるブレイは敗める要があると思ふ。

## ◇

第四部は玉石混淆でよし第一二部の力量を有してゐても新加入チームはこの關門を通過する迄になつてゐる。このシーズンこの旋に縛られてゐるものに成城高校がある、古參株で優勝候補に數へられてみた中大を破つてゐるから、次シーズン第三部に編入されるものはこの成城であらうか、飛躍した中大が二年越算四部の首位を争つて果たさぬことは同チームの恨事ではあるが、成城と共に群を抜いてゐるし、本シーズンと雖も未だゲームを残す成城にして不覚をとることあらば中大に幸運の首位がまはらぬとも限らぬ。

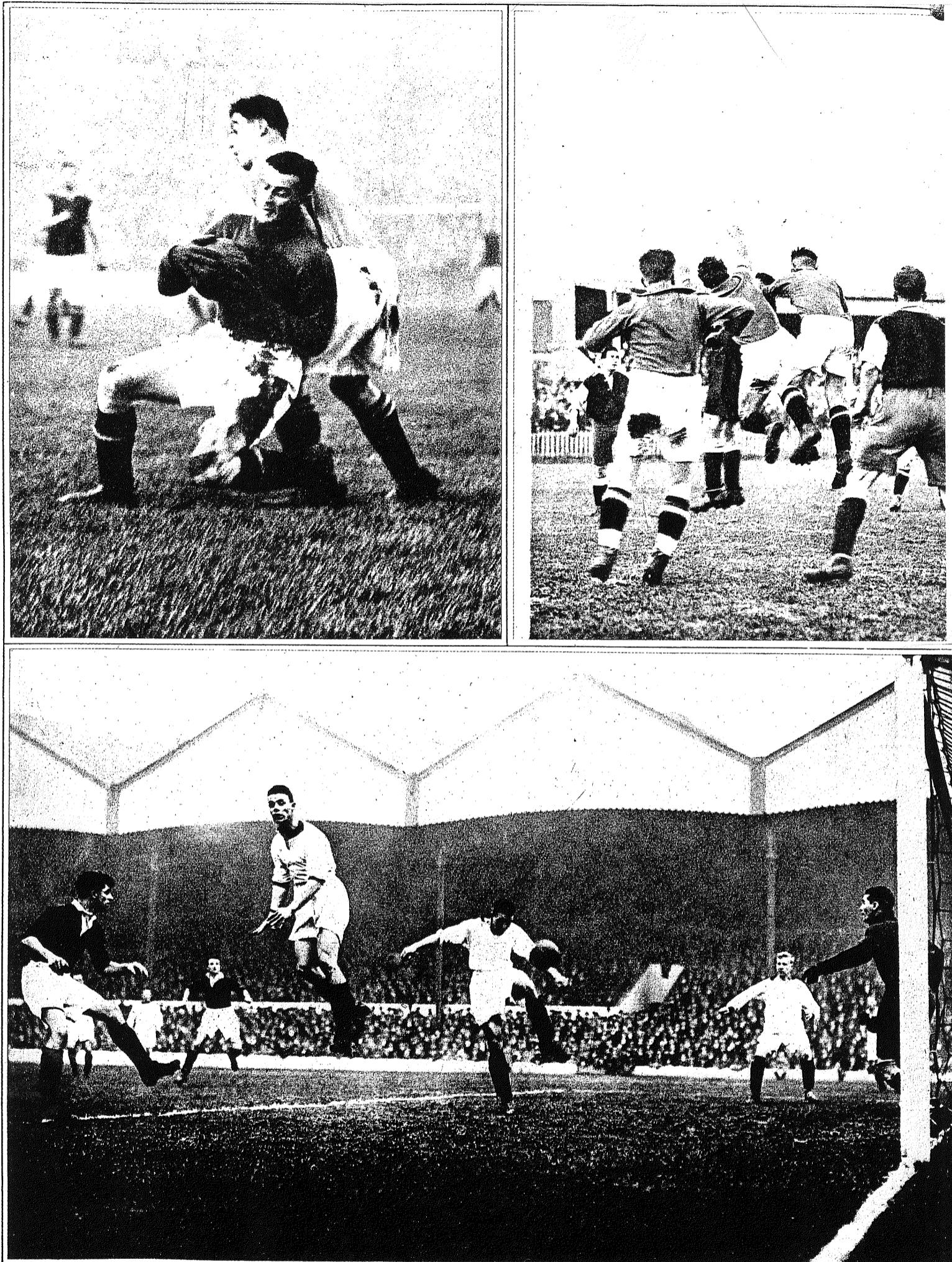
前シーズン第三部に在つた東齒は今日第四部にあつても依然不振を繰返すのは選手難といへばそれ迄であるが、チと勝甲斐のないことである。高等工藝然り大倉また然りで、後の鳥は遠慮なく力量相當の落ち着く所を求めてゆくに鑑みて大いに努力奮勵するの要があらう、新加入の東齒またこの敵を踏まざらんことを期して勇往邁進すべきである。

## ◇

本シーズンのリーグ戦も日齒の牛を終つて首位の争奪に興味が移つて来た一面行詰つた所ではその地位の権利に端を續けて今後の成行に一喜一憂の状態である。茲三旬を出でずこのシーズンも終局を告げるが一ヶ月の血と汗に織り込んだ苦難の跡は果して歡喜に埋め合せられるか又は悲哀に彩られるであらうか。(三、二、二稿)

## ◇

S3-12-1



(上左)十月二十日ロンドンアフトン公園で舉行のウエストハム対エバートンのサッカー試合は四対二でエバートンの勝となつた。球をもつてゐるのはウエストハムのゴールキーパー・ハフトン君(上右)英國イストミアン聯盟テイムは十月二十日ウインブルドンにおいて獨逸の伯林F.A.テイムと試合つて四対一で敗れた。寫眞はその翻戦(下)四萬五千の大觀衆の前に行はれた十一月二十七日英國ハイブレーのアーセナル対リバプールのサッカー試合は四対四の結果となつた寫眞はリバプールのデビッドソンがゴールインする瞬前

Top-Left: Hufton, Westham goal keeper, carrying the ball in the soccer game which Everton won from Westham 4 to 2 at Upton park, London, October 20. Top-Right: An exciting moment in the association football game at Wimbledon October 20 in which the Isthmian team was defeated by the F. A. team of Berline 4 to 1. Bottom: Davidson of Liverpool about to make a goal in the Arsenal-Liverpool game played to a 4-4 tie at Highbury, England, before a crowd of 45,000, October 27.

# 國際的になつたア式蹴球界

## 英人チームから學び得た點

山田 午郎

本春早く東京朝日新聞社は在上 海交通大學の要請を容れ一月十九 日から同チームを明治神宮外苑競 技場に迎へ都下の帝、早、明の三 強とその技を競はした。この機會 において一般的なプレイヤーは從來 の如く讀むこと、試みることのみ によつてその技を上達せしめ得る といふの偏見を除くに至つた、即ち 見るべきこともその技を磨く上 に缺くべからずといふことである、 この信念がこの際に特に強め られた。それは斯かる機運に置か れてゐた結果でもあらうが斯く偏 つた所のいゝゆる豪なるものが啓 かれたのは喜ばしいことである、 その轉換は相當意を強うするに足 るものがある。

交通大學の來征は斯かる方面に 効果をもたらしたのみでない、從 來は極東競技大會においてのみ國 際的競技をなし得るか、在留外人 といふ極めて狭い範圍に限られて ゐたがこの交通大學の來征は一步 を進め彼我相往來するやうに範圍 を擴大した。斯くて彼の取るに足 るべき技術に親しく相觸れるの機 会を得た。これが將來對外的發展 の口火とも見られよう。技術的に は取つて以て學ぶべきものは殆ん どないと言つてもよい。これはそ れ程彼我の力量相似たるものであ るからであらう。しかし先天的の 彼のフットウォーキを模倣して直

ちに得らるべきものではないが、 學ぶべく好資料であるとは言へる。

この事あつて後昨年の關係を仙 つて明大は朝鮮遠征を試み東京帝 大は十一月上旬を期して上海に初 の遠征を試みて英人チームと對し た、これは我が單獨遠征の嚆矢で あり更にわがチームの對外的發展 の前衛戦でもある、斯く彼我相通 するの機會のいよいよ繁くなつた ことを喜ばねばならぬ。

◇

帝大は挑戦した英人チームに對 し遂に豫期に副ふべきの結果をも たらすこと能はずして歸朝した が、偉大なる土産を持ち歸つてゐ

る、それは斯の競技の生命とする コンビネーションについてである。

由來わがチームはこのコンビネ ーションを得るために激しい練習 も翻ひ數多きゲームも試みてゐる がその効果は彼等の前には全く微 痕なるものがある、然るに彼等の コンビネーションは即ち彼等の斯

の競技に対する一般的常識に依る もので自然に育まれたものである、 彼等は吾等を見る如く、決して 強ひて築かんとする懶みも苦しさもない、常にこの競技に親しみ得ることに依つて知らず識らず築かれたものであるからギコチなき など示すやうなことはない。油の よく注がれた機械のやうななめらかな動き無理なく現れるコンビネ ーション、それがゲームを順調に 進ぶ、この常識のあることか御ち ピックアップ・チームにしても忍 ち完全なる集團となり得せしむる ので、吾等を見る如き歎息は全く ない、その強大も宜なる哉である。

斯かるチームと親しく競技し得 たる帝大は形に表はし得ぬ大なる 収穫を得た。一般には親しく斯かる チームとゲームの機會は得られぬが、多少なりとも帝大を通じて

参考とすることが得られるならば 幸福である。

現に文部省は小學校の體操科要 目中にアッソシエーション・フット ボールとして堂々と加へてゐる、 然るに未経験者によつて指導は望めない、その結果は要目中に 一項目として存在する許りで、實 際その競技は見らるべくもないが、 恐らくこのまゝに葬り去らるべきものではあるまい、この實現する 晩こそそれは我にも常識によるコンビネーションの得られる時 ではなからうか。

◇

技術方面から本年を見るなら は、コーナーキックのノータッチ インを認められるに至つてから三 年間の合理的な練習は今年に至つて その効果の顯著なるものがある に至つた。自然これに伴うてヘッ ディングも進境著しいものがある なほ推進すべきはH・B線がチーム の中堅機關として目覺しい活躍 をなすに至つたことである。從來 の散發的なロングキックに、相手 のバックスを徒らに威嚇するの古 い型から脱してフィードすること に依つてF・W線の攻撃力を遺憾 なく發揮せしめるに至つたこと である。前シーズンあたりはこれを 二三のチームに見るのみであつた がこの傾向が網一般的となつたが けでも大きな收穫であるといへる。しかしスかる進歩あると共に、 完成を急ぐものはオッフェンス に對するデフェンスの問題であるが、現状はこの兩者決して並行してゐない。オッフェンスは見る べき進境あるとするもデフェンス の進歩は決して相伴うてゐない。此 不均衡もこれは從來の傳統的練習の型から漸く合理化されんとし つゝある今日では必然的のもので あるといへやうが各チームとも考 慮に置いて練習を勵む事がある。 この問題に脚踏して些々たるもの ではあるが多少考慮を要する一例 を舉げれば、ゴールキックにして もF・Bの兩人がこれにあたるなどは徒らに脚力を消耗するものであつて、かゝる特技はなし得るな らばF・Bに任せるべきものではな からうか、斯かるF・Bの力の

セーブもデフェンスの上に影響するところ大いにありである。開學 チームはこの點に早くから留意した結果、今日G・K齋藤の實に偉大なキックとたつてゐる。こゝには決してその大小長短を論ずるものではないが、彼は常に五十歩を抜く力強いキックを有しF・Bの力をセーブするにおいて特に有効である。

◇

本年に入つてから新しく編成さ れたチームは二十に近い。シーズンごとにチームを増すことは廣く ゆき渡ることにおいてこの價値を 徹底せしめて行く有力なるもので ある。こゝにおいて大日本蹴球協 會は便宜上北陸地方の状勢に鑑みて 北陸支部を設置した、種々の意見 はあらうが正しい普及からみて 安當なる處置と思はれる。かくて 全國十支部の選出代表チームによ つて行はれた本年度の全日本選手 櫄大會は關東方を代表したW・M W(早大)チームの優勝に歸した。

久しく關西方に移つてみた選手 櫄は漸く關東方の手に歸したが、 これによつてまづ全國の大體の動 きなるものは窺知し得る。

しかして本年度のこの選手櫄大 會によつて現はれた所によつてみる も、從來の成績の示す所により 考察するも、その中心となるのは 關東、關西、中國の中にある、從來 中部地方も相當の勢力を有して みたが今日は力量あるチームが影 を潜めて全國的に見るならば第二 流、あまりに基だしい變遷ではあるがそれだけ他方が頭角を現はし て來てゐるといふことにもなる。

なほカレッヂリーグについて見 る時は、今日の組織その内容から 東京と關西を擧げる最近そのナム バー・ワンの対抗を企圖してゐる ことは面白い試みである。全日本 選手櫄も將來は大學、専門、中等 學校、クラブの三種類に分割され るに至るであらう、これが成立す るに及んで始めて選手櫄も意義を なして來るものではあるまいか なほ御大典を奉祝して北海道並び に廣島において小学生の大會が催 されるに至つたことは將來のため 廉賤に堪へぬことである。



早大ア式蹴球チーム

Waseda soccer team.

慶大アース早大(11月25日、神宮球場)



早慶ア式蹴球戦は十一月二十五日神宮球場で舉行三対二で慶應の勝となつた

Keio beats Waseda in soccer 3 to 2 at Meiji Shrine November 25.

# 東京學生サッカー聯盟戦終る

## 三年連續優勝した帝大チーム

山田 午郎

東京インターラグア式蹴球リーグは去る十八日の早大対一高戦を以て第一部の終末を告げ、本シーズンも帝大の優勝する所となつた。帝大は五戦五勝、ゴールの数は實に三十三、奪はれたゴールは慶應に二、早大、一高各一の都合四といふ僅少なる快記録であつて毎回の得点率六點六分といふに至つてはその攻撃力の偉大さを遺憾なく示してゐる。實に堂々たる優勝振りで全く他の追随を許さぬものがあり、しかも本シーズンを以て三シーズンの優勝である。本シーズン半ばにして上海に遠征し英人チームの堂々たるプレイ振りに親しく接するの機會を得、個人の完成から更に數歩進めてチームとしての完成度を見、全く外見にあらはれぬ強味を加へた。歸朝間もなく帝大が最も驚いた慶應と相見えて慶應の一時リードする所となつた時焦りを見せたが終りに近く慶應の粘りの足らない所を覗つて快勝したのは帝大の試合上手であるを物語つた。更に高師の一戦後半にコーナーキック三を許したのみで全く手も足も出させなかつたあたり堂々たる實力を示したものである。次の一高戦は前半七點を挙げて一高の志氣を挫き後半に至つて不覚の一點を許してしまつたが九対一の快勝の記録は確かに大人と子供の角力ほどの差違あるを示した。帝大のこの痛快なる連戦連勝の健闘は非常に人気を呼んで早大と雄鹿を決する十二月九日はア式蹴球戦において稀に見るの大觀衆を呼び、前半は早大の奇策を裏切つて善戦し三ゴールを得て早大の亂戦に終らしめてしまつた。早大は攻守地をかへ收めたものは僅かに一ゴールで、結局三対一で帝大勝つて本シーズンの幕を下した。

而してこの帝大の快勝とその大記録はC・H竹脇の率ゐるH・B線の攻撃力の優秀なるものが、F・W線を後援して二重に F・W線を布いた結果であるともいへる。試合上手である H・B線の得たゴールは竹脇の二、齋藤、新莊の各一で計四點に過ぎないが、内に潜む H・B線の攻撃力は全く他に見られぬものがある。帝大は強弱よりも巧緻が今日のチームの特色で、更に個人の速いモーション、そのモーションを速かに變換し得る軽妙さが巧みな連絡とともに完成すると豫想される、次のシーズンが待ち遠くもある。

◆  
慶應はこのシーズン帝大に優るか、負けないといふ奥望を擡つて立ち、リーグの第一戦において新進明大と對した。荒天のハンドイキヤップはあつたが一般の豫想を裏切つて明大分慶四分のゲームを續けて辛くも一対一の同點で引分けの一戦とすることが出来た。明大は慶應とつて思はぬ手強いものであつたに相違ない。次で高師と對戦したが F・W線は調子頗る悪しく、頑強なる追撃を喰つて豫期せぬ苦戦を繰返して辛くも勝つたといふ態であつたが續く一高戦には物の見事に快勝を博した。かくて漸くチームの整つた所で上海遠征の帝大軍の歸來を待つて戦略を凝らし對戦したが、前半帝大の鋭い攻撃を浴び、G・K島田の十三回にわたる美技によつて一點を許

しただけで後半に入り、一時は2-1のリード成つて善戦したが体力は前半の苦戦の際に費消してそのまま最後まで支へきれず遂に敗れてしまつた。そして對早の最終戦に臨んだが、早慶は共に各ラインに特色をもちその優劣は豫想し得ないものがあつた。慶應は早大の粘り強い押しに對しには受身に立つほど押し手は弱いものがあつたけれども、この危機を外して勝を制するの巧妙さがあつた。早大は押すことによつて勝ち得るといふやうなゲームを以て終始した観がある。この裏を慶應は優れたF・W線の兩翼によつて引きまはしてしまつた。つまり早大はマークを忘れて押し切つたところに悔を残してゐる。慶應は奇勝ではない試合上手で打乗りを見せて順當に勝つた。

◆

早大は前シーズンも力だけに終り、本シーズンもその實力を巧みにあらはし得ずに不覺をとつて依然第三位に置かれることになつた。チームの上達の徑路に山があり、またシーズンの中にも出来不出来の山があるとするならば早大は正に全日本選手権大会に優勝するまでが好調で、以後低下の跡を辿つてゐるといへる。本シーズンの最初は全日本選手権の後一週日にして明大と相對した。しかしこの試合は明大方に優勢で亂調に終始して辛勝したに過ぎないものであつた。そして高師戦において漸く舊調に復したかの感あつて慶應戦に臨んだ。早慶の對付は從来引き分けはあつても慶應に勝を譲つた歴史を待たぬ。早大方はどのライセンも慶應のそれに比して優越感を持つてあたらしい、ゲームを最後まで纏け、相手を追ひ込んで堂々たる陣を布いてはみたが、それは決して勝つべき堂々たるものではなかつた。何となくソツのあるもので、バツクスが慶應 F・W線を常に窮屈視してみた。これは勝負を争ふものゝ大なる不覺であつた。そして壓迫した上手の手から水が漏つた。慶應 C・H瀬田によつて捌き出された球はフリーの R・W市橋に出され更に C・F豊田に送られて勝敗を分つて一点とされてしまつた。かくて早大は早慶對抗の歴史の上に汚點を止めてしまつた。づくく帝大の一戦にはこの恥を雪ぐべく萬策が講じられた。C・Hとして大活躍をする本田をして R・Hに出て帝大 L・W鈴木の老巧にあたらしめんとしたあたり慶心したものとも見られるが結果において何等成功する所がなかつた。帝大 F・W線は鈴木一人を本田に任せせる方が却つてその攻撃において勝てるもののがしてしまつた。荒天の悪いコンディションが明大の底力あるのには恵まれてゐたかも知れぬ。この強引の一手はり縫の帝大の前には前半二十五分まで効いただけでマトマリを待たが H・B線のフィードに對して F・W線はなすべくあまりに無力であつたやうに見られたのも結局は前半三點の開きに對して恢復するため焦つた結果からであらう。H・B線として有機的の活躍を求むべきを破つて個人としての個制に努めべきなど無策以上にあたるものであつたといへる。早大の敗因にこの點も數へたい。帝大は巧みな判断に依つてゲームを進め

てこの結果は順當なる捌きではあつたらうが早大チームには物足らなさが残されただけにその蓄蓄された技術を發揮し得ぬので力あつても早大は試合下手であるといふことになる。

帝大の収めた第二點 L・W鈴木のコーナーキックのノウタツチン之は見事な曲球であつたが早大側は見す見すとられた一點で施す術のなかつたものではないやうに思はれる。意氣込みに背く二勝二敗の戦績を残して最終の一高戦を迎へたが沈黙した意氣は早大日ごろの調子どころか終始苦戦しなければならなかつた。そして本田、杉村を除いたこのチームの力量なるものを問はしめるに至つた。R・Wであつた主將高橋が R・Hとなつて強ひて R・Bを C・Hとしてまとめたチームは一高 F・Wのため遺憾なく引きまはれてしまつた。そして辛勝の刻印を捺される惨めなものでシーズン最初の早大の威力なるものはその片鱗だに示し得ずに結末を見てしまつた。殊にチームのボディションをゲームの都度變更するはどんなものか、ゲーム中における臨機應變の策としては當然であるがこれには餘り得策はないからう。

◆

明大は前シーズン第二部において全勝の成績を以て本シーズン第一部に列し勇頭戦に老雄高師を屠つて新進の氣を吐いた。しかしコーナーキック十一を奪はれたことはその攻撃の手強さがあるがデフェンスにはかなりムラのある結果の然らしめたもので高師の F・W線の判断と決定力の鋭い結果からの賜物であるといへるものがあつた。先づ高師に就いて見るならば新進明大に名を成さしめて本シーズンも不運を喰つことになつてしまつた。前シーズンの如く早大を破るの目標も全く立たないといふのは F・W線の凄味乏しいことである。畠山なき後の H・B線にまはる時田のために攻撃力は前シーズンより劣弱なるものがあるからである。すれば帝早慶は全く勝味がない。たゞ目標は一高のみとなつてしまつた。この不安は常につきまとつた。そして慶應に對してのみやゝ氣をよくするやうなゲームをやつた。その際とても I・I・藤田に策應する F・Wが一人あつたならといふやうな珍めな F・W線であつて I・W後藤の不振はチャンスを逸してみた。後藤の立場は氣の毒なものであるがモット大陸なプレイが望ましい。四戦四敗の戦績を以て對一高戦に臨んだ

勝味はないが大きなスコアを示して退くほどに差違はない。少し上氣してこんな結果が生れてしまつた。慘敗參敗の腹感は對早大戦において充たされた。全日本選手権大会に勝利を握つてやゝ満足の態である早大の顔をついたあたりは帝大に揉まれただけあつて稍そのプレイに甘味がうかがはれた。早大の練習不足もあるがよくこれを引継はして勝を逸したのは攻守共に連続を持たねためである。前述の試練を経た明大は最終の對一高戦において滑らかなコンビネーションを示した。C・F高井もよいボディションを占めるやうになつて R・W松本もサイドに在つてよいプレイを見せた。このチームで器用なのは C・H興谷で F・B森島、伊藤との呼吸もシックリあつてきた。G・K原田は少し判断が輕率である様に思はれるが、この意氣はこのチームの爲めに缺くべからざるものであらう。このチームが不斷の練習を積んでゆくなら體格が優れてゐるだけに先進チームの脅威でなければならぬ。

◆

一高の F・W線は宿将船橋、中村あるが前シーズンに比して威力が墜ちてゐる。越智のない後を鈴木襲つたが I・B線も引立つほどものでなく帝、慶、明に對して芳しからぬ戦績を残して高師と引分けてしまつた。しかし最終戦たる對早大戦の善脚は實に堂々たるもので向陵健兒の意氣を吐いたものといへる。F・W線の中村、永地越智、船橋は見違へるやうな連絡を以て早大陣を櫻亂したともいふべきものがあつた。殊に永地の機智はよくこの一戦において大奮闘を樹てたといふべきものであつた。F・B近角が實力均衡の F・B線を布くことが出来たなら早大を屠つてみたかも知れぬ G・K前川に袖斷と焦燥がなかつたなら敗れはしなかつたでなからうか。前川は難球をよく處理したがこの日平凡な球に失策があつた。一高は帝大に一失を戴くこの一戦において初めてこのシーズンの實力を示したやうなもので、この調子でいけば高師との再試合も豫想は全く出来ない。

◆

以上の成績に依つて之を總決算して見れば別表の如きものとなる(試合は各五回とす)

この表によつて見るも大體そのチームの優劣が判定し得る。優勝帝大は全般にわたり優位を示してゐる。この表によつて特に將來をあらはすのはこの總數一八八本の中一割に達してゐない。得點の比較的小いのは一面このコーナーキックに對する防禦も進んでゐるからで決してチャンスとして生かすことの出来ないのを一概に責めることは出来ぬがこれは共に研究の餘地がある。帝戦において帝大の第二點は L・W鈴木のノウタツチンであつた。これは巧みなカーブもついてみたが早大側の防禦の反対側コーナーに寄る後方守備の手薄であつたことも因してゐる。デフェンスが上達するに伴うてフリーキュートの機會も少くなることから考へてコーナーキックの際の適切なるチャージについて特に一般チームにも研究を望んで筆を據く(一二、二三)



早慶サッカーライトゲーム The Waseda and Keio soccer teams.

写真のケ S3-12-15 撮影

## 第一部 各校 成績 表

	勝	同	負	得	失	同	率	P	C	G	F	P	C	G	F				
								同	分	數	點	同	率	K	K				
1. 帝大	5	1	0	0	0	33	6.6	4	0.8	0	0	47	72	8	0	20	149	9	
2. 慶應	3	0	6	1	1	19	3.8	10	2	0	0	28	119	8	0	40	80	12	
3. 早大	3	0	6	0	2	16	3.2	12	2	4	1	1,038	71	13	1	28	128	9	
4. 明大	2	0	4	1	2	10	2.0	17	3	4	0	0	33	91	28	0	34	96	20
5. 高師	0	0	1	4	6	1,2	20	4	0	0	23	119	11	0	34	59	20		
5. 一高	0	0	1	4	7	1,4	28	5	6	1	0	29	117	13	1	42	77	11	

傘を破るやうに猛雨、シブキにボルが見えなくなるやうな中に大熱戦が繰りかれた。雙方力なるものは全く現はし得なかつた。C・H・時田の H・B、 F・Wの兩線に亘る神出鬼沒の活躍も効なく引分けとなつた。

◆

一高の F・W線は宿将船橋、中村あるが前シーズンに比して威力が墜ちてゐる。越智のない後を鈴木襲つたが I・B線も引立つほどものでなく帝、慶、明に對して芳しからぬ戦績を残して高師と引分けてしまつた。しかし最終戦たる對早大戦の善脚は實に堂々たるもので向陵健兒の意氣を吐いたものといへる。F・W線の中村、永地越智、船橋は見違へるやうな連絡を以て早大陣を櫻乱したともいふべきものがあつた。殊に永地の機智はよくこの一戦において大奮闘を樹てたといふべきものであつた。F・B近角が實力均衡の F・B線を布くことが出来たなら早大を屠つてみたかも知れぬ G・K前川に袖斷と焦燥がなかつたなら敗れはしなかつたでなからうか。前川は難球をよく處理したがこの日平均な球に失策があつた。一高は帝大に一失を戴くこの一戦において初めてこのシーズンの實力を示したやうなもので、この調子でいけば高師との再試合も豫想は全く出来ない。

◆

コーナーキックの最高は帝大の對慶戰の十三本と明大の對一高戦の同數、帝大はこのコーナーキックによつてチャンスを作つて得點したが明大は無爲に終つてゐる。次位は早大の對慶戰における十二本で一点を物し三位は一高の對早戦、高師の對明戦における十一本である。一高は無爲であるが高師は見事得點してこれに依つて零敗をまぬがれてゐる。大體において最近コーナーキックは一段と巧妙さを加へてゴールアウトとなつたものはこの總數一八八本の中一割に達してゐない。得點の比較的小いのは一面このコーナーキックに對する防禦も進んでゐるからで決してチャンスとして生かすことの出来ないのを一概に責めることは出来ぬがこれは共に研究の餘地がある。帝戦において帝大の第二點は L・W鈴木のノウタツチンであつた。これは巧みなカーブもついてみたが早大側の防禦の反対側コーナーに寄る後方守備の手薄であつたことも因してゐる。デフェンスが上達するに伴うてフリーキュートの機會も少くなることから考へてコーナーキックの際の適切なるチャージについて特に一般チームにも研究を望んで筆を據く(一二、二三)

東大 3-1 早大 (12月9日 神宮競技場)

# 關學が優勝した

## 關西學生サッカー戦

Y · K 生

リーグ戦始まつて四年目の昭和三年度關西學生ア式蹴球リーグ戦は、今年より大阪商大及び京都醫大の新加入を見、ここに一部、二部共に五校宛、計十校のチームの間に九月末より行はれてゐたが、去る十一月二十八日の京大對關大的試合を最後として、盛況裡に終りを告げ、一部は關西學院の優勝する所となり、二部は大阪高工が全勝の榮を得たのであつた。このリーグ戦が年と共に盛大となり、少からぬ刺激と貢献を關西の蹴球界にもたらしつゝある事は誠に喜ばしき限りである。今その戦ひの跡を頗みて心に浮ぶまゝを述べて見ようと思ふ。

◇

先づ一部において四戦四勝、見事關西のナンバーワンの地位を確保せる關西學院の陣容を見るに、

本春卒業せし高田君に代るるに神戸中より來れる堺井を以てし、バツクには變動なく米澤主將統率の下にG・Hの後藤を中心としてのチームワークには、攻守ともさすがに覇者たるの實力を備へてゐた。外語、關大を易々と破り、神戸高商との一戦に、最初リードされながら、堂々と盛り返して破つたあたり、十分にそれを裏書してゐる。同試合は神戸遊園地にて行はれ、戰前より兩校の應援すさまじく、關學對京大戦と共にリーグ白眉の好試合であつた。高商は先づO・F水野の奮闘により一點を先取して優勢であつたが、關學が徐々に調子を取り戻して來たに反し、高商は餘りにも最初に力をロストしたことが、やがて後半に出つて、敵の株間に任す結果となつた。高商が今少し力の配分を考慮に入れてゲームを開拓し、前半のリードを後半まで持ち越してみたら、關學ももつと苦戦に落ち入つたであらうにと惜しまれる。併し數年來やゝ沈滯期にあつた神高商が、今年は廣島一中から來た水野をO・Fに入れて前衛を揃へ、バツクは體格より来るハンデキヤツブをその旺盛なるファイティングスピリットに補ひこの奮闘は目覺ましきものであつた。殊に對京大戦に於てはチームの全能力を遺憾なく發揮し、後半の猛烈なフォワードの攻撃力は、勢ひバツクの奮起を促し、その攻守と相まって續け様に三點を奪取して強敵を倒した事は賞讃に値する。

◇

前二者と大して劣るとも思はれぬ京大は、可成りのメムバーを揃へながら十月末の日本選手権大會に早大に一敗地にまみれてより何とはなくチームに活氣なく、高商にうつちやられ對關學戦には僅かにバツクの奮闘を見しのみにて、フォワードの不振は、接戦など



東京カレッジサッカーリーグ戦たる東京帝大對早大のア式蹴球戦は十二月九日明治神宮競技場で舉行三対一で帝大の勝となり本リーグの制覇を掌握した。写真は早大のゴール前

Play in front of the Waseda goal in the Tokyo U - Waseda game at Meiji Shrine December 9, in which Tokyo U clinched the season's championship with a win of 3 to 1.

といへ、全然勝味なく、又關大には引き分けで同校と共に第三位を甘受するに至つたのは、奮闘を期待されただけにみじめであつた。

關大も本年は宿将山縣貞傷のため常の元氣出ず、泉亦シーズン中に負傷して出場不能となるなどして、京大と共に捲土重來を期すべく餘儀なくされたのは、氣の毒であつた。

大阪府は更に振はず、全敗の憂目を見、二部優勝者大阪高工との決戦も危険でゐる有様で、不振のどん底にあるかのやうに思はれた。切に、奮起を望む次第である。

一方二部において神戸高工が大阪高工に次で第二位を占めたのは

順當であるが、新加入の大坂商大が和歌山高商と京都醫大をともに零敗せしめて、見事に第三位を占めたことは、來年度の進出振を大いに期待せしめるものである。

◇

今や各チームとも過去の戦ひを顧み、自チームを改造して來シーズンに備ふべき時である。チームの弱點、長所はそれぞれのチーム自身が最も良く知つてあるべきであるから、こゝには喋々しない。たゞ二ヶ月餘に亘つたリーグ戦が何等の事故もなく、一段と加盟校間の親睦を加へつゝ終つた事を喜ぶと共に、聯盟諸校の來るべき年の奮闘と發展とを祈るものである。

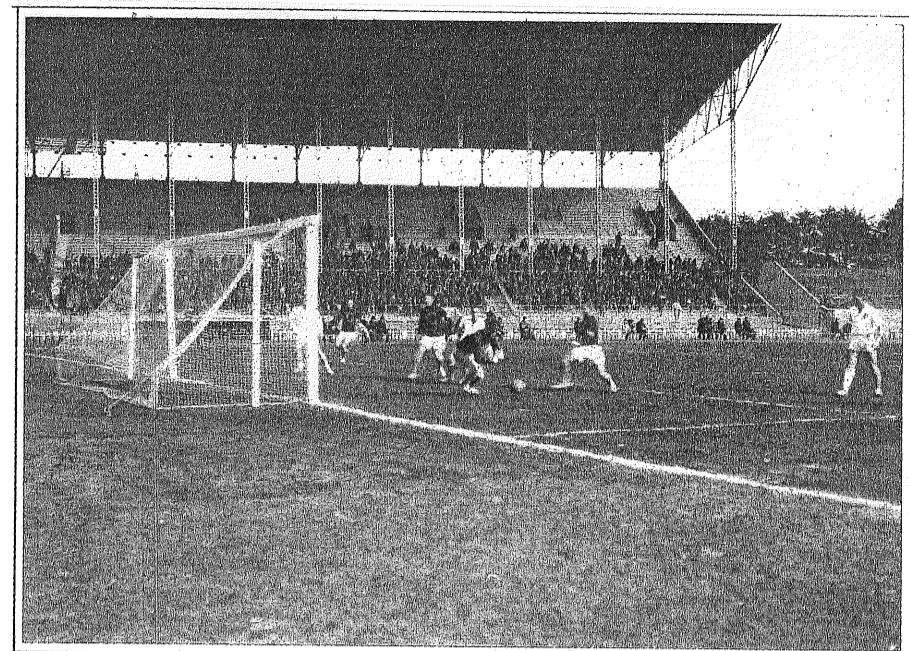
S4-1-1



米國ニュージャージー オレジ生徒のサッカー練習

Soccer practice at New Jersey College, U. S.

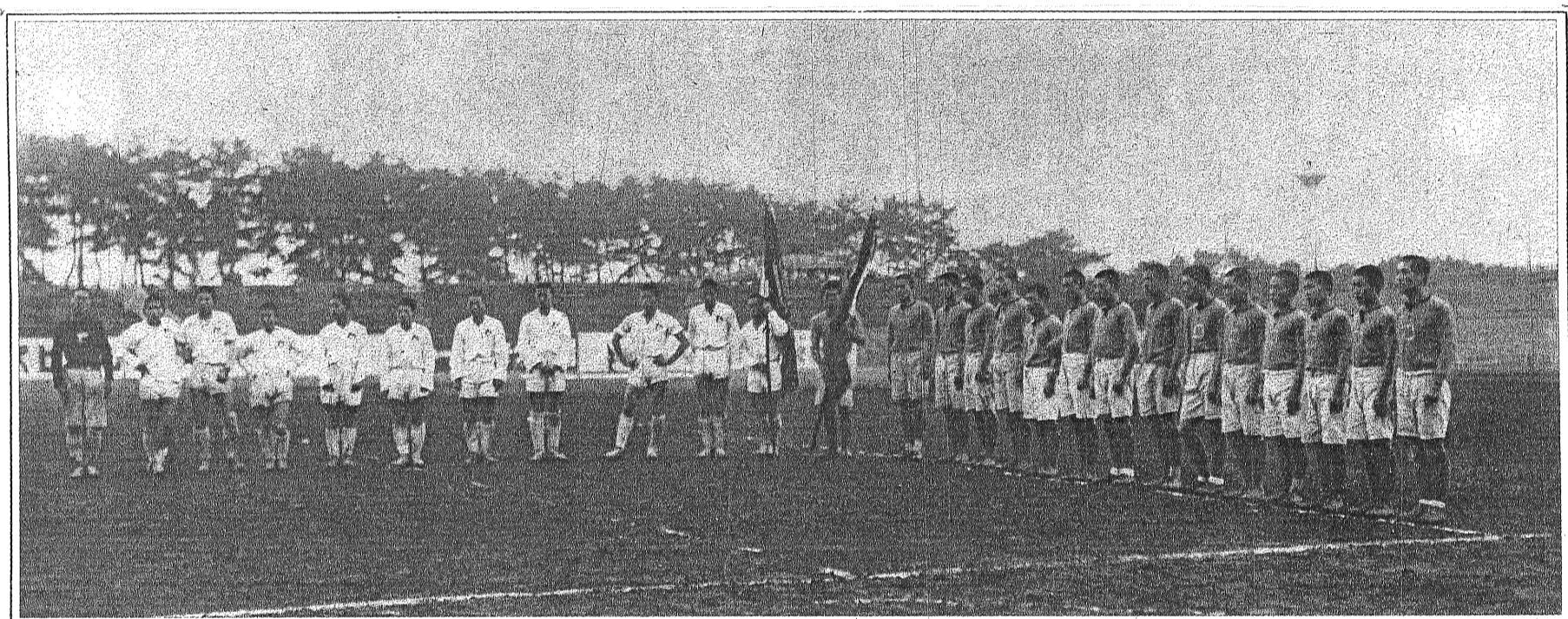
S4-1-15



大毎(大阪毎日新聞)主催の全国中等蹴球大会の模様

平穏高農と御影師範のサッカー決勝戦

The final soccer game between the Heijo Kofu outfit and the Mikage Normals, at the same tournament.



ラグビーに優勝した同志社中學ティーム(右)とサッカーに優勝した御影師範ティーム  
Doshisha Middles, rugby winners (right) and Mikage Normals, soccer winners.

S4-1-15



九大主催の第四回全國高等ア式蹴球大会に優勝した關西學院ティームが優勝盃をうけるところ  
Kwansai Gakuin is presented with the victor's trophy at the Kyushu University Fourth All-Japan Intercollegiate Soccer Tournament.

## チームワークの優れてゐた

# 早高チームが優勝

## 全国高校ア式蹴球大会を観る

竹 腰 重 九

### その観點

新春號頭一月一日より六日にわたり京都の地に舉行せられた第六回全國高等學校ア式蹴球大會が不順な氣候や、グラウンド等に悩まされても、無事に終了したことは主催者の一員として欣幸に堪へない。悪天候と想グラウンドの中に良くなつて、眞摯な學生の自治的努力に基づく本大會の使命を達成することを得しめた参加校諸氏に、設備の不完全その他をお詫びし、合せて感謝せざり居られない。然しながら六日間の戦の跡を顧る時技術的方面において我々は何等の新味を發見出来なかつた事を遺憾に思ふ。勿論高校大會の存在理由は他にある。それはその眞剣な全人格的な戦ひを全力を傾倒して戦ひ盡すといふ雄々しい運動精神の發露にある。この颶爽たる若人の意氣に感する時に、我々はいひ知れぬ力強、何物かを感じるそこには日本の全運動界に吹き込む熱が存してゐると思はれる。

我々は技術的方面においては不満であるといつた。でその感想を述べるに先立つて我々が如何なる立場から観察したかといふことを一言したい。我々が思考し目標とする所の蹴球は、有機的に連絡し、十一人が一人で球に從つて動き自己の職責を果すやうに自由に又信じ合つて動くものである。單なるスピードは相當有効には相違ないが、決して合理的なる點において上乗ではない。そこには脆弱さがある。花火のやうに華かで鋭い點はよいか着實に缺ける。我々は徒らに敵のゴールへ早くといふ事を望まないで球を味方にキープしてグラウンドの上では退いた。

た如く見える事があつても、更に有利に展開し得る動き方をより合理的であると信ずる。かくして得點は敵ゴール前に有利な自由な状況下に味方に保持し、そこにはバツクメンが参加せねばならぬ——が考慮されてみなかつたやうだ。

この得點は一刻も早くゴール前行かんとするスピードに頼る事となる。吾人はスピードを必要不可なりとするのではない、ただ他の方法の方がより有効な場合もあり得るといふ事を考へねばならぬ。好連絡と共にスピードの存在する事是最も望ましい事である。されど何等のチームワークもなく、單に一人のみでもソシユート、バスが制限ある事を顧みず、また球を味方にキープする確實性を有せずして徒らにゴール前へと急ぐ投機的な戦法を非とするのである。

この方法は現在の如く防禦に失策多く、また優れて居ない場合には有効であり得るが、より強い相手に面した時には無効でからうか。この大會において非常に凡失が多い爲に、この方法は可成有效であつたが、着實に合理的にゲームを行なせしむるチームが殆んど見當らぬといつてもよかつたのは遺憾である。この戦法の缺陷は相手ゴールに近い點以外で與へられたフリーキックを生かし得なかつた事によく現はれてゐると思ふ。着實なチームワークが少なかつた爲に敵が十分守つてゐる場合の無力を物語るものである。更に無暗とタッチアウトが多かつた事は敵が速力のみに頼るが故にタッチアウトして置いて味方が十分バツクして守備を整へる事が有利であり且つ敵を引出して並裏に移る事に心掛けた。

入る事を心掛け、又は敵失に乘じてゴールを脅かすのみで敵のバツクメンが十分に後退し又矢策のない場合の合理的な攻撃——これにはバツクメンが参加せねばならぬ——が考慮されてみなかつたやうだ。

が便利なるに基くのではあるまい。つまり敵も味方も鋭い急速な攻撃を以て敵の手薄に乗ずる事が唯一の方法であつたのに基くと思ふ。バツクメンのロングキックにしてもそれが巧運よりも拙速を尊び敵の失策を豫想するキック・エンド・ラッシュによつて一層に逆襲得點せんとするシステムに基づくものである。

成城ほど多くのチームに見受けられる、如く各線間に連絡が乏しく敵のバツクメンがロングバスをなし得る餘裕があり——これはフォーワーズが十分敵のバックスのバスを限定せず之を追ひ立てる事の不足に依るのであるが——又ロングキックに對して相手のバックスが失策する事が甚だしく多い場合に於てはキック・エンド・ラッシュ式の逆襲戦法も有利である。さりながら一度より組織的なチームに對した場合即ち無駄なく返されるロングキックは許すともロングバスは許さず、鋭い攻撃を旨とするバスならばショート・バスでも球を味方に取らせるやうに限定された場合、それは全く手も足も出なくなるのではないか。之を要するに未だ合理的なる連結に對する考察において缺くる所が多分に存すると思ふ。單なる元氣を以て萬事終りとなすは最善を盡す所以ではない。高校諸氏の一考を煩はす次第である。

以下試合経過について各チームの短評を述べたい。

### 試合経過と短評

#### 第一回戦

浦和 1 (0-0, 0-0) 0 法政豫科  
法政は一人不足で戦つた、法政が相手のメンバーを有しつゝ毎年この大會で意氣の昂らぬのは遺憾である。精神的に缺くる所なきか。

早高 4 (0-0, 4-0) 0 五高

五高敗色濃くなるや全く闘志を失ふ。かゝる事がない様に努力を望む。

山口 3 (1-0, 1-2, 1-0) 2 松江  
松江は舊來の行き方を取つてゐる。山口はこれに對して新味あるシステムを有してゐたが個人的に大きな弱點を持つてゐた。延長戦に入り P・K で勝敗決す。

#### 第二回戦

六高 3 (1-1, 2-2) 3 東高

全く型の異つたチームの顔合せとして興味あり。東高はスマートな好チームでありその通り方も巧妙な所があるが、惜しいかな最後のダッシュが足りない。精神的に今一步強調されが足りない。試合はむしろ東高に歩があり、全ての動きにおいて一日の長を有しつゝ抽籠に敗れたのは氣の毒である。六高はこの試合において無理のない滑らかなバスに対する防禦の無力を暴露してゐた。然し F・W のダッシュに見るべきものがあつた。

廣島 9 (4-0, 5-1) 1 富山

初参加ながら富山が最後まで良く戦つたことは賞すべきである。然しラフ・プレーは一考を要するが今後に相當の期待を懸け得る。

水戸 4 (2-0, 2-0) 0 松山

二年連續して本大會において一勝一敗の歴史を持ち第三回目の顔合せ故興味を惹いたが松山は餘りに弱く水戸の F・W、C・H の蹂躪に委した松山の C・H が元氣一杯によ

く戦つたのは悲壮の感を抱かせた。一高 1 (0-0, 0-0) 0 八高  
八高は C・H と G・K のチームである。泥濘はあつたらうが F・W があれ程無力では仕方がない。一高に歩のある試合で八高は G・K と C・H によつて辛くも支へ居た。一高は元氣に攻めた際に HB line が威力を持つて F・W をよく助けたのは目に付いた。

成城 5 (1-1, 4-0) 1 弘前

後半勝敗が決定してから弘前は闘志を失つたかの感がある。また元氣は亂暴なプレイではない。初參加で仕方はないが、この大會の傳統を體しこれらの點に一層の修業を積まれたい。

二高 1 (0-0) 0 新潟

吹雪となつて今まで経験したことのない寒氣のため双方共十分戦へなかつたのは主催者としてお詫びする。かゝる寒氣の際には試合を行ふべきか否か相当考慮する必要がある。この試合には見るべきものなし。

浦和 1 (1-0, 0-0) 0 静岡

静岡は自己の力を過信してゐなかつたか、然も一度リードされて焦つた如きは眞に自己を信する者の態度ではないと思ふ。三省あれ、後半の半ば以後静岡巻然優勢であつたが焦つて好機を逸した、素質ある静岡イレブンの精進を望む。

早高 1 (0-0) 0 山口

山口は關西にありながら關西型でない特色を持つてゐる、むしろ早高に似た點を有する。F・W などに可成りの巧味を見られたが早高ゴール前の數次の混戦及び且つ折角争んだ機会をもいにし得なかつたのは老巧味を缺く故か、山口 R・H・L・B は大きな缺陷で危機は常にそこに芽組んだ。

#### 第三回戦

六高 2 (1-0, 1-0) 0 廣島

前年の優勝校廣島には昨年の強烈な攻撃が見られなかつた H・B、F・B に於る餘りの弱さは F・W との間に大きな空隙をつくり、且 F・W line から漏れ出た球を得た際にもその後の処理が適當でなかつた爲に、先の攻撃と次の攻撃とを連續的なものとして漸次に相手の守備を崩す能力を缺いて。

換言すれば攻撃は反覆せられたがそれを相應聯し連續する攻撃とし得なかつたといひ得よう。兩 Wing の中に入り過ぎた事と共に重大な敗因であらう。最後まで恢復に努めながら無得點に終つた事は以上の缺陷以外には正 O・H の負傷不出場と、グラウンドの悪かつた事とに災ひされたに因るといひ得よう。六高は元氣一杯に善く戦つた。

一高 4 (2-2, 2-1) 3 水戸

兩軍ともに同じ型のチームでバスを巧みに用ふるが F・W では水戸がやゝ勝るもバツクは弱く、シーソーゲームの後水戸敗る。綺麗なバスを持つ兩軍をもつと良いグラウンドで戦はして見たかつた。

成城 6 (4-1, 2-1) 2 二高

順當な勝負。成城は攻守に巧味を見せた。二高は前試合の悪戦の爲に悪い條件の下にあつたらしかつた、然し元氣に戦つたのはよい。將來を期待する。

早高 2 (1-1, 1-0) 1 浦和

浦和は八高に似た O・H と G・K のチームである。よく防いだが F・W が全く早高バツクに壓へられて O・H の善戦も無爲。早高が前半リードされながら焦らずじり恢復したのは偉とすべきである。浦和は最後まで健闘した。

### 准決勝戦

六高 3 (2-0, 1-0) 0 一高  
一高は前試合の疲労感を抱いていたが、F・W も活躍十分ではなく F・W もバスの滑らかさを失ひ前半凍つたグラウンドで六高の長蹴に負けて二点を落とした。後半逆転しつゝも逆戻しに遡り一得点を落して敗れた。前半の六高の長蹴とダッシュとを一高が避けた術を知らず不得意なキックで應酬せんとしたのが敗因である。キック等の基礎技術に磨かれダッシュに勝つてみた六高が一高の巧味を破つた態である。

早高 1 (0-0, 1-0) 0 成城  
成城は相当まとまりのチームで球の動き等巧みな點があつた。H・B もよく F・W と連絡し L・B 野澤が守ると同時によく攻撃にも加わり可成完成したチームであるが、この試合においては兩軍同じグラウンドで練習してみたゆゑかダルゲームとなり兩軍ともディームワークの妙味を見せず個人的に優秀な脚擲、弾出し、浅井の活躍が目に付いたに止る。

### 優勝決戦

早高 3 (0-1, 2-1) 2 六高

優勝戦としてまた全く技風の異なる二つの系統の代表として興味深いものであつた。戦は果然白熱して泥濘の飛沫を上げて兩軍よく攻めよく守つたがつひに早高は延長戦三分にして決勝の一得点を挙げた。六高は戦前優勝候補に數へられたが焦つて好機を逸した、素質ある静岡イレブンの精進を望む。

優勝戦として最も興味深いのが、如何にして協力すべきかといふ方法に對する考察が合理的でなかつたのではないか。舊來の行き方の特徴である敵失を豫想するキック・エンド・ラッシュとスピードによつて敵の虚を衝く銳さを持つてみたが確実味あり合理的な攻撃を有してみたのではないか。この缺點は對東高戦においても滑かにバスして来る東高 F・W の含みのある（全く行き詰る前半バスの途が一つしかなくなる前に球を處理する）ディームワークに會つて三點を許し又比較的組織立てられ且凡失の少い東高の守りを攻めあぐんだのでないか。新しい行き方として十一人が各ラインにあつて間隔なく動いて球を味方にキープしつゝ進み又退き、次第に着實に味方を有利に展開しゴール前において銳く寄せせる方法、攻撃的防禦と防禦的攻撃のディームワークをものにして個人の強さをディームとしてのまとまりの中の強さに利用し得るやうになることで六高として取るべき将来の道でなからうか單なる速力、静的な型に頼る不確実な戦法は廢止すべきである。

かし六高チームが強いダッショ  
と、良いキックを持ち型によつて  
固定的ではあるが連絡を有して居  
た事は六高をして優勝戦に乗り出  
さしめたのではないだらうか。守  
備の方面に於て單なるポジション  
を取る事に満足せず相手の活動を  
限定して守る能動的な守備を組織  
立てることを考ふべきである。

吾人は六高の終始變らぬ元氣と  
その猛練習とに敬意を表すると共  
にその十分な素質を以て新しき道  
を求めて精進せられんことを希望  
してやまぬ。

優勝校早高は戦前相當のティーム  
などは見られてゐたが優勝は期  
待せられなかつた。然しその試合  
振りを見るならば優勝は決して一  
部の如き泥濘其他の偶然的事情  
に基ゐたのではなくて十分なる理  
由の存することを知る。彼等の特  
徴は他の諸校よりもティームワー  
クの何たるかをよく知り、またこ  
れを實現するに必要な最少限の技  
術は有してゐたによる。彼等のブ  
レイブは一つの部分部分における  
型ではなくて一人が全部で助け合  
つて常に自分の周囲に味方のあ  
ることを意識して自分が球を取れ  
ねば味方に取れるやうにとの努力  
が見られる。例へばFWが敵のバ  
ックスの保持する球を追ふ時にも  
彼等は自分で取れなくとも味方の  
HBなりが取り得る様にとの豫見  
に基いて行動してゐた。他ティーム  
と異なる點は單獨な強さのみに頼  
るブレイブが少い事である。そのテ  
ームワークにおいて彼等は純さは  
ないが悠々と迫らずじりじりと押  
し、また波の引く如く更に出づる  
ために退き、かくして次第に地歩  
をしめるといふ運動的な強靭さを  
有してゐる。この故にそのティーム  
ワークにより六高の動きを一  
方向に限定することにより六高の  
良い出足を豫見を以て抑へること  
が出来たのではないか。然し彼等のものは未だ十分に合理的な  
方法でない。何となれば彼等は單  
に守備に十分の組織を有せざる相  
手を豫想し、大體を豫見するのみ  
で、その豫見に従つて行動する場  
合における部分部分のパスに確  
實さがない。即ち敵に取られてもまた  
味方のHB、EBが薄みのある陣立を持つて敵に敵のパスを限定す  
れば再び味方の攻撃に轉じ得ると  
の豫想の程度に止り、十分組織せ  
られた守備に對してはまた失のない  
相手には當て嵌らない。味方に球  
を保持しつゝ含みを残して更に  
有利に展開するために前に急ぐこ  
となしに種々の確実なパスを用ひ  
つつ徐々に展開の機を俟つといふ  
堅實性を缺いてゐる。今年程度の  
相手に對しては大體の傾向として  
は良いが、その部分において未完  
成不確実であるが故に幾分他の高  
校と違つた意味でキック・エンド  
・ラッシュの形がなほ残つてゐた  
(これは敵失が多いことにより成  
功したが) だがジリジリ攻めつけ  
ながら機を待つだけのティームと  
しての厚味を持つてゐた。しかしな  
がら彼等の技術の不十分は優勝  
戦前半において六高に徹底的に壓  
迫せられ後半六高的疲労するや漸  
く効を奏した程度に止る。しかし  
高校の進むべき道を示すとして  
意義が深い。またその精神的方面  
において昨年の如きやゝ弛緩した  
様な分を脱してコーチヤー本田  
君を信頼してそれを中心によく團  
結し悠々あせらず一戦一戦最善を

盡した事は他の高校が勝を焦つて  
自滅するやうな傾向が現受けられ  
たりに思ひ合せて嬉しく思はれ  
た。

早高は今年はあの程度で成功し  
得たが來年度においては疑問であ  
る。故に早高に一層の完成を期待  
する。

## 二つの流れ

結局この大會において我々は高  
校に二つの流れを見る。早高、東  
高、成城は一方の代表的なティーム  
で、全體の動きに比較的滑らか  
な感じを受ける。これに對して六  
高、松江が地方を代表するもので

幾分硬い感じを受けた。  
高校諸氏がその意氣においては  
勿論、技術の方面でもより科學的  
な研究によつて各校の歴史を、そ  
してまた日本蹴球界の將來を、輝  
かしいものとせられん事を期待し  
つゝ摶筆する。

S 4-2-1 → 中国の奉天東北大学

## 東北大學を迎へて

### 新春蹴球界の珍客

杉村正二郎

南方支那の蹴球界の發達は、夙  
に板東選手権大會を先年來朝した  
上海交通大學等により吾國にも十  
分知られてゐるが、北方支那特に  
東三省における状況は殆んど不明  
であつた。此の時に當つて奉天東  
北大學の來朝は相當興味を以て迎  
へられた。

惜むらくはその計畫が餘りに突  
然であつたことで、大日本蹴球聯  
會に依頼のあつたのが舊曆二十日  
頃で、協會から東京カレッヂリーグ  
へ帝、慶、早、明、高師の内から三  
回試合をする様にとの交渉を受け  
た時には、リーグでは既にスケデ  
ュール全部を終了して帝大はチ  
ームを解き、慶大は關西に遠征し、  
早大の主力は早高と共に京都にあり、  
在京のチームは明大と高等師  
範のみであつた。やむを得ず一月  
に入つてから、協議の結果慶應、  
明治、高師が試合をする事に決定  
して奉天軍の上京を待つた。なほ  
明大は十一月初旬にリーグ戦を終  
つてゐるのでコンディションと  
しては非常に不利な時期であつた事  
は明大チームにとつて氣の毒であ  
つた。



さて十三日着京した東北大學選  
手についてその練習振から見た處  
では、上海方面のチームよりも見  
劣りのする事、可成りのスピード  
を有し且つショウトバスを用ひて  
ゐる事等でまづ東京リーグの第一  
部と第二部との中間位に相當する  
力量を持つものと思はれた。體格  
のよい事や支那チーム特有のフット  
ワークも見のがせない特徴であ  
つた。

これに對して第一戦を承つた高  
等師範は對一高戦のために最近ま  
で練習を續けてゐたチーム、これ

が、その割に得点の少なかつたの  
は東北大學側のHBが餘りにバツ  
クしてゐたためにシーティング・  
レインデで狹められた爲であら  
う。

これら三試合を通じて東北大學  
軍に感じた事は、彼等が練習中に  
はショウト・バスを用ひながら試  
合中に殆んどそれらしいシステム  
を見せなかつた事(時々にはG・F  
とR・Iの間に見られたが) H・Bライン  
が一般に下り過ぎて

みて、急に攻撃に移つた時は勿論  
敵を壓迫し續けてゐる時にも攻撃  
隊形を取らない事で、こゝには考  
慮の餘地がある様に思はれる。し  
かしこのシステムのために彼の慶  
應に二點しか與へなかつたのかも  
知れない。と同時にこの戦法では  
一方味方の得点のチャンスが少な  
くなる事を考へる必要があるで  
あらう。又デフェンスが續く時に  
(特にC・Kの場合) F・Wまで  
がバツクする傾向があるのも缺點  
の一つとして數へられる。

個人としては中々立派なプレー  
ヤーが居り、C・F耿氏のボール  
をカバーしながら猛進するあたり  
同大學唯一の南方支那の人らしい  
處が見られた。耿氏は十三日、十  
四日の練習の際にはチームを指導

して居たのでコーチヤーかと思つ  
て居たが、試合にはO・Fとして  
出場して居たのは意外であつた。  
尚且氏は同大學の教師で南方支那  
の出身である由を後になつて知つ  
た。

O・H夏氏も立派なプレーヤー  
であるが、少し動きすぎる質があ  
り、且つバスは餘り正確ではない  
様に見受けた。又L・W周氏  
も其のスピードとチャンスを作る  
事とに一流の處が見えて感心させ  
られた。



レフェリーの見地から云ふとブ  
レーがかなりラブであり、意識して  
やつて居るとは見えないがアーヴ  
ル・ブレーが可成り見受けられた。  
適當な指導者がないために知  
らずに用ひてゐるのではなからう  
か、唯ジャムブ・キックが殆んど  
無かつた事は支那チームとしては  
珍らしい。このチームが良コーチ  
ヤーを得たなればまだ延びる  
可能性を多分に持つてゐる様であ  
る。もし此の遠征の計画が九月ご  
ろに発表されてゐたなら、一層有  
益な試合が見られた事だらう。今  
後の遠征の計画は成るべく早く發  
表される事を希望して拙文を閉る  
(四、一、二十二日記)



奉天東北大學對明大チームのアソセーシヨン蹴球試合  
Meiji-Mukden U soccer game.

# 中等學校蹴球大會の印象

## 御影師範が優勝したサッカー

吉 保 秀 文

大會主催全國中等學校蹴球大會のサッカー戦について感想を述べる、まづ各チームの特色と地方的の特徴を見ると各地方を代表して集つた八チームはよくその地方の發達程度と技術を示して居た。以下順次記して見よう。

御影師範。御影師範は傳統的に悪された歴史ある強チームである。優勝レコードの多いことも勝利の自信を強めたことだらう。由來師範チームは制度として練習に悪されて居る。また神戸附近では技と力の優れたチームが多く、試合する機會や優れたプレーを見ることが多いのが刺繡ともなり、從来のロングキックのみに頼らない。

でショートパスを混じて合理的に攻めることに成功してゐる、試合劇れといふ點において代表地方チームに感謝すべきである。

平壌高等普通學校、朝鮮チームは内地チームに比して駿足とキックの速さが目立つ。出足の早いペネのやうな脚とその獨特のフットワークがある。試合に際してファイティング・スピリットの盛んなことは驚くが如きは周囲の事情に由るかも知れない。しかし戦法としては合理的なものとはいへない、單に強く蹴らうとする傾向が多かつた。又昨年に比べて反則が少くなかつたのは喜ばしいがハンドリン

グが多過ぎる、朝鮮チームの特色として餘り感心したものではないむしろ寒心の至りである。

青山師範。綺麗なチームであつた。昨年の代表チームの附屬中學とよく似たチームで、理智的な温和しいチームプレーを示してゐた。そして全體が一團となつた、コンビネーションの取れた好チームだが、熱と力とが技に伴はない、嫌ひがあつた。機會は利用するが今一步押しの手が欲しい。昨年確實に附中が敗れた時と同じ感じが浮んだ。今一と息江戸兒式なファイティング・スピリットが望ましい。

明星商業、明星商業は相當に古

く左下へ

く右上へ

いチームだが、年によつてチームの強弱が甚だしい。今年のチームは小柄な均齊の取れたチームで、コンビネーションを頼つて戦ふといふ點は好いが最後に頼れるポイント。メーカーが見當らない。相手が相當に強いチームの時には一人その感を深くした。由來大阪には中等學校に強力なチームが出現しない。その大成を思はしめるチームを観見てその成長を期待してゐるに期待ほど延びないのは何故だらうか、お膝下出場チームとして一考して戴きたい。

廣島一中。八チーム中唯一の中學チームだと、流石に傳統力を偲ばしめる。師範チームに比べて明星商業と共に體魄は小柄に見えたが、廣島地方代表チームだけにそのプレーに精神せられた所があつた、元氣に勝氣に廣島代表として堂々と戦つてゐた。健運頗く最初から平壌と衝突したのがこのチームの不運であつた。

愛知一師。チームに何處か荒削りな點がある。個人的に有能なプレイヤーがあり、又ファイティング・スピリットに燃えて元氣に戦つてゐたが、セオリカルに戦つて行けないだけに偶然のチャンスを捉へんとするかのやうに思へた、試合に熟し過ぎたのではないかと思ふ。

滋賀師範、最初から強敵御影師範と會したのは同情に堪へないが、球の取扱ひ遅く策戦の根本的研究なく、動もすれば個人プレーに走らうとした傾向が見えた、地元にあつては個人の好ドリブル等で相當得點し得るとしても本舞台においては無理ではないかと思ふ。

富山師範。北陸の地にあつてチームの數も少く練習期間にも悪きれない地方としては十分に技を延ばすといふことは不可能かも知れない。しかし昨年に比してその試合振りに一段の進境を示してゐたがまだ物足りなさを感じる。

一般のレベルは昨年に比して確かにあらゆる點において向上の跡を示してゐる、或るチームはその熱を或るチームはその技を力を伴うて益々チームの力を充實してレベルを高めるやうに努力して戴き度い。

廣島は昨年確実に敗れ、今年また平壌に敗れたのは同情に堪へない、廣島としては十九分、二十七分のチャンスを捉へて、今一點リードして置けば樂にゲームを進め得て勝敗の地を變へてゐたであらうに。しかし二點をリードして平壌無得點の際に平壌は駿足と個々のフットワーク多少優れたとしてもフォワードとして恐るべきプレヤーはL I金のみとしたならば何故にこれを封する策戦に出なかつたのか、廣島は餘りに平壌を恐れ過ぎた、あの洗練されたコンビネーションを持つフォワードで得點の出来なかつたのはハーフのフォローが利かなかつたからだ、駿足とキックを恐れるとしても老巧なプレヤーH C堀内をより有效地に使ふべきではなかつたか、平壌のG K李根津は光つてゐた、正確なジャッジメントは態度平壌の危機を救つたか判らない。

富山師範對明星商業 進展の遅いゲーム振りだつた。明星R W津田の二本のシュートと後半左側のC KをL I香川のチャージボールにR W津田のヘディング又もやゴールイン富山は後半L I西郷の深い球をL I鈴木好走よく捕へFC大野のシュートにより一點をリードしてゐたのだから、そのセンタースリーの連絡よく、青山のコンビネーション整はない前に今一點を加へて置きたかつた、後半となつてペナルティーキックで青山と同點となつてから愛知フォワードの連絡が亂れたのに一方青山のコンビネーションの整備が勝敗の分岐點をなした、たゞ兩チームのG Kの技術の差も勝敗に大きな影響を與へてゐる。

平壌高普對廣島一中 廣島前半ペナルティで得點、三十分L I寺口よく中にパスしてR W諫訪の長いサイドキックで得點して優勢を示したが、平壌三十三分にコーナーキックの球をL I金シートして射い、後半に平壌のL I金ロングシュートに廣島G K村岡のセーブ利かずゴールインでタイとなる。平壌その駿足と出足に廣島を壓し廣島方これをスライドで退けんとしたが及ばず、L I金よりRI李へのパスをRF樋本カットにミスして李のシュートに得點を許した。

チヤンスは御影に奥へられC Kの青山ゴール前の混亂裡に御影ヘッドティングにゴールを陥る。御影迫撃益々急なる折から青山これに屈せずR W井田ドリブルに敵軍深く内薄して、L I森下輕く受けてブツシニコトに一點を返して激戦に激戦を重ねショートにロングにドリブルに鮮かなプレーと巧智なヘッドワークに戦機を作り、緊張裡に四對二の接戦に終つた、兩チームともよく戦つた、御影の勝因はR W田中の活躍に貢献が多い、一方青山のR F枝村の好ボジションと好キック、G K八田の好防は點の開きを少くした。得點が一對一以後青山に闘志失せた氣味が見えたのは御影をしてますます乗せしめた結果になつてゐる、御影のR I空野に今一步進出を望み度かつた。兩チームとも強いハーフ。プレーがあつたので球の進行に眼ざましいまで早く動いてゐた。

平壌高普對明星商業 明星は對富山師範の對戦振りとは見違へるばかりの出来栄で小編ながら出足も相當に早く、コントロールあるショートバスでよく平壌を攻めてゐたが兩インサイドをバツクさせ得點の差を少くせんとしたために屢々L W津田、L I村上の好連絡で逆襲に出で得點の機会を捉んだが惜しくもショートバスを失して再三の好機を空しくしてゐた。一方平壌はフォワードの連絡の好調と駿足に委せて、明星のバックスの連絡の整はない間にL I金のシュートに二點、後半明星の懸命のディフェンスのマークよく流石の平壌も得點する機會少なく見えたが、明星の疲労のためにバックスの連絡のカットを繰りうたまでもL I金シュート、續いてF C車のシュートに終つた。明星はよく戦つたがディフェンスの備への整はない間に二點を取られたことは作戦の裏をかゝれた形だ、しかしあくまで玉縞的に根氣よく戦つて平壌のゴールをおびやかして無得點に終つたとしてもその元氣は賞すべきである、後半疲労のために二點以上は止むを得ないとしても平壌ポイント。メーカーの金を思ひ切つてマークする策に何故出なかつたのか、バックスの懸命の守備とまつて得點開きを少くとも二點は

減じたであらうに。

◆ ◆ ◆  
御影師範對平壌高普 戰前の期待を裏切らず近來稀に見る優勝戦らしい試合であつた。

會戦中央に戦ひ御影壓して好機あるも得點せず、平壌御影のバツクを駿足に破つてゴール前の密集ならんとする際御影フルの反則にペナルティで平壌得點、續いてL I金のロングシュートに二點リードを示す。御影R W田中R I空野のショートバスに進出の機を窺ふも成らず、突如L W琴井谷、L I寺口L H喜田のトライアングルバス遂に成功して得點、續いて琴井谷のドリブルセンターに飛んでF C大橋よく之を物にして二對二のタイとなる。平壌駿足とキックに進めば御影をカットしてディフェンスからオフェンスに移るとF W HBの一體系あるコンビネーションを利して戦ふ中に、平壌遂に恩まれ金の良いショートに一点リードして前半を終る。後半御影一點を入れれば平壌又もや一點とシーソーゲームに進んだが平壌の金を御影のR H中部C H立岩がマークしてより平壌は得點の機会を減じたが御影もR I空野のドローのセーブのため右側より進出を阻まれ主として左側より破らんとするもR H玉田、L W琴井谷をマークしてL I寺口とのショートバスをカットし、よく防ぎL I寺口の活躍思はしからず四對三でタイムアップと見えた時機会は遂に御影に廻りてL W琴井谷よく走り中央に廻せばF C大橋R I空野一團となつてゴールを突き思はざる得點をして四對四のタイで、ゲームは三十分の延長となり、爾後御影氣をよくしてからフォワードの好連絡復活してF C大橋L I寺口L W琴井谷と渡り琴井谷深く敵陣にドリブルしてシュートすればゴールイン、續いて平壌のバックスの反則にペナルティを得て得點、平壌二點をリードせらるゝも屈せずL I金大童となつて奮闘し、右にパスすればR I李の絶好のシュート、ゴールを陥れてその差を一點に縮む、兩軍共に守り攻めて最後の奮闘を示す中にタイムアップ、さしも二時間に渡る息づまるやうな激戦も六對五で御影の優勝となつて

終つた、特異の個人プレーより連絡あるチームワークが勝利を示した、チームプレーの眞価を發揮したものである。

御影最初の苦戦は定石通り右側より攻めて左側にバスして得點せんと努めたが平壌側にL I金のあるR I空野のダッシュ遅れて平壌の駿足にボールをカットせられた上平壌のキックに備へるにL F三枝の負傷のためにプレーに缺陷を発見されて攻められ、或はボールの飛んだ後に足に向つてスライドしてフリーキックを取られたりしてゲームは不利に進んだ、中途作戦を變じて左側を利して得點の機会を作つてみたがL I寺口の出来思はしからざるために苦戦に陥つた。對青山師範の際のやうなプレーを示し得たならば今まで苦戦せずとも勝てただらう、御影の主将L H喜田の地味ながら確實なプレーは特筆すべきである、H C立岩H R中部の健闘、R F玉田の僚友三枝を助けて奮闘してみたのも見事い。

一方平壌もよく戦つた、その獨特のフットワークとキックに二點をリードしたが最後にL I金がマークせられてから得點の機会がなくなつたのは金に頼り過ぎたことを示す、又G K李が傷いて優勝戦に出られなかつたのは平壌としては大崩壊であつたらう。

ざりしほは大いに研究を要する。京都師範は體格優れ、又ロング・キックに秀でたりしもショート・パスにより以上の研究を要する。又京都師範は師範獨特のラフなるゲームの仕方である。今後は紳士的にゲームをされる様に考究されたい。

がらず、元氣がないのは良指導者のないためではないか。向後は斯界のために發展されん事を望む。湯浅蓄電池5(2-1, 3-0)1みづほサッカー。湯浅は老巧高橋、宮地、渡邊の諸氏あり、みづほは熱田中學出身者及在校生で作られたチームであるに拘らず、此の日チーム・ワークは非常に不出来で脆くも一敗地にまみれたのは遺憾なことだつた。

明星サッカー2(1-1, 1-0)1湯浅蓄電池。兩方共大阪のチームで又同じ様な戦法のチームで、加ふるに時々ゲームをなしつつあるため双方共にやりにくかつた事だらうと思ふ。湯浅チャンスを得て一點を先取すれば、明星之れに無い前半を終る。後半戦に入り明星は貴重の一得点を止む。湯浅は大阪サッカー・チームのゴール・キーパー渡邊、ハーフの宮地、ワードの高橋の諸氏を擁して奮闘されしも遂に及ばず、健念なことだつたと思ふ。

濱松サッカー2(0-1, 2-0)1曳馬蹴球團。前の明星対湯浅の試合の如く、このゲームも濱松同士の試合にて、困つたことだらう。曳馬蹴球團は前半に一點をリードして前半戦を終り、安心したのに反して、濱松サッカーは、後半戦開始後四分にして一點回復して元氣づき、共に奮戦力闘し濱松サッカーはタイムアップ數分前にゴール前の混戦中貴重の一得点を止む。曳馬蹴球團の健闘の甲斐もなく、遂に濱松サッカーに凱歌あがる。

明星サッカー4(3-1, 1-1)2濱松サッカー。明星サッカーは前半に三點を得たに對して濱松サッカーは一點を得たのみ。後半戦は一對一で、濱松サッカーしばしば好機ありしもフルバックの好防により、遂に勝を明星サッカーに譲る。明星サッカーは必勝を期して來名し、そのチームは老巧者と輕快なる人々との調和よろしく、明星商業系の一體で繋りのよい氣持のよいチームであつた。濱松サッカーは濱松高工を中心とした軽快なチームであつたが、フルバックとゴール・キーパーとの連絡が好くなかつたために、明星に敗れたものと思ふ。

## 東海蹴球大會

### 松 田 生

二月九、十、十一の三日間、第八高等學校及熱田中學校の兩校庭で東海サッカー大會が、名古屋體育協會主催、大日本蹴球協會名古屋支部後援の下に開催された。この大會は第一部、第二部に分ち、第一部は中等學校、第二部は俱樂部とし、前者には十校、後者に九俱樂部參加して隨分盛大であつた。

第一部は多く近縣なるに反して、第二部には、明星サッカー、湯浅蓄電池蹴球部、濱松サッカー、曳馬蹴球團(濱松師範系)等の遠來のチームを迎へたのは主催者の欣幸とされる所であつたと思ふ。

### 第一 部

愛知商業1(1-0, 0-1)1明倫中學。この試合は随分好機あつたにも拘らず、延長戦三十分を行ふも勝敗決せず、レフエリーの好意により更に十分宛戦つても結果つかず、遂に再試合を行ふことになつた。

明倫中學2(1-1, 1-0)1愛知商業。再試合には明倫は前日よりも連絡よく、愛知商業は元氣なく、前半に明倫中學に一點を得られて意氣順に揚らず遂に愛知商業敗る。愛知商業は、蹴球部開設後數年間は元氣よく全員よく經りがあつたけれども近年頓に衰へた、先輩諸氏の良指導を俟つて捲土重來を期せられたい。

岐阜師範對大垣商業は兩校共に棄權。

愛知一師3(1-0, 2-0)0津島中學。津島中學はコンピネーション好きも、フォーワードのシュート

の研究足らず、しかし優勝チームに三點にて喰止めしは偉とすべし。

熱田中學2(2-0, 0-0)0 愛知工業。愛知工業はハーフタイム前に熱田中學に二點先取されて元氣なく、後半戦において屢々好機を得しもシートきかずもう一息といふところで常に失敗してゐるのは惜しい、今後一層努力を望む。

京都師範2(0-0, 2-1)1東邦商業。東邦商業は、二三年前に蹴球部の新設を見たが、部員の熱心なる研究と練習により京都師範を苦戦せしめたことは賞するに足る。

愛知一師3(2-0, 1-0)0明倫中學。明倫中學は、年少體験の人が多かつたけれども終始元氣よく、玉砕的に奮闘した。然しチャンスを十分に捕へ得ず遂に敗る。今後はチャンスをしつかり捉へて得点する様に努められたい。

京都師範9(6-0, 3-0)0 熱田中學。熱田中學は愛知工業に對して得點せし如く、京都師範のゴールに向つて、もつと確實にシュートを多く送つたならば、遂には零敗をまねがれしならん、しかし最後までゲームを捨てず健闘されしは賞すべし。

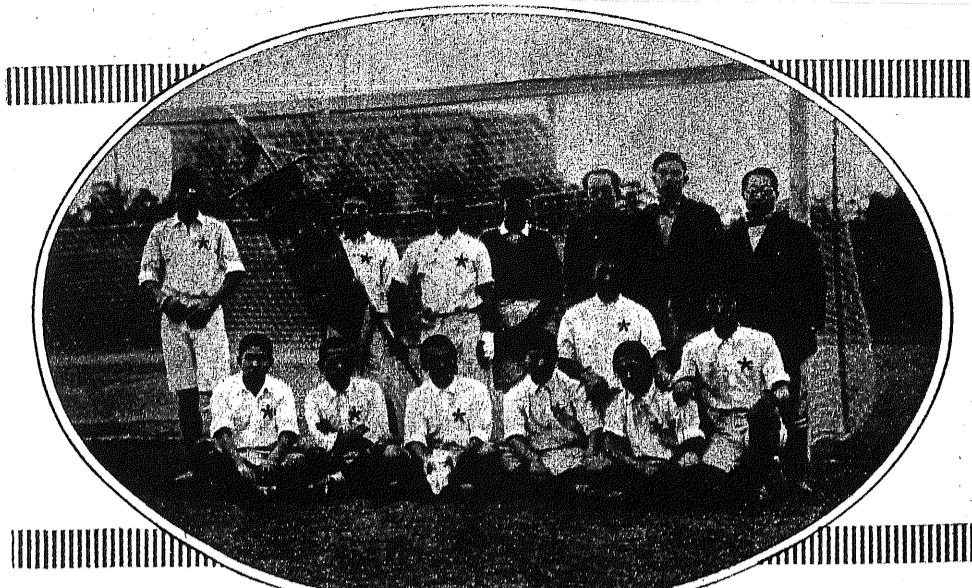
愛知一師4(2-0, 2-0)0京都師範。愛知一師は今春名古屋地方を代表して大毎主催の全國中等學校大會に出場しただけに、好い所があつた。京都師範と比較すると體格は愛知一師の方が劣つてゐた。併し愛知一師は、よくチャンスを得て、之れを確實に捕へてゐたが、コーナー・キックを六回も繰返しながら一度もゴール・インセ

湯浅蓄電池3(1-1, 2-2)3八高クラブ。湯浅、八高共に技術伯仲して湯浅一點を先取すれば八高之れに酬い前半を終り、後半においても湯浅リードすれば八高又一點を得てタイとなり、シーソーゲームとなり、三対三でタイムアップとなつたが、延長戦に入り八高は遂に棄權した。八高クラブは練習不足で平常の元氣なく、コンビネーションに缺くる所あり、ために勝つべき試合をロストしたと思ふ。

明星サッカー4(0-0, 4-0)0 御器所クラブ。明星サッカーは優勝候補チームナシに御器所クラブに對して壓迫を續け、好機あることに得點してゐた。御器所クラブは名古屋商工蹴球部の人々に他所から二三名加つたために連絡悪く、折角の好機をつかみ得ずして敗れたのは残念であつた。

曳馬蹴球團5(2-0, 3-1)1 A・Dクラブ。曳馬蹴球團は濱松師範出身者と在校生によつて組織され、チームで元氣横溢、A・Dクラブは當地方における唯一の會社チームで、三菱内燃機の社員により眞面目に、熱心に研究練習されてゐる。O・F佐藤、O・H林、L・F笛木氏等の如く、元氣な人々により此上共研究され、機會あるごとに試合されたらば、より一層進歩さることと思ふ。

濱松サッカー3(2-1, 1-0)1 岐阜蹴球團。濱松サッカーは岐阜蹴球團の陣形整はざるに乗じて一點を先取す、岐阜蹴球團もさるもの直に點を酬いて同點となり、兩首の熱戦ものすごく濱松サッカーは數分にしてコーナー・キックを得てゴール・インし、一点をリードす。後半には濱松サッカーは一點を得、三対一にて岐阜惜敗す。岐阜蹴球團は光輝ある歴史を有するチームでありながら近年氣勢あ



關東中等學校蹴球大會に優勝した青山師範チーム  
Aoyama Normals, Kwanto intermediate champions.

## 青山師が四回連續優勝した

### 第十一回關東中等學校蹴球大會

山 田 午 郎

東京朝日新聞社後援東京蹴球團主催の關東中等學校蹴球大會が創始されてからこゝに満十二ヶ年を閏した。昭和二年は諒闇につき御連應申上げて中止となつてゐるから、回を重ねる十一回、今では我が國最古の歴史を持つ唯一のものとなつてゐる。この間斯界に幾多の名選手を送り出してゐるが去る一月二十日を第一日として同二十六、七、二月二、七、九、十の七日間にわたり開催された第十一回大會をとほして見ても、立派な素質を持ち、将来に望みをかけ得る若き選手の數々あつた事は蹴球競技将来のために慶福に堪へない所である。

東京地方は舊曆二十四日以来雨らしいものは粒ほども降らず、第六日まで使用した市外ヒ井草競技場最終日の第七日に充てた明治神宮外苑競技場も環氣なく乾燥し切つて、一走一蹴毎に砂煙の立つといふ状態で決して絶好の條件に在りとはいへないが各選手はその力量を遺憾なく發揮することが出来た。これは本大會創始以來の記録といはねばならぬもので、二、三のゲームが風に悩まされたが、大體において大會としては良好なコンディションであつたといへる。

参加は二十五チームで六日間にわたり舉行する豫定であつたが

第五日に充てた二月三日は故久邇元帥宮の御葬儀當日になるので哀悼の意を表して中止した爲めに、准々決勝後一週間の休養を取り元氣恢復した所で准決勝から行ふ豫定が崩れて、准々決勝に残つた日白中學對水海道中學の試合はくり上げて豫定より一日早く行ふことになり、ドイツ協會中學對青山師範の試合は四日繰り下り、浦和中學對茨城師範、淺野綜合中學對埼玉師範の二試合は准決勝の前日に行ふといふやうに變更された結果、浦和中學對茨城師範、淺野綜合中學對埼玉師範の試合の勝者の准決勝も、最終戦の前に多少なり共休養を攝る便宜上准決勝の豫定も變更して、決勝戦に臨むにコンディションを均衡のとれるものにした。

かくて決勝戦は前回のやうに青山師範と茨城師範の間に行はれることになつた。一兩年來關東地方

の中等學校蹴球界に目覺しい進出をした茨城師範の、准決勝における矢ノ中主將を中心にしての飛躍から、また一方青山師範の選手故障等に依つての意氣沈滯等から推して、その鬱懃の移り行く所に興味はかけられて、十日午後二時半青川側の風下に陣した青山師範の先頭に依つて決勝の幕は切つて落された。この奇しき顛合せは不思議にも前回の如く前半得點なく、後半に入り青山師範二點を占めて又も鬱懃は青山師範の手に收められてしまつた。

青山師範は一月行はれた大會主催の全國大會において關東北の代表権を握り、今まで優勝の榮譽を據つて遂に當々關東中等學校のナンバーワンを以て任することになつた。

#### 第一回戦

その勇顛を承つたのが場外から

滿々たる鬱氣を持つて關東勢に戦ひを挑む静岡師範と、斯界に古くからその名を知られた明治學院中である、明治學院中は本大會の古参で各戦士は相當の技術を持ちながら、常に意氣に缺くる所あり敗戦を繰返してゐる。この一戦も主將大塚に全軍を叱咤するの意氣があつたならより善戦し得たであらう。

C・F浅岡の小身を以てして見事な球のこなしも常に後援なく、F・B山田等の好守も遂に空しく零敗を要してしまつた。

つゞく栃木師範と麻布中學の試合はいくら麻布がもがいても栃木の金城鐵壁には一矢を報い得ず終るものと見られてゐたのに、栃木のF・Bの過失續出と麻布F・W線の軽快とチームの結束はよく栃木を引き廻して快戦をつゞけてゐたが、後半に至つて善戦効なくゴールを重ねられてしまつた。しかし麻布はこの大敵との薄闘によつても將来に囁きし得る點が多々ある。

この他第一回戦に善戦して惜しくも敗れ去つたものに府立一商、青山學院中、内城高校等、日大二中、成城中學がある。府立一商は統制あるチーム・ワークを以て立派に水海道中を壓迫してゐたが最後の押しか汲かず、ためにゴールを擧げ得ずして大會規定の抽籤に敗退したのはあきらめきれぬものであつた。このチームは技術において確かに水海道中の上をいつてゐてこの不運にやつただけに哀惜

日大二中は浦和中に比しては洗練さはないが、相當押しのきくチームではあつたが、前半は浦和の意氣に壓されて自力を現はすこと



第十一回關東中等學校蹴球大會青山師範と茨城師範の決勝戦  
Final game between the Aoyama Normals and the Ibaraki Normals.

左  
ペ  
シ  
カ  
ウ  
フ  
ブ  
く

なく終つた、後手にまはつて後半に入り力闘漸く同點として不覺のペナルティ・キックにまたもリードを奪はれた。しかしラストに近く浦和のバックスを完膚なきまでに撲滅してみたが、惜しやダメシユ効かず、その儘浦和に勝名乗を占められてしまった。

その昔から斯界に幾多の名選手を輩出した成城中學も第一回戦に敗退するほどに落ちてしまつたのは誠に氣の毒に堪へないものがある、往時の同チームの意氣は全くその影を潜めてしまつた。幾多の器用なプレイヤーもあるが、意氣の昂らぬためにチームの強味がない、闘氣滿々たる往時の闘士はなくも、先輩の意氣を汲んで飛躍するの時代を作るために意氣を昂めよ、然らばもつともと優秀な戦績もあげ得やう。チームとしては相手の東京高校(尋)よりも粘りがあつた、飛将河東田の作るチャンスも只一人東京方のG・K勝本の堅實なプレイに壊されてゐたのは味方のF・W線の無能よりも、相手方G・Kの妙技にあつたといへるが、それを吊り出すことが出来ない、さて往時の成城チームと差が出来てきてゐることを忘れてはならぬ、正當なるチャージは認められてゐる、チャージをより多く用ひて差支へなからう。

神奈川工業と本郷中との一戦は接戦を豫期されて、寧ろ勝は本郷中に在るものとされてゐた、果してゲームはエキサイトして神工前半は辛くも一點を收めたが後半に入つて回復されると思はれたのに本郷中のチームワーク亂れて神工の株園に委する状態に陥り、戦前の豫想は覆されてしまつた、最初メンバーノの不協が渙してそれが最後まで祟つた爲めに、力を十分に出し得ずに終つたのは返す返すも遺憾であつたらう。

## 第二回戦

明治學院中を一蹴し去つて遠征チームの意氣を示した鶴岡師範は目白中の爲めに思はね不覺をとつた、しかし鶴岡は飽くまで粘りなくチームとしてもコンビネーションなく、一般にモーションのスタートの遅い傾向があつたのは練習不足から來てゐるものではあるまいか、それだけ動作から來ることばかりをいふものではない、球道の判定と速度の識別もあるをいふのでもある、主將石田の善闘はバックス

スをよく指揮してゐたが、インナーとしての佐藤、大塚はもつとこれに策應する所がなければならぬはずである。

同じく遠征同士の栃木師範と水海道中の試合は、栃木が縣下體育聯盟の大會の爲め支障を生じて棄權の止むなきに至つて水海道は不戦二勝者となる。

第一回戦において青山學院中に辛勝した水戸中はドイツ協會中の鋭鋒の前に甲を脱いでしまつた、之は新興チームが老朽者の爲めにその力を出し切らぬうちに碎かれた感があるが、チームとしては弱いうちにもよく統制されてゐるから、将来望をかけ得ると思ふ。

城西學園中は強敵青山師範に對して氣負けてしまつたG・H朴の巧緻も青山の息もつかせぬ追撃に遇つて効がなかつた、しかし大敗のうちに最後まで力闘した所に貴い價値がある。

東亞商業は最後まで善戦して遂に浦和中の爲め三對零のスコアを止めた、ゲームの上には決して遜色あるを見出せぬにこの結果を生んだことは東亞に平常のゲームに依る洗練を要求してゐるものであるまい、練習は基本技術の個人的洗練であり、ゲームはその上にチームとして洗練を加へてゆくものである、勝敗を度外視してゲームを重ねることがなければチームの力が生じては來ないものである。

第四日に行はれた第二回戦の残り神奈川工業は浅野綜合中を昨秋破つて氣をよくしてみたが、三對一に敗れて遂に江戸の仇を長崎で打たれた感がある、浅野はキックオフと共に捨て身で勇敢な戦法を以て臨んだ、然るに神工はこれに全く氣を呑まれて受身の不利に立ち、コンビネーションを缺きどのラインも潰されてこれを拾收し得ぬ所に追ひこまれて不慮の一点を許し後手に立ち漸く同點にしたが、後半風下に立つに及んで屢次捉へた好機も闘土坂上、松永焦つて無爲、浅野に名を成さしめてしまつた、何事によらずスタートの肝臓であることは贅言を要せぬ、十分の用意あつて然る後に戦陣に起てとより言へない。

第二回戦の最後を承つたのが埼玉師範と東京高校(尋)である、G・H吉田の體軀を利しての活躍もG・K勝本の守備振りも少年F・B鶴崎、松元の根限りの防禦も、

それは埼玉F・W線の快走の前には到底支へ切れぬものであつた、懲をいふならば、前半のF・Kによる好機をものにすべきであつたらう、この好機を逸しても善戦してゐたが、前半終りに近く奪はれたゴールはキリリと張り切つた弓の弦が切れたやうにあとはガタ落ちてしまつた、それは若い人々でまとめられたチームとして當然であつたが第一回戦に惜敗した成城高(尋)と共に兩三年中には斯界に躍進し得るチームであることを疑はない。

## 第三回戦

准々決勝戦に残されたのは目白中、水海道中、ドイツ協會中學、青山師範、浦和中學、茨城師範、浅野綜合中、埼玉師範で斯界の宿將、闘將、新鋭の強豪がズラリと並んでゐる、斯くてその第一戦は水海道中と目白中の対立、水海道は府立一商に對して藏で残り、更に強敵栃木の乘轍があつてこの間に進出したが、仁科、羽富等の統率するF・W線、古谷の健脚で堅めたバックスは確かにここまで来る力量を持つてゐる。

豫期通りこの対立は接戦が演じられて遂に水海道無念の敗退となる、このチームは他に得點の機會が目白に劣らずあつたけれど共、右側の仁科、羽富に對して左側が策應することの不足で逸してゐた、これは今後において補ふ要があるし、後軍が目白の田村、任をフリーにして置いたことは拙いといはねばならぬ。

第五日青山師範とドイツ協會中の試合が行はれた、獨協は運參のためトレイニングも出来ず、慌ててゲームに加はつた人もあつて、チーム・ワークのとれるまでには相當の不利な時間をとつたが、廣瀬の巧妙と妹尾の元氣は常に攻撃に出るを忘れず、青山をして乘せしめなかつたのは偉い、しかも獨協は本シーズンに入つてチームの改革を斷行し前途を危惧されたが却つて更新の氣は堅い結果となりこの一戦によくその効果を示した、團體競技は融合性を缺く、二の巧者なプレイヤーを尊重するよりも、假令それより劣弱であつても親和融合し得るものを見て築き上げた方がチームとしての堅實さを加へるものである、獨協はこの一戦にもつと十分の備へがあつたならば勝ち得ぬまでもよりよき結果を收め得たであらう。

第六日行はれた浦和中と茨城師範は浦和遂に三對二の記録を以て惜敗した、これは體力がこの差を示すものといつてもよからう、浦和は技に生きてゐたが、もうひと踏張りの粘りがない、ゲームは勝氣に行かねばならぬもの、ムラのない各ラインの活躍があつたのだから、もう一步進めて、多少不安にスタートした茨城の裏に喰ひ込んで行くことがあつたならと惜しくも思はれる。

埼玉師範對浅野綜合中の試合は烈風に遭つて双方苦戦を續け、埼玉風上の前半に三點を占めて浅野は零敗した、後半地の利を占めた浅野は神工戦の調子を見せず、埼玉のゴール近くに揉み抜いても得



美土路東朝主幹から優勝旗を受ける青山師範主將長谷川君  
Hasegawa, Captain of the victorious Aoyama Normals.

點し得なかつたのは、前半の向風に悪戦した疲労の結果が災したもので氣の毒であつた。

## 准決勝戦

斯くて四チームをすぐり抜いて第七日に明治神宮外苑競技場で相見えることになつた、埼玉師範對茨城師範、これはこれまでの戦績から推して勝敗いづれにあるか全く混沌たるものであつたが、自力を信じた茨城が歩のよいゲームをして、埼玉は力の出ずじまひ、浅野と戦つた際そのまゝに各選手は制球力を失つて焦り、茨城の満々たる闘志に呑まれて前半二點の差は後半に入つて好機を得ながら物にし得ないで終つた、G・F大澤はその攻撃範囲を擴大し過ぎてF・W線の力量を殺いだ感がある。

このチームはパッシングの善用を期せねばならぬ、このゲームを通して見るに、バスの機會を失してゐる、この完成があればあの陣容で關東に覇を稱ふるは至難でなかつたらう。

残る准決勝の目白中と青山師範の前半は、文字通りの快戦といふよりも目白の善戦が物凄いものであつた、この健闘によつて青山も焦り出してきたので、後半の接戦に期待を持たれたが、結局目白は前半のゲームに終つてしまつた、これも前半の豫期せぬ收穫によつて勝を急げた結果、後半に入つて自重し出したことに依る、目白としては後半に波瀾を求めてもつと積極的に行つたら、勝を制し得ないまでも後半7-0のスコアは生じなかつたらうと惜しまれる。それにしても目白近來の精進努力はいよいよ報いられるの時期に近づいた、なほ一層の奮鬥を望んで止まない。

## 決勝戦

斯くていいよいよ決勝戦が行はれることになつた、茨城師範は第一回戦において、相手神奈川師範が學業の都合により棄權したので不戦一勝となり、立正中、浦和中、埼玉師範を破つて出で、一方青山師範は成城高(尋)、城西學園中、獨協中、目白中を抑へて残り、ここに兩者の対立を見るに至つた。兩軍選手の意氣に感じてか雪を呼

ぶ冷たい朔風も届いて静かな蹴球日和にかへつた明治神宮外苑競技場は、白線がクリクリと浮び上つて若き選手の闘志をそゝること一下子である、青山の先鋒に開始されるや直に自重して先づ守備から攻撃へ、寸分の隙も見せずに機をうかがつて對峙する、しかし茨城の主將矢ノ中の率ゐるH・B線は對峙戦に見せた威力がなく、青山の軽快なF・W線の追走に努める後手にまはつてしまつた。時の進むにつれて茨城は不利に陥つてゆくF・B大森の對峙戦に示した超人的飛躍も僅かに青山F・W線の進出を外す凡蹴となつてきた矢ノ中のボディショーンが流れ出したH・B線の兩翼はマークを忘れて追走に全力を傾げ始めた、前半兩軍スコアすることなく終つてゐるが、既に勝敗の數は明かになつた、茨城は對峙戦におけるかねく矢ノ中は何故H・B線を進めて積極的攻勢に出づるの策を用ひなかつたらうか、相手青山の辛辣な攻撃に備へる爲めにした布陣、それは相手を味方のゴールに近く呼び寄せて思戦し、徒らにチーム力を消耗せしむる拙劣なる力の技倆よりもその作戦において精構を逸してしまつた。

しかも敗れたる茨城も勝てる青山も共に頑氣に乏しいといへる、茨城に相手を懼れて闘氣を失し、青山は技倆を示さんとして闘氣に伴はないものがある、より強引に行くべきであらう。なほ茨城のG・K中島の許した第一ゴールは萬全の策を講ずべく十分の餘裕があつたはずだ、あの際の球捌きは輕率の譏を免れない、一方青山のF・W線が味方の球をキープするとき、常に第二段の策として之に追走してゐることは肝要なことであるといへる、この結果が即ち勝敗を決定づける貴重の第一點となつてゐることを忘れてはならない。

斯くて本大會は無事大團圓を告げたが、青山師範は連勝實に四回におよんでゐる、起つてこの精構を奪ふの勇士は何時出るだらうか。

# 今季後半のサッカー概観

## 來朝した中華民國の二チーム

山田 午郎

いよいよ櫻咲く四月だ。

去月十五日に船出した明大の野球チームが米本国土に乘込む、静岡の上野は塵懸に入つた。小川は早大だ、このフレッシュマンの対立は新味があつて入興味が加はるだらうなど最興々々に力を入れて通らしい人々が到る所で盛澤!山の野球談に花を咲かすこのごろ、ソフトボールはシーズン。オフなどのチームも約半歳にわたるシーズンのその活躍の跡を顧みて際感慨深きものがあらう。いよいよこれからが休養……ではなくて、これからが次のシーズンに處するその力の蓄積期だ。しかも新らしいメンバーも加つて樂き上げられる新チーム。この編成如何が次シーズンに物を言ふ、立派に物を言はせるためにそれそれ苦心をする所で、熱心なチームは既に三月試験の終了と共にコーチを聘して合宿練習を開始したのもある。世間は野球のそれ程に驅ぎ立つてはゐないが、シーズン毎に向と發展の過程を圓滑に辿つてゆく。

さきに文部省が體育状況調査の資料に供せんとして蒐めた、全國高等學校・專門學校についての各競技別の調査表によると、サッカーチームに籍を置く者は、野球、陸上競技のそれに籍を置く者の數を凌いで最上位にあることが示されてゐる。吾等の眼から見れば當然過ぎるほど當然のこと、年と共にいよいよその數を増し他の競技にはこの最上位を決して譲らぬと断言し得る。

最近競技選択に目覺めた學生が、サッカーの競技値を十分認識してこの結果が生れたので別に不思議はない。すべてはうつり變つて底止する所のない時勢だ。

斯く優勢な状態に置かれて多士齊々たる各チームは、前年度チーム解散の後を承けて新チーム編成に相當頭を悩ましてゐるが、この次シーズンに對する想像は之を他日に譲り、こゝには關東方面における昭和三年度後半の終末を求ることにしよう。

◇

東京カレッジ。リーグ戦は年末を以つて終了する豫定であつたが、第一部、第二部共に同成績の第五位が出来、再試合を餘儀なくされ、シーズン後半に持ち越された。

第一部における高師と一高、第二部が外語と明薬。前者は都人士の層薄の脇も漸くさめかけた八日午後三時から高師方の球場で行はれた。一高は元日早々京大球場で開催された全国高校大會に快戦をつゞけて、意氣昂然たるものがあつた。しかし關京間もないこのゲームは歩のないものと見るが至當であらう。大會に度胸の附つただけにR.W線は見違へるやうに威力を増し、懸念されてゐたF.B線も一層元氣を増して堅實味を加へ頗る有望。しかして堂々と高師を壓し開始四分にしてB.I大榮一點を收めてリードしたが高師は老巧勝田によつて同點に僅きづけ後半高師河本の得點で逆にリード

したが、一高左のC.KからL.I.永地得點して同點、斯く互ひにリードを争つての接戦に觀衆を喰らせてみたが高師は平凡なチャンスをよく物してまたもリード、しかし一高は恵まずその恢復に努めてタイム。アップ直前、實に得難きこのゲームを通じての絶好のチャンスを迎へたが、その努力は遂に報いられるところなくして敗れ、第二部に落ち行く悲運を喰つことになつた。

明薬と外語もこの徑路を辿つていつた。一月も終りの二十一日午後三時から法政球場に一戦を試みた、量の率ある外語のF.W線はキビキビした活躍の下にリード、リードで順調に押し進んだが僅かの隙を明薬のために捉へられてリードを奪はれ四対二で敗退した。

以上の如くして一高は遂に第二部に、外語は第三部に暫く霜を置くことになつた。

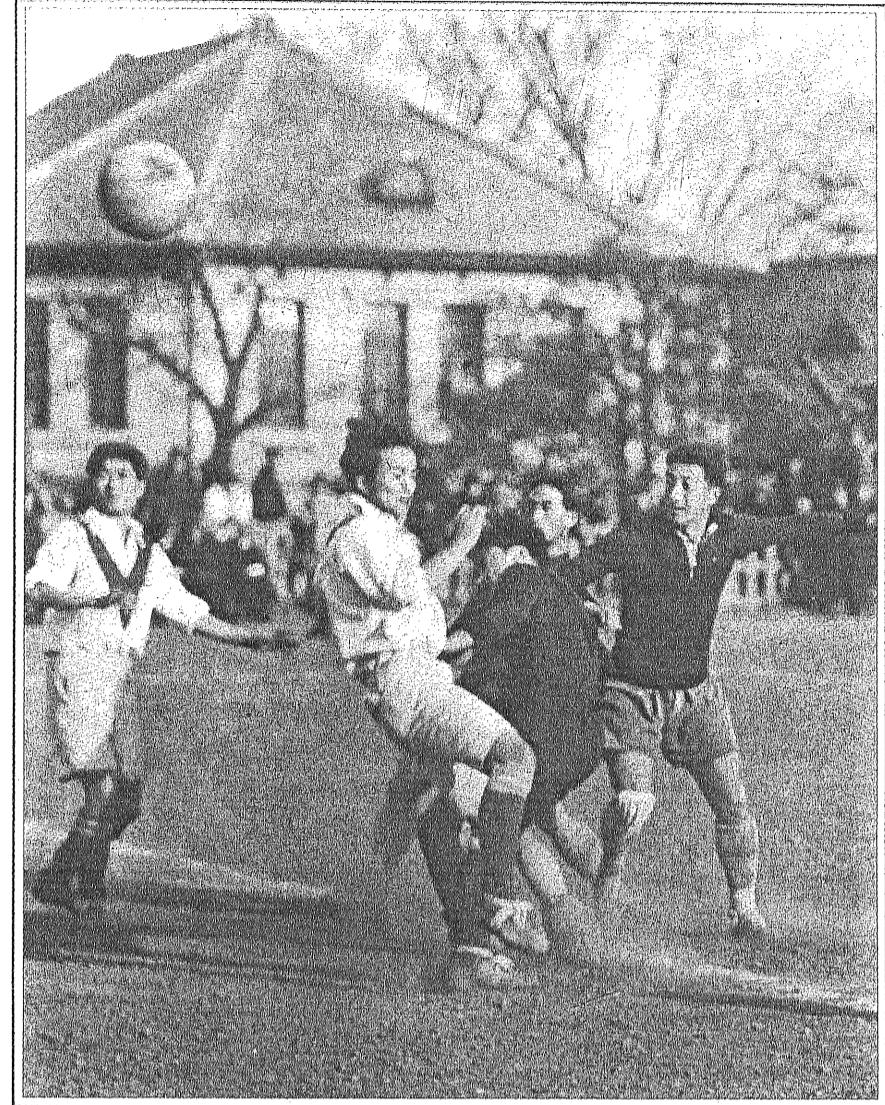
本リーグの構を終るにあたつて

一筆附け加へねばならぬことは帝大竹原主将の卒業である。東京帝大は關東のナンバーワン、否全國のナンバーワンであらうも知れぬ連年他チームの追隨を許さず、堅固なる陣營によつて我々として精進した竹原を學窓より送り出すことは、帝大としての痛事であり一般ファンにとつても相當の寂寥を感じしめるものがあらう。慶應もまた竹原とボディシヨンを同じうする濱田主將去る。共に斯界から惜しまるべき人、帝大は共に雲の如く人材を集め得たりとするも、この補充とそのチーム編成は興味あるものでなければならぬ。この邊にも次シーズンにおけるリーグの曲折が漸されてゐるやうにも見れば見られる。なほ現役を去つてリーグに活躍した人に早大の杉村あり、複雑したしかして多事のリーグをよく切り盛りしたことは認めねばならぬ事實があらう。

◇

シーズンも後期の、本年に入つて中華チームを迎へた。一時は日本のスポーツ發達の状況を實地について視察し、なほ體育的施設の概況を見學するため、一時は日本巡遊の途次、愛好するスポーツを以つて日本の青年に接したいといふ雅勝な心持を傳へて來たもの。前者が御ち満鐵の岡部平太氏の肝煎りによつて來た奉天東北大學チームは、後者は上海青年實業團の日本觀光の一環、之は雙方共に相當の戦績を収めたが、實をいふと東京の強チームはリーグ戦の終了と共に練習を休止してゐる矢先であり選手の故障等も多く、各チームがベスト。メンバーを以つてこれを邀へうことは至難のことであつた。從つて彼等一行の戦績を見るにはこれ等の點を考慮に入れる必要がある。

東北大學は一月十六日午後三時二十分から神宮競技場で東京高師と見えて一対零で勝ち、續いて十七日明大と試合して四対一の勝利を收め連勝を誇つてゐたが最終戦たる十八日の對慶應戦には危くも



上海青年實業團對東市學生選拔軍のア式蹴球試合  
Soccer game between the Shanghai Young Business Men's team and a pick-up team of Tokyo students.

◇ ◇

一方ダーバン、レナウン時代を追憶し得る多くの好球家は、兩試合を通じてのサフォーク軍に對し必ず失望を感じたであらう。(勿論當時の日本チームが幼稚なものであつたのかも知れないが)戦法において將又技術において、日本チームは彼等と對等の、否むしろ彼等以上の技を示し、反之彼等は

ストップ(殊にブレストによる)やヘッドに外人共有の妙技を示してゐたのみである。只G.H.ヒューズ君はその所謂ビリーであり、サフォーク軍の動く所必ず彼を見出したのは明かに彼の奮闘を物語るものである。又L.F.ウッドラブ君はそのドッソリとした體魄に如何にも落付を見せ、仲々の機智を示したL.M.ヒスコック君は該チームのチャンスメーカーでありL.I.タムソン君が全軍中の最短髪であるにも拘らず奮闘目覚しくチャーチにダッシュに敏活なプレーを示し、殊にR.W.マックローリン君のヘッドドリブルには思はず拍手を送らずにはゐられなかつたが大體に於て私達の期待が余りに大きすぎた爲か、彼等の技術に對しては誰しもが失望を覺えた事と思ふ。

◇ ◇

然しながらサフォーク軍が吾人に残して呉れたものの一つとして特記すべきは彼等のフェヤプレー

である。

『外人チームのプレイヤー中、バッカ・チャーチ、ブッシュ及びファウル等を繰返してゐたのは不快であつた。上脅のため有利に戦ふこともいいが、外人團のプレー振りに對して非難の聲を聞く時、今日の様なプレーを現實に見た事は悲しむべきことで、一面遠來の客を遇する所以でもなからう』。之は上海交通大學チームが昨春我國を訪れ、二對一の大接戦で神戶外人團に敗れた時のラフ・ゲームに對する某氏の概評の一節である。

こゝにおいて私は、我がサッカーワールドの反則に對する見解が誤つてゐなかつたのをサフォーク軍に依て説明され、あまつさへ過酷とまことに考へられる程の判定(殊に對京大戦に於て英軍キーパーが身を以て球を蔽ふた際の京大のチャーチに對する自由蹴の如き)を彼等が殘して行つて呉れた事を感謝し過去の我國サッカーが健全なる過程を経て來た事を心から祝い『我が國のサッカー界は誤らず』と叫び度いのである。(四、五、廿二編)

が我がサッカー界に貢献する所があつたかどうかを考究して見たいと思ふ。

◇ ◇

關學4-1、1-0英軍。五月十六日午後四時、於舊關學球場、主審リチャード氏、線審ラウズ、高橋兩氏、關學先蹴に開始。

【前半】關學最初臆し氣味で連絡に乘じ、英軍は長送球と頭彈に巧に攻撃に出で、早くも四分L.W.ヒスコックの門前好揚球を關學キーパーたき出さんとして得ず自滅的一點を與ふ。關學奮然として起ち五分L.W.島の好送球をO.F.東浦ヘッドにて右に落せばR.I.堺井すかさずショートして奪還す。關學更に調子付き六分英ゴール前の密集より出でた球をO.H.後藤三十碼よりの長蹴見事ゴールの左隅を貫いてリード。以後關學攻め續けたが、F.W.の連絡悪く且つ球を決め得ず屢次好機を逸す。三十分關學右より攻めR.W.岩田よりL.I.檀野へのパスをG.K.ラングランズ飛び出して取らんとしたが、O.F.東浦軽くトスして球はG.K.の越頭となりそのまま得點。更にハーフ・タイム前一分關學左より攻めI.H.守屋よりL.W.島へ渡り門前への低送球をO.F.東浦ストップ・アンド・ショートしてキーパー逆動作となつて得點四對一にて前半を終る。

【後半】關學F.W.の連絡悪きため英軍の壓迫を受け、八分L.W.ヒスコックの好パスとC.F.グレーの好蹴あつたが惜しくも入らず、關學屢次危機に臨む。十五分頃より關學撃沈断然攻撃に移つたが、兩インナーの追隨足らずして徒らに機を逸し、その儘終ると見えたが、三十五分關學最後の總攻撃成つて左より進み、ゴール中央

前の揚球をO.F.東浦ストップすればL.I.檀野時を移さずショートして止めを刺し五對一にて關學捷つ。

◇ ◇

京大2-2、1-1英軍。五月廿日午後三時五十分、於甲子園球場、主審オニオン氏、線審モリソン、正木兩氏、京大先蹴に開始。

【前半】先蹴を得た京大はその得意とする中央短送球で一舉にゴールに迫らんとしたが、さすがは英軍焦ることなく暫し中央線を挟んで相對峙する裡、九分京大R.H.加茂が下より出した門前揚球はL.I.野口よりO.F.一膝にとヘッドにて渡り、一膝の頭彈決つてゴールの右上を破り京大先づ一點を擧げたが、十四分英軍右より攻めR.W.マックローリンよりのやや返り氣味の球をO.H.ヒューズ強蹴してゴール左隅を突いて同點となり、十七分O.F.グレー單身ドリブルに大きく抜き、得點と見えたが僅かに外れ、廿二分英軍O.H.より出た揚球を京大R.F.小幡あわてて蹴り損じ、その流れ球をL.W.コリンガムすかさず飛込んで得點し英軍一息ついたが、京大ひるまず二十五分O.H.西村右タッチ近くの球を中央に送り、しばし混戦的短送球を続ける裡、O.F.一膝一度R.I.有賀に渡つた球を再び得てト・ショートに一点を返し再び同點となり、ハーフタイム直前京大バツクよりの球をC.F.一膝左に出せば門前の密集となり英軍危機に陥つたが、R.F.の好防とL.F.の機智に救はれて同點のまゝ前半を終る。

【後半】試合は漸く白熱化して兩軍共に數回の好機あつたが、兩前衛共に焦り氣味で徒らに敵後衛をして名を爲さしめて得點に至らず、タイム・アップ前五分京大O.F.一膝得意のパスを右に送ればR.W.澤野の強蹴決つて京大リードし、三十八分、京大最後のチャンスを得たが英軍キーパー身を挺して守り、タイム・アップ直前京大の緩みに乘じた英軍は右翼より急進、京大バツクを抜いてL.I.タムソンのヘッドに快技的一點を報いて三度同點となり引分けとなる。

京大 H.M.S.Suffolk

關學	H.M.S.Suffolk
齋	G K Langlands
門	L F Woodruff
安	R F Cordery
守	L H Ricketts
後	C H W.J.Hughes
石	R H T.N.Hughes
島	L W Hiscock
檀	L I Thompson
野	O F Grey
東	R I Collingham
浦	R W Mc.Laughlin
岩	

石 腸 G K Langlands

野 澤 L F Woodruff

櫻 井 R F Cordery

小 水 L H Ricketts

井 西 C H W.J.Hughes

守 加 R H T.N.Hughes

守 有 L W Hiscock

口 野 L I Thompson

一 櫻 O F Grey

水 野 R I Collingham

澤 野 R W Mc.Laughlin

◇ ◇

私は兩試合を通じて京大關學兩チームの技術や戦法を云々すべきでは勿論ないと思ふ。又英軍を共通尺度として兩者の比較を試みるなどはもつての他だと思ふ。然しひ故に關學が斯くも容易に勝ち、京大が惡戦苦闘の末引分を演じたか、之れは決して關學、京大兩チームの技術如何を示すものでなく對外人試合に於ける馴れ方を示すものである。即ち關學が常に近く神戸外人チームを控へてゐるため對外人チームの試合に馴れて居るに反し、京大はその地理的境遇より餘り外人チームに接してみなかつたためであつて、京大としては甚だ氣の毒な事である。而して一度京大と關學をして相撲はしめんか、必ずや兩虎の雌雄は容易に決し得ぬだらう事は、来る秋のリーグ戦に於て吾人が如實に認め得る所であらう。

## 英艦歡迎サッカー戦を觀る

### サフォーク號對關學及京大戰

米澤理

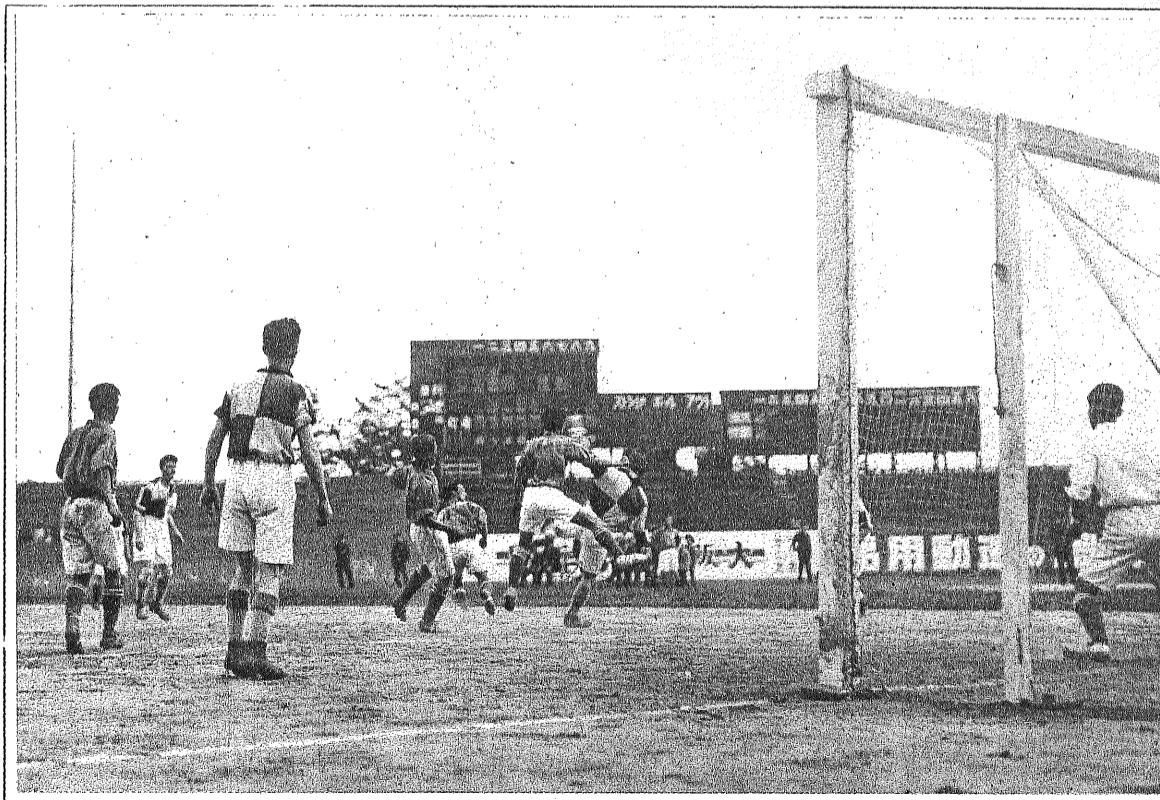
嘗て英皇太子ウェーラス殿下を迎へ奉つた際、ダーバン、レナウン兩艦乗組員が、神戸市後援、神戸高商、關西學院兩サッカー・チーム主催の歡迎試合に於て、ヘッドにキックにストップに、有てる限りの妙技を揮ひ、其の圓滑な連絡に満足の好球家を陶酔せしめたのは、今尙ほ私の記憶に歴然たる所である。

去る五月十六日及二十日の兩日舉行された（前者は神戸舊關學グラウンドにて關學と、後者は甲子

關球場にて京大と）英國使殿御召艦サフォーク號チーム歡迎試合は、該チームが香港駐屯軍チームであり、東京に於けるその第一戦に、現日本サッカー界の常勝軍東大と三對三の引分戦を演じ、而もその試合に於て前半三對零でリードされ乍らも、後半よく盛り返したのに従して、その底知れぬ力は既に關西地方好球家の話題となつてみた矢先とて、之が昨關西學生リーグの制關學、及び本年度の群星京大との對戦は、一は關西地

方代表チームの試金石として、一は英軍を通じての京大、關學の比較として、兩チームが之に當るに何を以てするかは、凡そサッカーを論ずる者の誰もが興味を注ぐ題であり、昨シーズン以來久しくビッグ・ゲームに飢えてゐた私達にとって一大福音でもあつた。

その試合の経過は既に新聞紙上に報道された所であるが、兩試合を通じて彼等の残して呉れた印象を新にするために、今一度此處にその経過を示し、以て果して彼等



英艦サフォーク號乗組員と京大のサッカー戦(甲子園球場)

Crew of H. B. M. S. Suffolk meets Kyoto U in soccer at Koshien.

84-7-15



(左) 神戸商大主催の全国中學、師範校蹴球大会師範部に優勝した御影師範チーム (右) 同上中學部に優勝した神戸一中チーム

Left: Mikage Normals, normal school victors in the All-Japan inter-middle normal soccer tournament at the Kobe Commercial University. Right: Kobe First Mddles, middle school winners.

# 今季の關西學生蹴球リーグ

## 期待される第一部の六試合

米 澤 理 一

猛練習の一歳は過ぎて若人の待ちに待つた蹴球シーズンは來た。茲に關西蹴球界の年中行事たるカレッジ・リーグ戦は、早くも十月十日の關西大學對大阪外語戰を皮切りにその戦端を開かれ、約二ヶ月にわたつて息づまる様な試合が次から次へと華々しく展開され行くのである。

關西蹴球界の一撃としての聯盟はその一致團結により、内容の充實においてプレーにおいて將又蹴球精神において、吾人の期待を満たして呉れるだらう事は勿論ながら、蹴球協會確立の今日、その事業の完成に向つてこれを助け、否リードして、もつて斯界のために多大の貢獻をなして呉れるだらう事も一般愛球者の深く信じてやまぬ所である。

顧みればその昔、關大、神高商、關學の三チームに依つて生み出された聯盟が、年々加盟チームを増加して現代においては、京大、神商大、關大、關學、大外語、大工大(以上第一部)、大商大、京醫大和歌山高商、神高工、同志社高商、大藥專(以上第二部)と、既に十二

の加盟校を數へ、昨秋以來大朝社の後援を離れて一人立ちするに至つたのを思へば、往時寶塚原頭に立つてその草分をしてくれた先輩達は感慨無量なるものがあらう。

しかも本年度において關東リーグとの聯絡問題も解決を見んとしてゐる。

二部に分けた十二チームが今春來鏡へ上げた技術を如何に發揮して呉れるか、その凝り處の櫻謀術歎は吾人の興味を喫る事頗りであつて、新加盟者たる同志社と大藥專が第二部において如何なる地位を占めるか、第二部より第一部へと進出を狙ふ小者が誰かは、これまた推測し難い所ではあるが、第一部における六チームが展開するに違ひない出は、如何なる解決を見出すか、殊にそのビッグ・フォーマとも考へられる關學、神商大、京大、關大の四強中で、關學が依然としてその王位を保ち得るか京大が鬼才を揮つて歎を唱へるか英氣勃々たる神商大が如何ばかりの亂闘を演じて呉れるか、ともすれば此處二三年意氣消沈の態であった關大が、痛憤激烈、以て往年

の黄金時代の再興を成就するか、實にや關西學生リーグは今文字通りの群雄割據の状を呈し、各チームは虎視眈々たるの有様である。

この時に當つて、一好球者としての私が之等四強の陣容と戦法より推して、来るべきシーズンにおける戦況を豫想して見る事も強ら無意味なことではないと信ずる。その記述の方法においては種々なる立場より觀察を進め得るが、今各取組の六ゲームを掲げて以て愚論を進めたいと思ふ。

◇

京大=關大(十月十二日)、昨シーズンにおける本試合は引分に終つてゐる。しかも之れがためか、リーグ中のダーク・ホースとして恐れられてゐた京大は機先を制せられたかの有様で、神商大に敗れ關學を破り得ず、遂に千歳に振返り残したのである。然し乍ら本年度に入るや京大はその陣容に大變革を行ひ、今や王位を占めようとの野心に充たされてゐるから、ともすれば關大的地位は危険視される本年度に於ける關大は前衛に於ては右に和泉、森、左に弱冠津田を有

してサイド。ラインに沿うて深く攻め入らうとの策をとり、特にハーフはセンターに山野、右に三谷を控へてその攻撃を一に右翼に集めてゐるの觀がある。けれども一方京大の陣容を覗くに、そのハーフ網は左より永野、西村、加茂下を細く張られ、加ふるに左バックに強豪野澤を備へてゐるからして關大の右翼よりの攻撃も可成りの困難を伴ふであらうかと思はれるしかし乍らセンターより左翼に至るの三人が、右翼よりの深いバスを確實に握り得れば、或は破り得るかも知れない。これに對して京大はそのF・Wにいさかの非の打も處なく、殊にその戦法はセンター・スリーを以て進まんとしてゐるから、關大ハーフ及びバックは相當の苦難を受けるであらう。

要するに勝敗は關大F・Wのロング・バスによる攻撃が京大バックをどれだけ悩ますか、關大ハーフが京大のF・Wを如何に食ひ止めかにあつて、動もすれば關大が苦境に立つ事は當然と思はれる。

關大=神商大(十一月二日)、昨秋第二位にあつた神商大は一人の卒業者もなく本年度の陣容は非常におそれられてゐた。然るに事故のため二三名を失ひ、そのF・Wラインに昨年ほどの威力を見出しえないので残念である。その陣容は右に高田、平山、左イン・サイドに直木を備へ、その攻撃線には關大と似通つた點が多い。大體において兩者の力は全く伯仲ともいふ。

べきで、ハーフにおいては關大は名藤、佐々を兩側に水野は中央に踏み止まり、關大に比して些か優勢と見られる。しかも右バックに好漢戸田があるから、折角の關大津田の奮闘も之に阻まれるおそれがあり、新に五高より來た左バック山本の奮闘一つに依て關大は相當の苦しみをするかも知れない。然しながら關大とともにO・F長谷場が直木と戸田との間にあつて兩者の關係を圓滑ならしめ得るや否やは實に關大F・Wにとつての死活問題である。故に結局此のゲームはハーフ及びバックの比較に歸するのではないかと思へる。

◇  
關大=關學(十一月九日)、昨秋勝敗の憂き目に逢つた關大が、捲土重來、復讐に燃ゆるは當然である

✓左下へ

✓右上から

る。關大はその兩翼の活躍と長跋によつて可成りの好果を收め得るであらうけれども、關學F・Wの侵略に相當の得點は許さなければならぬ。興味の中心は共にバックにあつて、關學バックが關大兩翼の侵入にどれ程懼まされるか、また關大バックは關學の攻撃を如何にクリーヤして行くかであつて、關學が多少有利な位置にあるのを一般的の認める所である。

關學=神商大(十一月九日)、商大が大學に昇格し、關學が神戸の地を離れたことは幾分か兩校の対校的氣分を緩和したことは事實であらうとも、過去の關係よりしてこの試合がリーグ戦中兩チームにとつて最も熱を要する試合となることはまだ疑ひない。それだけにこの試合は技術の試合といふよりも意氣と熱による鬪ひとなるから兩者の有する戦法も或は十分に之を示し得なくなつてしまふのではなくからうか。しかして戦法の如何よりも、試合そのものの興味は

一ヶ戦中第一位であるかも知れぬ兩者のハーフ及びバックは全く伯仲といつても過言ではなく、F・Wにおいても關學にやや強みがあるのみであるが、關學キーパー齋藤の活躍は必ずや商大F・Wを懲すことであらう。しかしてフット・ワークにおいては大體關學に一日の長があるやうに見えるから、商大としては兩翼よりの突然的侵略によつて効を奏するより他はあるまい。關學バックがどれほど機敏にクリーヤして行くかも亦勝敗に大なる關係を有つてゐらう。

◇  
京大=神商大(十一月十七日)、そのメンバーの顔振れより見れば京大は多士儕々の觀がある。然しながらその歴史的關係を遡つて見るならば、昨年度においては京大不観をとり、一昨年においてもまた苦心慘憺たるものがあつた。即ち商大は京大の苦手ともいへる。しかもそれ等の時代においても常にいはゆる多士儕々であつたのだ

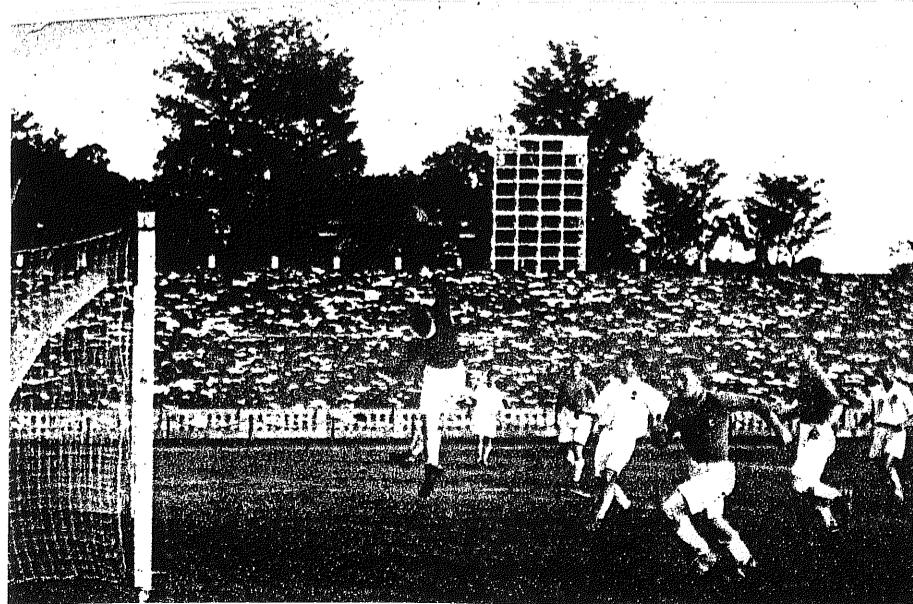
故に本年度のゲームが共にハーフに完璧を誇らんとしてゐるが故にハーフ対ハーフの攻防戦比較がその勝敗を決する點となり、F・Wより見れば京大シヨートバス・システムに出でんとすれば、商大サイドよりのロングに出るの傾向を有し、戦法の相異もまた勝敗に與る所が多い。

京大=關學(十一月二十四日)、この試合は技術において共に第一流をもつて任じてゐる兩者であるから、好球者とつては研究の材料ともなり、批判の対象ともなる試合であつて、本年關西地方において行はれる蹴球競技の眞價を有するものといへる。その顔觸より推して京大に軍配が揚るといふものがあり、今春の對サブオーラ戦のスコアを共通尺度として關學優勢なりと結論する者がある。私はこれ等何れをもとらぬ。何故なら斯の如き理由を以て京大なりと考へる者があるならば、それはマニアにおける極東大會の豫選に於て

當時日本學生間のオール・スター・キヤストと迄思はれてゐたブルック・キヤストと大阪サッカーとの試合が、如何なる結果を生み出したかを知らぬ者であり、後の論をとるものは兩軍の有するバッシング・メソッドの根本的相異點に氣づいてゐないのである。F・WとH・Bにその精銳を集めた京大が、その特色たるF・W及びH・B間の有機的バッシングを以て如何程關學のバックを悩ますか、又關學が永年の間に醸し出された、他より見れば偶然的に見え無計画的にも見えるその旗その揚において構成されて行く自由な習慣的バッシングによつて、京大ハーフの防禦網をたくみにくびり抜け得るか。一方京大のバスを合法的といふならば關學のバスはテロリスト・イックたちを有し、關學のそれをラディカルなものと見るならば京大のそれは保守的戦法と見られるかも知れない。それともあれ若しも對サブオーラ戦のメンバー

を以て兩軍のベスト・メムバーと考へるならば關學京大共にフルバック・キヤストと大阪サッカーとの分歧點は兩者の有する共通的短所を何れか先に利用し得るに歸するのではないかと思はれる。そして兩軍の有するフットワークが急激なテンポにつれて目まぐるしきばかりの轉換を繰り返し、容易に勝敗を決し得ぬ事は想像に難くない。

◇  
個人的技術の時代はとくに過ぎ联络の時代もすでにすぎんとしてゐる。今や我國の蹴球も作戦の時代に入つた。即ち己れの有する長所を如何なる方策に應用すれば敵の急所につけ入る事が出来るかである。合宿に遠征に、汗と血と涙の猛練習によつて醸し出された六朝三略をひつけた各チームが、来るべきシーズンにおいてその策略術を如何に示すか。吾人は利目して期待する。



十月七日神宮蹴球場で行はれた英艦ケント號乗組員對東京帝大のア式蹴球戦

Tokyo Imperial U meets a soccer team from H. B. M. S. Kent, flagship of the China fleet.

# 名高工優勝す

## 全國高工蹴球大會

東京工大蹴球部 田 部 辰

高等學校チームが、帝大主催の全國高校蹴球大會を『自分達の大會』として有する如く、高工や高商のチームにも、夫々『自分達の大會』なるものを持たせたいとの考へから、且つ工大的地位が高工大會を開くには最も適當なりと信じ、此度全國高工蹴球大會を東京工大蹴球部が主催したわけである。

大會は大日本蹴球協會の後援を得て、九月二十二、二十三の兩日大岡山球場において舉行された。

參加校は名古屋高工、濱松高工、横濱高工、山梨高工、東京高等工藝であつた。

◇

濱松4-0、0-1東京。大會の一兩日前より降り出した雨が、當日試合開始直前まで止まなかつたので、グラウンドのコンディション悪く、兩チーム共相當に悩まされた。試合は最初から濱松のものであつた。これほどの差で當然の結果である。併し工藝が後半勇頭一點を報い、以後大いに頑張り、濱松をして後半得點せしめざりし奮闘は刮目にする。

名古屋5-0、4-1山梨。前試合と同様ワン・サイデット・ゲームであつた。しかもフィールドコンディションが午前中よりも良くなつただけ、實力の差が明かにスコアの上に表はれた。併し名古屋のバツクもコムビネーションは餘り良くなかつた、それ故、あれだけ優勝を持し乍ら山梨に一點を許した。山梨高工は蹴球部設立後未だ短日月、今回の勝敗を責むるは體である。寧ろ最後まで試合を棄てず遂に一點を報いた誠意を稱したい。

濱松1-2、3-1横濱。手に汗す

る白熱戦であつた。横濱はフォワードのチームであり、濱松はバツクのチームである。横濱駿足捕ひの前衛、もつて攻むれば、濱松は優秀なるバツクを以つて之に當り特にC・H伏見、山田の奮闘は目覺ましく、幾度か危機を脱し、兩軍一進一退、勝敗の決は容易に定まらず、本大會中唯一のシーソーゲームを演じた。併し濱松は今夏以來猛練習を續けたチームだけあつて、その體力と闘志は容易に衰へず、前半一點をリードされたがら後半よく三點を奪つて二点をリードし、横濱最後の攻撃をも一點で食ひ止め、4-1のスコアで勝つた。此の一戦横濱の兩サイド山口、矢木は快足を利してよく攻めたが、球を持ち過ぎた氣味があり、且つそのドリブルング。コースはあまり感心出来ない。チーム全體が練習不足で後半濱松の猛襲をさへ得なかつたのが敗因である。一方濱松はディフェンスにおいて、R・Fのボディショーン悪くために思はぬ苦戦をした、又オフェンスにおいてはハーフのファイドおよびフォワード間のバスが深すぎかへつてチャンスを逸したことが多いため、唯L・W・F小野田は屢次絶好のバスをゴール前に送り濱松の勝因を作つてゐた。

名古屋1-0、2-1濱松。ファイナルとして申分なき好取組であつた。試合は文字通りの白熱戦で、兩軍グラウンド一杯に馳騒し隨所に美技續出した。濱松は前日のダブル・ヘッドに疲労未だ回復せざるか出足稍々鈍く、常に今一步の所で失敗してゐたが、名古屋二點をリードするや、猛然蹶起して、息をもつかせぬひた押しに押しよ

せ、忽ちのうちに一點を奪回したあたり、試合は最高潮に達して、勝敗の豫測は全く許されなかつた併し天ヶ瀬松に幸しなかつた。I・Fの不注意なバツク。チャーチはペナルティ。キックとなり、再び二點の差をつけられた。

勝敗は時の運である、名古屋が得點のチャンスを確實に掴み、瀬松が之を逸した事が勝敗の分岐點となつた事はいふまでもない。この他に名古屋の勝因として擧げべき事は、田邊主將が前日の戦績より同軍バツクの缺陷を痛感してか自己のレギュラー・ボディションL・I・Fを他に委し自らC・Hに頑張り全軍を叱咤した事及び堀口の好防である。蓋し田邊君は本大會唯一の好ブレイヤーで彼の一擧手一投足は全軍攻防の中心となり瀬松を悩ました、また堀口の闘志満満たる態度は、全軍の志氣を鼓舞するに十分で、あの意氣あつて初めてあれだけの好防活躍をなす事が出来たのだと思ふ。

瀬松は此日、兩フルのコムビネーション前日のそれとは見違ふ許多の鮮かさで、屢次危機を脱して

みたが、結局防護は得點を増すものでない、前衛の連絡悪しく殆ど全部のチャンスを逸してしまつたので敗者の地位に立たざるを得なかつた。確かに瀬松は敵ゴール前に於ける球のさばき方を知らなかつた、しかも前日の殊勳者L・W・Fはやや焦り氣味で、バスは淺すぎ且つ小さかつたのでO・H田邊にカットされてしきつた。今少しタッチ・ラインに近く位置してみたら、もつと落ち着いてバスも出来、従つて得點のチャンスを作る事も出来たらうと思ふ。

◇

試合全般を通じて見る時、名古屋、瀬松、横濱は餘り大差のないチームで、その實力は東京カレッヂ・リーグの第二部に位するものであらう、工藝と山梨は一段劣つてゐる。チーム全體が整つてゐるのは、名古屋と瀬松で横濱は前後衛にむらがある。フォワードは横濱、名古屋よく、ハーフは瀬松が多い、フルはどのチームにも缺陷がある、G・Kは断然名古屋が光つてゐた。

其のチームの重鎮をなしてゐたしかし、五中の石川、函商の荒井成尋の柳田の三人は殆んど同じタイプのブレイヤーで、共通の長所と共に短所を持ち合せてゐたのは面白い。此の三人は各其のチームの攻撃の主力をなしてゐる。かくの如く攻撃の中心がハーフ・センターになると云ふチームの共通點は、攻めには居るが點は入らないと云ふ事であつて、且つ又ハーフ・センターの疲労も比較的早いのである。之れに反して附中の花井の如く攻撃よりもむしろ防禦に於て頼みになるセンターのチームは、點を入れるフォワードの活躍が比較的に行く傾向がある様に思はれる。五中の眞山、附中の新宮、小野田等は立派なブレイヤーであつた、其の外眞岡中、城西、神工、水戸中等は初陣にもかゝらず、仲々さきびりした試合をしたし、久しぶりに出場せる府立園芸、浅野総合中東亞商業、麻布中等も立派であつた。浅野総合のゴール・キーパーはシートを防ぐ事においては英師のキーパーと共に此の大會の傑物であつた。

## 空前の蹴球大會

### 参加四十四校を算す

竹内虎士

第六回全國中等學校ア式蹴球大會の主催者として本大會について思ひのままに述べたいと思ふ。創立以來年を経ること僅か五年ではあるが、逐年隆昌に赴き本年の如きはその集まるもの關東におけるゴール・ポストを有する學校の殆んど全部で、北は北海道の彼方より西は靜岡縣にわたつて第一部(中學部)三十五校、第二部(師範部)九校、合計四十四校、參加人員五百人であつて、實に他に類例を見ない蹴球大會であつた。

しかし參加校があまりに多く、日數に制限があつたために、グラウンドを本校(東京高師)球場、豊島師範及び本郷中學球場の三箇所に分けて行はなければならぬ關係上、大會設備に不完全の點多く各參加校に少からず迷惑をかけ誠にすまなく思つてゐるが、此の點

は來年より改正し出來得る限りの力を盡したいと思つてゐる。五日間の試合中三日間迄強雨は見舞はれて實に若い選手諸君にはお氣の毒であつたが、元氣一杯の選手は懶いグラウンド・コンディションにもひります、勇壯且つ堂々と試合を決行して行つたことは、ブレークのものゝ根本精神より見て眞に最高位の禮貌に價するものであらう。

◇

各中等學校の實力は年々相接近特に第二部に於ては特に此の感を深くする。例年豊師青師の獨舞台であつた第二部に於て、本年は忽然として彗星の如く現れた靜師が群馬師を倒し青師を破り優勝せる豊師に内薄して負けず劣らず互角の試合をなし、英師、堀師等も亦各獨得の強みを現し、遠來の福師

S 4 - 11 - 1



十月十六日神戸東遊園地グラウンドで舉行の京大對英監ケント號乗組員のサッカー試合の一景

Kyoto U meets a soccer team from H. B. M. S. Kent at the Kobe Recreation Grounds, October 16.

# 東京蹴球リーグ戦始まる

各部の首位を狙ふチームの顔觸

山田午郎

蹴球東京カレッジリーグ第4年度シーズンは去る十月五日の東京商船對東京工業大學の第三部試合を以て開始された。そして十二月十五日の早帝の一戦を歴りとして終末を告げるがこの七十餘日間に各部を通じて實に五十五試合が演じられる譯である。この間ににおける豫想はあたるも八卦あたらぬも八卦の類であるが、まづ第一部では本シーズンに期待された明大のF・W線が競争者の状で左足を進めて右足が容易に従はず、結局このAクラスに置かれるものは前シーズンのやうに帝慶早の三者で優勝争ひ、明大と舊高師の東京文理大、それに二シーズンを第二部に過した農大が第一位を争ふよりも第二部に編入されるのがれる爲めに全力を傾けるであらう。第二部で昇格を争ふものは前シーズン高師と同成績を以て再試合まで行つたが不運にも惜敗して第二部に編入された一高、法政、東京高校、明葉、商大、青山學院で、前二者が昇格を争つて後二者が留落の分岐點に彷徨ふ譯である。押しは足らぬが確実なプレイを演ずる東京高校あり本シーズンに入つて充實した法政があつては一高の返り咲きは容易なものでない、この三者の争奪は寧ろ第一部の優勝を争ふ帝慶早のそれよりも興味をひくほどに全く伯仲したもので、第一部の第一位を豫想するよりも困難といはねばならぬ。さ

てこの第一位はF・W線の偉大なスピードと物凄いダッシュを持つ一高が、各線に均整のとれた法政か、將またムラのない堅實なブレイドで進む東京高校であらうか、留落の分岐點にある商大は長瀬が傷ついたとはいへ對青山學院との一戦に引分けをとるの有様で明葉の不振と共に頗る危険な位置にある。シーズンで第二部に復活した青學は前三位に對して歩はないが明大の一戦に氣をよくしてゐるから、明葉に必死の奮闘がなければこれより危険はないといふべきである。第三部は立教とトントン拍手に頑を出して來た成城高校が第一位を争ふところで、日高と東京商船のうち何れかがこれに伍して行くものと見られ、遠く廣島から田部を迎へて陣容に更新の氣張つたと傳へられた東京工大は、豫期したほどのことなくすでに二戦二敗の慘めさに在るから、外語とともに危機感に置かれてゐる。第四部は中大と國學院の兩者に依つて第一位の決定を見るべく東京高等工藝と大倉は奮起せねば現状に甘んじなければならない、本シーズンは各部とも力量接近してゐるからこの豫想は裏切られるであらうがそれは決して番狂はせでもなく眞の力量で決定される所の事實であらう、斯く殆んど決定的の豫想をなし得ないだけ前シーズンにも増して盛きぬ興味があるわけだ。

第一部は去る十七日明大對東京文理大によつて華々しくシーズンの扉は開かれた、前述の如くA・B・C・Dに分離するやうに平々坦々たる路を辿るものかどうか、既に終了した三戦の経過を辿れば相當曲折波瀾を呼ぶものと思はれる。

明大2(1-1, 1-0)東京文理大。

十月十七日本郷中學球場で明大の先頭に開始された。文理大は明大バックスのノーマークを利してF・W線を自由に活躍して十分L・W後藤の好送球で明大ゴールに迫り徳田、前原等一度にダッシュのために危機明大を襲ふ、この時明大はL・W森島よく球を拾ひ出して一策を素早く施したが、それは妥當を失したバツク・パスで危機を脱出するよりもむしろ文理大には完全なチャンスとなってしまった。そしてL・I前原の直球で文理大一点を先取した、然し文理大はこれまでに既に得点の機會は屢次あつたが好調に乗つたF・W線の焦躁で逸してゐたのだから、このゲームのこゝまでの進展を見れば當然なる一點であつた。それほどに明大は凡戦愚戦の限りを盡してゐた。これも畢竟するに急に陣容を改めた結果横に強味を加へて來ても縦に何等の連合がなく乘すべき穴をザラに示してゐた故である。然し十五分左にコーナー・キックを得て丸山の好蹴から文理大のゴールを齋かしデフエンスの崩れた隙に動き過ぎると思はれるほど動いてゐたC・F李が好位にあつて同點となつた。このころから敏活な動作に明大のバックスを齋かしてゐた文理大のF・W線は走力も落ち動作もやゝ鈍り出して球は中央に在ることが多くなつて文理大には全く前が薄くなつて來た。そして両軍に無駄な送球やあてどもない長蹴が多くなつた。文理大はC・H時田にのみ信頼して球を集中し却つて放任の結果を生み効果を殺いでゐた、このため明大は容易に守備の陣容を整へることが出来た、益のない協力を求めるところなく獨創的プレイを必要とすることもあるではないか、これ

か毎日戰況展開に伴ふ瞬間的判断である。

明大はF・W線の右側は頗る劣勢で凡蹴に好機を失する場合が多かつたが後半三十二分右のコーナー・キックで文理大の平凡な守備を破つて決勝のポイントを占めた、文理大はこの時ペナルティ・エリアにたゞ深く形式的な布陣を以てゴール前十三、四メートル邊のマークを解いてゐた。この結果密集守備必ず安全なるものでないことを経験したであらう。文理大は遂に勝運にめぐり合せながら勝點を落してしまつた。然し前シーズンに比して意氣も昂り技術においても格段の進境を示してゐるから強ちこのやうな凡戦ばかりは繰り返すまい。幸勝した明大は走力鈍く無駄な體力の浪費をやつてゐるが走力に確信を持つべく特に注意を要すると思ふ。

帝大7(4-0, 3-0)文理大。

拙い口割で對明大戦の疲労感せぬ文理大は勁敵帝大と十月十九日午後三時から帝大球場に相見えた。小雨のうち開始されて後半に入るや否いよいよ緊く球場の状態は次第に悪くなつた、帝大先頭で開始。

スコアは七対零で帝大の快勝となつた、文理大はこの日對明大戦の如き意氣も示さず結合は全く亂れて亂軍に終始してしまつた、殊にF・W線のプレイは何等連繫なく断続的のもので、帝大のバックスは悠々と應戦することが出来た、前半八分帝大のフリー・キックから猛襲を浴びたが好防直ちに逆襲してR・W河本がゴール前に捌き出した球は追出してゐたC・H時田とつたがストップ拙く大きく弾いた、この場合など協力による牽制があつたならば立派なチャンスとすることが出来たはずだ、斯かる場合F・W線の無氣力と怠慢は甚だしいものであつた。對明大戦に善戦したR・I井上などは自身の位置観念など殆んどないかのやうにも見受けられる悪位に彷徨してゐたのは前戦の休養をとり得ぬ結果のもたらしたものと思はれる。日割は少くも五目はあけておく要があらう、疲労が回復してゐたなら假令敗れるにしても今まで惨めなものではなかつたらう、この一戦によつて零敗から押して攻撃力も零とは考へられない。

帝大は竹腰の去つた跡に竹内が据つてプレイは若いが將來を期待せしめる堅實さを示しR・I篠島は前シーズンとは全く見違へるや

うな上達振りを示し、駿足を以て鳴り正確なバッティングは神技とまではやされた鈴木の後は春山が襲うてその偉力なくも若林、高山と巧妙なプレイに手島とはさんで策應するあたり、このF・W線は前シーズンに比して決して遜色はない、文理大はこのF・W線の前に委縮して引きはされてしまつたわけだ。帝大のその他のラインについては、文理大の攻撃力が鈍つてゐたから評する限りではないが、前シーズンより穴はあるやうに思はれる。

◇  
慶大3(2-1, 1-1)2農大。  
十月二十日、成城學園球場で慶應の先頭に開始、慶應は全日本選手権関東豫選で大崎、松丸等傷つき最強チームで對戦することだけ出来なかつたが、該豫選に出場しなかつた市橋を加へることが出來た。開始後六分までは慶應は二點を奪つてしまつた、この直後市橋傷ついで退くに及んで慶應の渾容は一頓挫を來しそれまでの積極的システムは次第に捨てられて全く消極的に墜ちていつた、農大はこの機に乗じて二點を回復し同點に漕ぎつけた。この同點になるまでの経路を見れば市橋が退いた慶應の10に對し農大は11で、すなはち10=11の間においてであつたとも見られるではないか、力量は10=11の等式でタイの結果を生み市橋の加はつて11=11の時に三対二と慶應のリードとなつたは決して眞理ではないが、農大がいく見、かく考へて今後に處すべきではなかつらうか、然し農大の各線とも眞摯の練習を續けた結果はメキメキその技を上げてゐるがF・W線は右側において層労力の要があらう、C・H森田もこの一戦

最初は焦つて凡失を繰り返してゐたが、次第にその力量を現はし自軍を完全にリードしたのは偉とするもF・W線の力量を考慮に入れて送球しなければならないことをいつて置きたいといふのは、R・Wの制球力に伴はない強い送球などで好機を作るべきものをこの考慮なくして破壊したことがあつたやうに思ふ、農大の胸氣と技術は今後の試合に如何にあらはされるか興味はある、慶應は勝つには勝つたが試合終つてホット一息といふ有様であつた、やはりこれは攻撃から急激に守備について一の空隙をつくるに至つた時に農大に乘ぜられたからではないか、急激なる轉換は如何なる場合にも有利ではないはずだ。

# 東京カレツチ蹴球リーグ戦

## 農大明大を破つて帝大に敗る

山 田 生

慶應に對し善戦記録を残した農大は、決河の勢を示して明大を仆してしまつた。農大はこの一戦に全く豫想外の強味を示したが、その相手たる明大は力の出ずじまひになつてしまつた。續いて早大對文理大の試合が行はれたが引分けつゞく文理大と慶應の一戦は順調な結果を見せて文理大が零敗をまぬかれたに止まるものであつた。そして去る五日最近氣をよくしてゐる農大が帝大と對戦し、七対零の大きなスコアを残して敗れてしまつた。

かくて第一部は農大對明大の一戦を番狂はせといへば、へぬ事もないが、まづ順當な結果を残してゐるうちに、第二部は國學院大學が六日の對大倉高商戦で大勝して首位と決定してしまつた。第二部の法政大學は七日の對青山學院戦に十三対零といふ本シーズンに入つてからの珍らしい大きなスコアを止めて勝ち、横行闊歩してゐるが、宿將明薬は頗る不振を極め、商大また聲なしといふ状態である。第三部は立教、成城高校の活躍にその一、二位の豫想は出来ぬといふ有様で、いよいよシーズンの興味はこれから油が乗つて来る。

◇

明大對農大の試合は吹き降りの雨の中に行はれた。農大は風上のサイドをとり、明大はキック・オフとなつた。そして農大は先づ地の利を占めたことを忘れずに、盛んに之を利用した。向ひ風の明大は打ち續く農大の奇襲に遭つてそろそろ崩れを見せだした。之が開始後十分ころである。見方によつては農大の勝利はこの時分に既に決定してしまつたとも言へる。

◇

農大のチーム・ウォークの鮮やかなに較べて、明大は制球力もなく、結合なく、追走など勿論缺いで全く見違へるやうな亂舞ばかりを演じてゐた。その中に農大は一點を先取した。これは正にるべきゴールで、農大方には遅れてゐた、一點とも思はれるものであつた。明大には得點の機會はそれまでになかつたばかりでなく、その後もタイム・アップまでチャンスと考へられるものは全く見えなかつた。

頼りとしたし・W丸山は焦つてか、日頃の技もなければ凡失つづき、あのコンディションを以て責めるのではないか、あまりにも慘めなものであつた。斯く一人を責めるのは當を失してゐるが、今日の明大F・W線としてはこの一人の動き如何が全軍の進退にかゝつてくるのではないか。かくて明大は更に一點を許してしまつて、全く潰乱の中にこの一戦の終了を告げてしまつた。明大の缺陷は各線の連絡に全く統制がないことだ、横は稍見るべきものがあつても、縦に連絡を失して攻撃力を半減してゐる。これも各自の走力の鈍い結果から來たやうにも思はれる。勝つた農大を稱賛すると共に敗れた明大に對し走力は肝腎の基礎で、むしろ家屋の土台にもあたるものであるといふことをつけ加へて苦言としたい。

早大にとつては本シーズンの第一戦、文理大にとつては第三戦にあたる早大對文理大の試合は、明農戦の吹き降り以上に激しい天候、強風雨の最中に行はれた。球場は一面水をたゝへた湖ながら球は飛ぶ所か、水面に浮んでキックするのではなく押し出すといふ有様に、兩軍の苦闘は容易なものではなかつた。

力の比較といふよりもこの一戦は意氣そのものだけの比較となつて終つたやうな氣がする、全く悲壯な一戦であつた。文理大は元氣にスタートしたが、早大は一度沈み込んだために、最初は文理大の方に優勢に見えたが、然し早大もよく残して後半に入つてから目覺しい活躍を見せ、遂に両軍得点なく引き分けとなつた。戦前策するに文理大はピカー・時田をO・HからO・Fに移したのを斯かる場合における味ではないか、然しこの良策も効果はなかつた。早大は從来H・B線のチームで、これを以て攻守の鍵を完全に握らして奇勝を制したことであつたが、このシーズンはこのH・B線を解いてしまつた。そしてF・W線の改造を期したが、この當否はこの後のゲームによく現はれるであらう。

然しL・Wとして又O・Fとして働いた淺井を不慣れのL・F・Bと下げてしまつたのはどうか、これでは攻撃力を殺いでなほ且つ守備力の不安を増したやうなものである。この當否もこの後に現はれることであらう。この一戦文理大の時田の起用の妙を見せたのと、引分に終つて依然早大の苦手の位置を保つただけである。

◇

帝大對農大は今秋に入り稀れに見るの快晴で、しかも無風の蹴球日和であつたが、球場にあてられた成城闇は排水悪しく、大事なコーナーに寄つて十メートルに二十メートルぐらゐの廣い地域の泥濘の箇所あり、折角のこの日和も斯かる球場では遺憾であつた。

帝大はキック・オフから農大側に出で、農大はその陣容を立て直す暇なく、H・B線とF・B線は快速な帝大のF・W線を挟み込んでしまつて混亂に陥る。一分半帝大は中央線を越えてフリー・キックをとり、船岡好勝したのをL・W春山シユートしたが惜しい所でゴール・アウトとなつた。農大は最初の危機をのぞむことが出来、その後G・K藤田のロング・パスで進出したが、F・W線の位置悪しくH・B線も球の送り放しとなつて帝大ゴールを脅かす所までゆかなかつた。農大はその後に於いても送球後のフォロウ足らず、對慶・對明のそれのやうにチームウォークは最上のものでなかつた。

最初から呑まれ切つて、悉く消極的に終始してしまつた。前半帝大の高い攻撃に對しよく一點に喰ひ止め得たと言ふのも、それは全くG・K藤田の活躍が大部分を占めてゐたものである。兎に角この日の藤田は勇敢なブレイブで難球を處理し、好守の妙味を示してみたまことに大殊勳である。

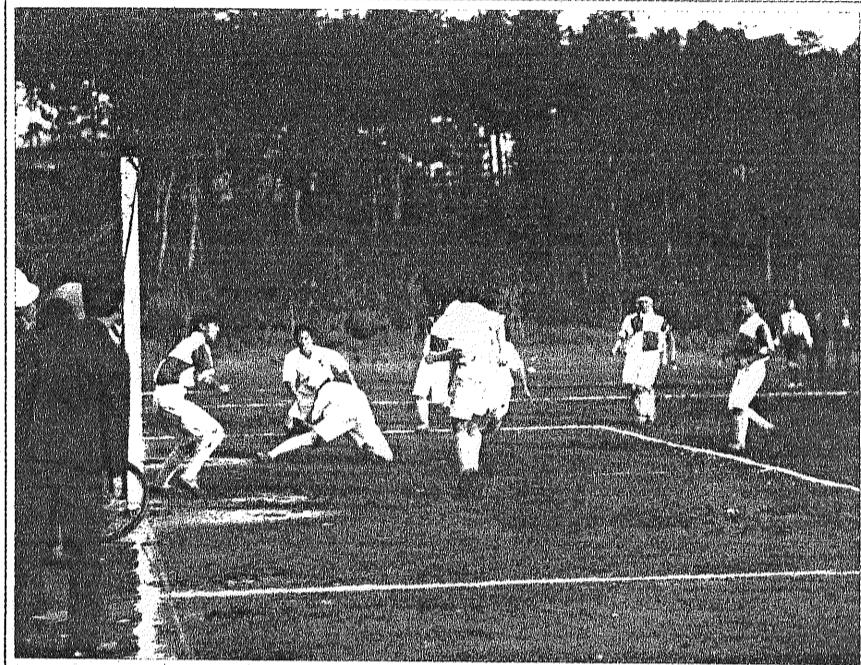
故意の逸球の如く技巧の妙を揮ひ快速な展開の攻守を持つ帝大に對し、農大はその本來の地で行くべき筋を忘れて帝大のやうに器用な小技で相對せんとしたのは誤算である。

農大が最初から地でいつたならば吊られるにしても左程ではなくよりよきゲームをなし得て、假令敗れるにしてもより小なるスコアを残したであらう。

慶應との善戦も農大はその力を

力以上に出した結果であるのは、土台を考へてのゲームをなし得たからである。明大に勝ち得たのも又これではなかつたか。

この一戦で帝大は底力の程を示してくれた、バックスは強い相手を持たぬ爲めか多少不安なしとはしないが、この點はF・W線がよくスコアして補ひをつけるであらう。依然この調子では優勝まづ疑なしと見てよからうか。



農大對東京帝大のサッカー試合  
Aggie-Tokyo Imperial soccer game.

第5回 明治神宮競技大会 記録

S 4-11-25

蹴

球

競

技

アツソシエション蹴球は第八回全日本選手権大會を兼ね全國各地の代表チームが十月二十八、二十九、十一日一日の三日間神宮外苑競技場で開催の結果兵庫県代表関西學院が優勝し、ラグビー蹴球は東西兩協會が選抜した中等學校試合は十月卅日、學生選抜試合は十一月一日何れも神宮外苑競技場で舉行され、前者は關西の同志社中學後者は關東チームの優勝するところとなつた、成績次の如し。

アツソシエション

第一次試合

二高(東北)乗櫂、廣島文理大(中國)

關學	6 {4-0} 1	富山師範(北陸)	
(兵庫)	{2-1}		
鈴木森山上廣老藤市		館鳴	
山木田川脇田瀬田田		村	
F	H	F	G
W	B	B	K
KKK			
7 1 1			

二常横濱	西上石松桂河南		
高盛山口	山中川浦井野方		
F	H	F	G
W	B	B	K
KKK			
5 1 11			

關東	2 {0-0} 2	京大(京阪)	
大下村	藤野野村賀澤村野		
F	H	F	G
W	B	B	K
KKK			
4 2 11			

法政 3 {1-1} 3 関高俱(東海)

(抽籤で法政勝つ)

高岡出雲宇金山鹿佐武山古高子	4 4 29
高浦岡川森崎木野井田屋橋	F H F G C F G
W B B K K K K	

法齋吉 吉吉角 浦白西	9 2 11
藤井 田信谷 野井川	F H F G C F G P
W B B K K K K K	

結松藤市豊大大角山岩島	7 6 13 1
-------------	----------

關學 5 {4-0} 0 二高(東北)

常横濱 西上石松桂河南	1 5 9
高盛山口 山中川浦井野方	F H F G C F G
W B B K K K K	

關東 横堺岩高後石門安齋	3 3 12 1
島 浦野井田橋藤井駿部藤	F H F G C F G P
W B B K K K K	

齋吉 吉吉角 浦白西	4 7 16 0
藤井 田信谷 野井川	F H F G C F G P
W B B K K K K K	

\* 右ページの山田牛郎氏の  
記事へづく

## サッカー試合を観て

山田 午郎

蹴球は今次大會の、外苑競技場における諸競技の先陣を擔つて十月二十八日、二十九日と續行し、十一月一日兵庫代表關西學院クラブと關東代表法政大學との天覧決勝戦を以て終りを告げた。一昨年の第四回明治神宮體育大會と同様に、全日本選手権の第八回を併せて行つたが、前年選手権を獲得したW・M・Wは關東優選で節ひ落されて慶應と法政の二チームが關東代表となつた。この中慶應は前年も關東代表となつたので續けてこゝに二回である。東北は二高が東北帝大を屠つて代表の榮譽を擔ひ、中部代表としては靜高クラブと京都は京都帝大、兵庫は榮譽ある關櫻を握つた關西學院クラブ、北陸は富山師範で都合七チームであつた。中國の代表となつた廣島文

理大は傷病者があつて代表権を放棄し、北海道帝大を破つた函館も選手に故障があつて出場を見合せてしまつた。

### 奇しき運命的挿話

關東代表となつた法政大學は、關東優選におけるその准決勝戦で帝大O・Bと同點無勝負の結果陥落規定の抽籤によつて勝ち残る幸運に浴し、遂に決勝戦を物して代表となつたが、本大會においてもまた二十八日の静高クラブとの第一回戦は三對三の同點で抽籤の結果静高クラブを却け、翌二十九日の準決勝の對慶應戦も二對二といふ同點で、籤運に飽くまで強き法政は三たび之を排して決勝戦に臨む事になつた。かゝる幸運はなかながに捉へることの出来ない珍らしさ

進めて行つたが結局同點で抽籤の結果恨みを呑んだ。愈よ法政と慶應の試合となつた時慶應方のO・Fに藤岡の名が連ねてある。この藤岡は本年四月慶應に入つた新人ながら既に第一線の闘士として重要視されてゐる一人である。中學時代にはG・Kとしてその體眼と敏活なる動作を賞賛されたものであるが、その興へられるボディショーンをよく使ひ分ける所から、現在では慶應F・W線になくてならぬ一人となつてゐる。ところがこれかが静高クラブの主將藤岡の弟である。不思議な姻り合せは、兄の敗退につく試合でその所属こそ異なれまゝに復讐戦である。然るに慶應も戰連邦なく退くに至つた、復仇成らぬ返り討の悲惨茲に在りである。

### 關學對富山師

北陸代表富山師範は、第一回戦において戦前の豫想から優勝疑なしの折紙をつけられた關西學院ク

ラブと額を合せた。試合慣れしてない富山師範にとつては、如何にしてこの強敵の鋭い攻撃を喰ひ止めるか問題であるだけで、勝算はどう考へても割り出されぬ。ところが富山のキック。オフから捨て身に出て約十分許りは關學に寸隙をも與へなかつた、然にスピードあるそのF・W線は連絡もよく關學に意外の感を持たしたに相違ない。技術の洗練は練習よりも試合に依つて巧者になるもので、その點に恵まれぬ北陸の地に鍛へた技術としては(シューティングの貧弱は兎も角)誰しも驚くほどにキビキビしたものであつた。

しかし比較的秀でたF・W線に對してこれを援けるH・B線は非常な遜色を示し、全く退歩的のプレイに終始したF・W線を進めその力量を發揮せしめることをなし得なかつた。しかし多くの試合を見、且つ多くの試合をなし得ぬ所から出て來たチームに對し、H・B線の機能を完全に發揮し得なかつたとて無闇にこれを責めることは出來まい。またF・B線はキッキングも相當なものを持ち合せ、ダッシュも趣味はあつたが、關學のピューピューと飛ばすロング・パスには耽溺されてえたやうだ。蓋し結果から見てこの大チームに對する富山師範は、まさに善闘したと言はねばならぬ。邊境の地方から選ばれた代表としてはきことに上出来であつた。

殊に關學は優勝するまでに通計十四ゴールを收めて一ゴールを奪はれてゐるが、その一ゴールこそは富山師範が奪取したもので、これは假令敗れても優選地への大きな土産であつた。一方この試合における關學は勝つべきものを順當に握つただけと言へる。

### 慶應對京都帝大

ともに充實した京都帝大と慶應は第一回戦において對戦することになつた。兩虎相搏では必ず一方が倒れねばならぬ。戦前の豫想は愚か、試合が開始されてからも、慶應が一蹴を先取してからも、その勝敗は皆目見當がつかなかつたほどで、實に見事な對立、殊に兩軍の水際立つたプレイは觀衆にまたとない蹴球の妙味を知らしめた。

勝てる慶應のこの日の殊勳者は市橋である。直接の殊勳者としてその體眼を賞した。然しその収めた第一點は、京大の野澤等の布く後陣の力をよく知つて長蹴で襲つた結城を忘れてはならぬ。なほ單に市橋、結城を數へ上げる限りなく、慶應のF・W線は實によく粒が揃つてゐる。が、京大にも何れ劣らぬ脚上があつた。O・F・一蹴、両翼の加茂下、澤野など押しも押されもせぬ有歯のプレイヤーであつた。そして京大と慶應のこのF・W線は個々別々に較べるならば何れもヒケをとらないものであるが、京大にいた悲しいことに、慶應のそれの如くこの個人の力を打つて一丸とする無形の力、即ち統合がなかつた。勝敗は單にこの一點に依つて分れたともいへる。前半の快戦はよくこれを彌縫し得たが、勝敗の決を得ることが後れ、必ずそこに破綻を生ずるものである。

但し慶應の如く満々たる意志こそ求め得なかつたけれども、この一戦に敗れたるが故に京大を慶應の下風に立つものとして一言に葬り去ることけ出来ない。この兩軍

は全くどちらが下手か、どちらが上手か見分けのつかぬものであつた。慶應が市橋をして直接の殊勳者となし得たのも、要はその慧眼を活用せしめるやうに、力強い無形の力が常にその優れた技術以上によく働いてゐたればこそである。若し京大にこの力強い無形の力が動き出したならば、このチームの今後は實に恐るべきものがあると信ずる。それはそのキッキングにしても、巧みなドリブルイングにしても、また多少のムラはあるが正確なパスを走つてプレイヤーの體力、そして走力の優秀さ等が十分にそれを示してゐるからである。

敗れ去つたチームに對して、餘りに批評を加へることは非禮ではあるが、しかしあまりにも惜しく敗れたチームであり、將來に多大の望みをかけ得るチームと信じたばかりにツイ筆をすべらしてしまつた。

要するにこの対戦は本大會中の白眉であつた、見るものにも味はふものにもこれ以上の試合はなかつたといへる。

### 法政對靜高俱

東海代表靜高クラブと關東代表法政大學の試合は申合したやうなシーソー・ゲームで、これには技術を離れた興味が湧いた。靜高が取れれば法政が續いてとり、前半一對一、静高後半に入つて一點を加へれば、法政も劣らじと一點を増して二對二、その後兩軍得點なく大會規定の延長戦に入つて静高又もや一點を擧げてリードすれば法政連れじと一點を還して三對三、勝敗は遂に決せず、抽籤の結果法政武運よく勝殘つた。法政は三點のうち、ヘッディングで得點を二点をとり、他の一點はチャシスをよく捉へてシュートして收めてゐる。静高は九本のコーナー・キックの中一本はチャンスとして立派に生かし、静高は二點を完全に物し、一點は奇跡的得點で同點となつてゐる。兩軍共に球の持ち過ぎがなかつたならば、このスコアは更に大きなものとなつてゐたかも知れない。ドリブルは必要以上に使はれてチャンスを生きしめる事なく終つたことも目立ち、使ふべきに使はずしてカットされるパスも割合に多かつた。

### 關學對二高

廣島文理科大學の乘櫻によつて幸か不幸か不戦勝となつた二高は、第二回戦において關學クラブと對戦し、開始と共に關學の猛襲を浴びたがG・K南方の快技とバックスの健脚はよく之を潰してゐた。が、力の差異はデリバリと現れて巧みな關學のロング・バスに依る攻撃の前に、二高の陣容は全く亂されてしまつた。このゲームは十分關學が一点を先取する迄のもので、以後は凡戦となつてしまつた。殊に關學F・Wの両翼のボールを離さぬ巧みなドリブルイングは二高のH・B線をしてマークをしめず、追走追走の奔命に疲れさせてゐるから、關學としては攻めに十分の餘裕を持ち、樂にゲームを進めた。後半で關學が一時に止まつたのは、決勝戦に備へための力のセーブで、勝利を完全につかんだもの。孰るべき當然の階級であつたらう。そして二高もその後はよく相手の虚を衝く事が出来たが、好機を押し切る力の持合せがないのは止むを得ない。

全體を通じて二高はその持つ力

を後半において遺憾なく發揮し得たであらう、横の連絡は完成に近いが、縱の連絡は未だとして、二高の研究と練習を要する點はこゝにあると思ふ。例へばF・BとH・Bの兩線が漫然と肩を並べ、F・W線が進んでもH・B線が守備の位置につかんとするが如き、チームとして押すべき時と引くべき場合に統制がない。

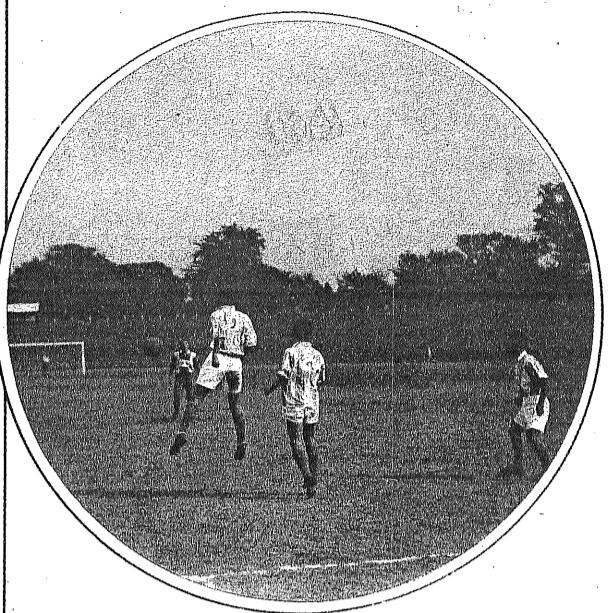
### 慶應對法政

二高對關學の准決勝戦に引つき行はれた准決勝は、關東代表同士の顔合せである。戦前人々が慶應の勝利を想像してゐた、しかも十人が十人まであつた。しかるに試合が開始されるや、慶應のF・W線の攻撃も法政の頑張り強い後陣には鋼板に石を投げうつと同然、之を貫くことは容易になし得なかつた。法政もまたそのF・W線は多少ケヒ目を見せるそれではあつたが、縦横にバスして慶應のデフェンスを破らんとしてその後陣を驚かした。コンディションは悪かつたが、兩軍は力の限りを盡してゴールを先取せんとしたが、援戦を繰返すだけで六十分を過した。全くこの試合は力相伯仲したもので、勝つと想像された慶應に勝利を與へず延長戦に入る。

かくて勝敗を決定せんと急ぐ兩軍は多少焦りを見せて隙をつくり、慶應得點すれば法政も相似たチャージを以てこれに報い、慶應はペナルティ・キックを得て結城の猛直球で得點し二對一となつた時、残す時間は十分で、兩軍疲れを見てゐるから多分このまま終るものと思はれたところ、強い反撃力を待つ法政はそれまで好機を凡失してゐた吉井の堂々たる得點で再び同點となつた。そして法政は本大會二度目の抽籤に依る勝を收めた。しかし斯かる幸運も不思議ではない、この試合は互角に進められても法政に勝敗はあつた。慶應は先を見越し過ぎて決勝戦の用意としてか、長坂を藏ひ込んでのこの不覺である。前日の對京大戦に相當の疲労を覺えてゐる時の作戦としては何等すべきものもあるが、常に大事をとるためにはベスト。メンバーで萬全を期して行かねばならない筈である。俗にいふ從悔先に立たずの結果を目の前にしてからでは如何ともする能はずであらう。

### 關學對法政

かくて決勝戦は關東代表法政大學と、兵庫代表關學クラブとの間に行はれる事になつた。畏くも聖上陛下の御前に於るこの決勝戦は強敵に向ふに廻して連戦し疲労の極にある法政も、樂なゲームをして來た關學クラブも共に光榮に感激し切つて力の限り奮戦したが、結果は比較的平凡に關學の勝に決した。法政の疲労は貢つてやるとても、正確なキッキングを持つ關學の方が確かに秀でて見えた。開始と共に關學の猛襲に遭つて、法政は後陣崩れて收拾すべからざるものとなり、F・W線も後退して重なり合ひ、辛くも支へてゐた始末であつた。そしてこの隙を見てとつた關學が混戦の際の常套手段に出たのが、見事成功した。開始後二分、O・H後藤の得點がそれである。法政のG・K西川もゴール尺前の混戦に氣を專められてゐる時、不意のこの直球には横に強烈を持つてゐても如何ともすることは出来ない、開始後二分ではあつたが、この二分間の状態から推



明治神宮大会

(上左)サッカー試合に優勝した関西学院チーム (上右)富山師範對関西学院サッカー試合

Left: Victorious Kwansei Gakuin soccer team. Right: Soccer game between Toyama Normal and Kwansei Gakuin.



慶應京大のサッカー試合

Keio-Kyoto Imperial U soccer game.

関西学院對法政大學のサッカー大観試合  
Soccer game between Kwansei Gakuin and Hosei University.  
played in the presence of H. I. M. the Emperor.



十一月十五日 神宮競技場で舉行の慶帝サッカー試合  
Keio-Tokyo Imperial soccer game, November 15.



慶應東大のサッカー試合の一シーン Keio-Tokyo Imperial soccer game.

## 終に近づいた東都の蹴球戦

### 明大の躍進目覺しく帝大に迫る

山 田 午 郎

蹴球シーズンも其の半ばに到達した。東京蹴球カレヂ・リーグも其の日割の過半を終了してゐる。第一部においては残すところ早慶帝明、帝早の三戦となり、第二部以下も終末を見んとしてゐる。偉なる哉明大は、ゲームの後半に枯り強さを見せて早慶を倒し、一般の驚異的となり、帝大の引續く黄金時代に大爆弾を投げんとしてゐる。一方第一部の末位を決定する文理大対農大の一戦は、相當期待された農大が遂に敗れて、返り咲き僅かに一シーズンの巻き目にあひ、文理大は辛くも第一部に止まるを得たが、シーズン毎に危い留落線を彷徨してゐる有様である。第二部における優勝候補の一、東高は惜しくも一高に敗れて、首位を争ふ興味は法政と一高との間にかけられた。同じく第二部の末位を争ふ明葉、青學は、二引分の同成績で、優勝點二点で明葉對青學の再試合を行つた結果、明葉快勝して危地を脱し、青學は不運農大のそれのやうに一シーズンで古巣にかへることになつた。第三部は立大、成城、日産の間にその榮譽は收めらるべく、三つの巴の白熱戦は未だ残されてゐる。工大は依然不振、今となつては收拾すべからざるの状態に陥つてゐる。氣の毒である。第四部に新たに編入

不安を一掃した。

慶應はその最後のしまりの強さを意外としたか、密集攻法を捨てて明大ゴール前を開いて陥れるべく、ロング・パスでこのデフエンスを崩してかかつたが効果はなかつた、明大は全く死守ともいふべき物凄さを見せた。

八分ごろから明大陣容を立て直した明大も頻りに攻撃に出るべく、好連絡を見せて一進一退となつた。慶應にも好機あれば明大にもこれに劣らず好機は生み出されて來た。明大がこゝまで漕ぎつけるには見逃せぬ一つの事實がある、慶應は最初の好調から引継ぎ明大F・W線のマークをせず、そのまま放任して置いた。だから明大F・W線は球を得れば、比較的楽な連絡をとることが出来て強襲も決して難事ではない。

二十七分明大はL・Hの送球から強引に押しつけて、慶應の後陣を潰亂せしめ、遂に一點を先取し、更に三十四分點を重ねて明大は二點をリードしてしまつた。全くこれは案外な二點であつた、明大が第一點をとる前にL・Wのチャージはある程度まで不當のものであつたかも知れないが、この小波瀬が慶應には最後まで災してしまつたのではないか。この間ゲームの滑らかな連續があれば斯かる破綻もなく、第二點もなかつたやうにも思ふ。攻守は遂に地をかへて精神的に大きな衝動を受けた。慶應が焦り出すのも無理はない、

慶應の焦るが見える一面、明大はユトリのあるブレイが出来るやうになつた、だから後半慶應が一點を奪ふところとはなつたが、リードしてゐる氣分は度量の危機も必死となつて外していつて勝を制してしまつた。すべてこの點から見て慶應を比較するならば、慶應には正に一日の長がある。慶應はこの一日の長あるをもつて結局この一戦を失つたことにもなるが、この原因は他にない、小敵を見て侮つた精神的の弛緩ある慶應に對し、捨て身で何とか物にして見ようといふ明大の勇氣がこの勝負をきめた。この一戦は緊張と弛緩の氣分が爭つたもので技術のものたらしたものではなかつた。見よ前シーズンは別分けてなり、十月の全日本選手権東京選においては、その准決勝戦に兩軍相見え、3-1で慶應の勝であつたが、一ヶ月を出でずしてこの轉倒、これは技術ばかりが勝敗を決するものではないことを立證しこる。慶應には苦しいが、しかし貴い體験となつた。長恨……それは拭ふべからざるものではあるが、大成の前のこれも一階梯ではある。

一面明大は前試合に農大に抑へられた後で、氣を腐らしてゐた時であるから、この大物を食つたことで異常の自信をつけてしまつた。この自信が殘るゲームの上に如何にあらはれてゆくか、この明大を中心としてシーズン後半にいよいよ興味が湧いて來た。

### 早大対農大

早大4(2-1, 2-1)2農大。早農ともに前試合は豪雨強風の中に苦しいゲームをしてみて、又共に十一日相會して天候が又不良であつたのも奇しき取合である。早大は風上のサイドをとり、農大のキック・オフを行つた。早大はこのシーズンに入らや、不可解のチーム編成を行つてゐた。適材を適所に用ひず、強ひてこの方法を奇として相手を眩惑せしむるかのやうにも思はれる不自然の編成であつた。しかしスカルの奇策も別に効果などはなく出でては常に非であつた。然るにこの日は本田が病みつき、老将龍も出場するを得ずその陣容はこゝに全く更新された。

よもやこの両者の不出場によつて止むを得ぬ偶然の編成でもあるまいがF・Wブレイヤーとして前シーズン相当の成績を挙げてゐた浅井をこのシーズンに入るやF・W線に下げて攻守力を殺いでゐたのを舊位に復活せしめ、又高師をH・B線に戻して杉村、高部と共に早大傳統の強いH・B線を布くに至つたことは、こゝに初めて早大の真価を問はしむるに十分のものであつた。この結果は勿論良好のものであつた、前半はこの新陣容も豫期した程ではなかつたが、後半八分ころから約二十十分にわたつての農大に息もつかせぬ攻撃で實に堂々たるもので、この更新のもたらした結果に外ならない。

兎にも角にもこの日の早大は攻守共に積極的に出て、農大の機先を制することを忘れなかつた。農大はそれだけ後手に廻つて追ひまはされて苦戦のしどほしであつた。早大方はコンディションの悪い中にも激戦たるブレイを以てス

ピードある展開を見せ、農大方は追隨容易でなかつた。それが證據

にはこの日農大の完全なマークといふものがなかつた、殊にその極端な例は、後半における二點である。R・I浅井は早大方F・W線中のチヤンス・メイカーであり、ゴール・ゲッターであつた。然るにこの浅井を放り出して置いて二點を物にされた。これから見ても農大は攻撃即守備を鐵則として進み何等機宜の處置をとることを忘れてゐたやうに思ふ。攻撃即守備であるが、守るべき手はずのない所で、攻撃に出でんとするは大きな誤りである。いざといふ場合の用意があつて、攻撃に出るを得ればそれは攻撃即守備ではなからうか。

それにしてもC・H森田の率ゐるH・B線は目覺しい活躍をしてはゐたが攻撃七分守備三分に傾いてはゐなかつたか、F・W線との結合は稍見るべきものがあつたけれども、F・B線との結合は早大F・W線の爲に常に壞されてゐたと思ふ。其はH・B線を單線としてF・W線に入れる場合が割合に多く、バツクするのに疾走する距離を擴大して、それが爲にF・B線の援助が少くなつてゐた。其で自然F・B線との結合を亂して早大F・W線の乘ずる所ともなつた。

この一戦は農大方に相當過失は多かつたが、早大に勝てないものでもなかつた。只問うて見たいことは『豫期せぬ早大チームの出現ではなかつたか』といふことである。

### 東京帝大對慶應

帝大3(1-1, 2-1)2慶應。非常な人気を呼んで、十五日雨後の神宮競技場で對戦した。合宿して氣を締め、練習に精進した慶應の意圖は遂に事實の上にあらはれなかつたが、慶應最近の奮闘をもつて、放漫なもじりを試むることが出来て、終始結束して大敵に向ふ心地よいゲームを見せた。

ゲームは常に帝大が有利に進める所となつてゐたが、壓されながらも慶應は、記録が示す通りの攻守に、ベストを盡すことが出来たが、やはりこの記録はその實力を評價する正しいものであつたやうに思ふ。

帝大F・W線の偉力は定評があるが、慶應のバツクスはよく前半を一點で喰び止めることが出来た。しかもこの一點はF・B線が前線との連絡にばかり氣を引かれて、G・Kとの連絡を失する不用意な前出と、前陣の愚をなさなかつたならば、帝大にリードされずに済んだかもわからぬ、全くあきらめられないものであつた。然し岩波傷ついて後、このシーズン

に初めての岩崎が製ふてR・F山上とG・E島田との三角連繋が完全にいつてゐることであるから、一様に責めることは出來ない。斯かる中にもL・W結城の快技は遂に一點を収めて同點とし、自軍の意氣を昂げた。前半兩軍とも取るべきものを立派に取つた。帝大F・W線の春山、高山にしても若林にしても、文字通り大童になつて思ふ存分活躍し得た、手島のそれもまた然りで、たゞ篠島が最近の巧味を以てして、好機を凡蹴に失つてゐたのは、千軍萬馬の功を持つ前者に比すれば止むを得ずとするも、なほ帝大の収めた第二點し

・I若林のシュートした瞬間、慶應のゴールを目薦けてチャージし

たあたり、ゲームの推移を熟知した快味を十分あらはしてみて、決して前者に遜色はない。問題は今後の試合度胸にある、斯かる優秀なF・W線ではあつたが攻撃力に比して得点が足らない、この一戦は見やうに依つてはペナルティ・キックが勝敗を分つたとも見られやう。

タイム九十分のうち球は帝大に六十分、慶應に三十分の割合についた。それにしても得点はペナルティ・キックを除けば二対二のタイ、定評ある帝大のF・W線も未完成の研鑽の餘地を残してゐる、攻撃的から得點的にまでの問題は今後につながる興味である。

後半に入つて慶應はこれに比してF・W線の連絡に拘泥したか、躊躇する場合が非常に多かつた、それは強斷専行的のプレイを必要とする時、帝大H・B線のカットに出ることを知つてか知らずか、無用と思はれるパスを用ひる事がしばしばあつて球を失つてゐた。前半の出来榮えに比べて確かに落ち目を見せてゐた。R・W市橋のあたりも正調を失ひR・I豊田との間もシックリしてゐなかつたから、適時交代を行つて見ても何等効果が現れずに終つてゐる。この間帝大のL・H大町、L・F岸山がかけ廻つて、嬖いあたりで中断して、むしろF・B線まで攻撃に加はる場合が多かつた。

新進藤岡は自由のプレイを敢行しない程、大試合に経験が薄いので攻撃力の上に大きな損耗を來してゐた。練習不足といつてもかかる大試合には、老巧長坂を起用したならば、よりその攻撃力を増大することが出来たであらうと思ふ。松丸の潜るのも帝大のR・H野澤の緻密なプレイとC・H竹内の沈着さの前に極めて効力が薄つた。バック・チャージの認定を受けて帝大にペナルティ・キックを許す様な結果にも逢つてはゐるが

タイム・アップ直前に收めた第二點など、松丸の特色を遺憾なく發揮し得たからで、仲々に捨て難い所がある。然しひアル・プレイが比較的多い、これは大選手として十分注意する要があらう。

慶應が終始受け身にあつたのはH・B線が比較的不振であつたからだ、期待された大崎、大前に活気乏しく角谷また體の調子悪く、帝大のそれに及ばなかつた。帝大は竹内若くとも兩翼大町の老巧と野澤の脚氣によく合せて進退頗る巧みであつた。F・B線は慶應の岩崎が後半に疲れを見せて、キックもコントロールを失して只山上をたのみとするだけであつたが、帝大は猛練習の効果を示して、從来後半に弱いといふ缺陷を補つてゐる。

G・Iけ帝大の奥野の活躍範囲は、慶應の猛襲を浴びる機會が少かつただけに狭いものであつたが慶應島田は常時襲ひ来る危機をよく外してゐる。帝大に與へたゴー

ルの少いのについては、彼の活躍の大なるものある事をも見逃すこととは出來ない。しかし帝大F・W線がシューティング・レンジを擴大してみたならば、自然島田の活躍範囲も擴大されて更に苦辛を要したであらう。この一戦に帝大はその巧みを十分に現はし得なかつたが持久力を示し、慶應は惡戦のうちにその守備力に相當の確信を得たのは共に將來のため欣ぶべき収穫であらう。

## 明大對早大

明大4(0-2, 4-1)3早大。早大は去る十一日の對農大戦に新人を起用し、以てその新味を示し、沈黙した氣分を一掃して相當期待をかけさせた、そして十六日のこの明大戦にもL・Wに熊井を据ゑ、宮部に代ふるに原崎をR・Hとして、陣容をまたも改めて對戦した。對農大戦にも増して活氣もあり、チーム・ウォーキーも殊の外よく、ゲームを断然リードしてスコアも二対零で順調に進めていつた。主将横村も稀に見る活躍振りでR・I浅井とともにF・W線を率ゐて明大の後陣を思ふさま引廻してしまつた。熊井も好位を保ち、横村と策應し、巧みに球を捌いて申分のない攻撃振りであつた。この間特に目立つたのは從來の如く横縦を加味したW型、または横を主とする一線型のバス・ウォーキーよりも、縦を主とする長蹴進出の形式を以て明大を抑へてゐた。明大は齒がゆいプレーで之に應戦し、勝算は全く立てることが出来ないほど凡失を續け、守備のためにには懸命であつた。早大に許した第一點などは勿論高師のコーナー・キックが好適の高さと速さを以つてゐたものであつても、相當上背のあるF・B線がカット出来ないものではないし、このキックに備へる布陣がよかつたならば密集の中に球を入れて危険を招來せずに済んだのである、殊に第二點も中央線上のフリー・キックで完全なマークが出来てゐたならば熊井の殊勳を成立せしめなかつたであらう。また明大として得點の機會も相當あつたが、H・B線の追走不足と、球の待ち過ぎは、物にすることが出来ず、先づ前半は明大拙戦、早大上出来といふことで終つてしまつた。これを見た者が等しく早大の勝を豫想したのも無理はない。

然るに後半に入るや俄然明大方には活気が横溢した、その存在をさへ疑はれたH・B線はよく球を捌きF・W線について走りその攻撃力を増大した。早大の後陣は應酬に暇なく、全守備の状態に陥つてしまつて、十分までに二點を奪はれて、2-2の同點、形勢は一轉してしまつた。攻守は全く地をかへて、前半嬖いあたりを見せて早大軍の氣を引立てゝみた井出までその影を役したかと思はれるたよりない守備に墜ちてしまつてゐた。然し明大守備の手薄な所に衝いてL・I横村がロング・ショ

トして成功し再び早大はリードする所となつて不振の旗色を盛り返したが、その攻撃力は鈍りを見せ明大守備力の上を行くことは出来なかつた。中ごろから明大又鋭い攻勢をとり、好機頻出、早大は守備に追ひまはされてH・B線のあたりも威力を失つて一點を奪はれ、再び同點。かうなつては勝負をかる明大は有利で、追撃の手をゆるめず、早大また好機を捉へたが、追撃に奏効して意氣昂れる明大のために潰されてゐた。かくて終りに近くL・I李のドリブルに出るのをタックルし損じて正面からゴールを收められて早大は敗れた。早大もまた明大も、事實この結果は意外そのものであつたらう見るものまた等しく意外とした所である。早大に最後までの緊張を要求すると共に、明大もゲームを中途で捨てることなく、氣を散して押し切るその氣分を喪ふことなくやう希望する。R・H伊藤の後半における活躍は伊藤自身としても五、六年の蹴球生活における頭のものではなかつたか、明大にとっては歴史第一に置かるべきものである。敗れた早大でも浅井、横村がそのプレイに脚氣を張らしてゐるのは高師、井出の技で、相手に強い杉村のプレイと共に光つてゐる。また熊井もこの一戦において早大にはなくてならない一人であることを示した。最近このリーグ戦許りではないが、フアル・プレイが非常に多くなつた、それは偶然といふよりも故意と見られる場合が多い、少くも蹴球界の第一線に立つ自覺をもつカレヂ・リーグの各チームは、互に相戒めればならないことではないか。試合は常に最善のプレイに依らねばならぬ、相手を傷めてその戦闘力を不自然に奪つて勝を制してもそれが正當なる勝敗の結果ではない。不純の勝利を讃嘆する競技精神にもよるの不當はこれを戒めねばならぬ。敢てフアル・プレイの見解の相異があるにしても避けねばならぬ、決して明大のみを責めるものではないが、早大に許した十本のフリー・キックの大部分はフアルの認定を受けるもので、勝利の下にいまほしい記録である。

明大に苦言を呈すると共に、最近リーグ戦の數ある中で見受けたプレイ中の苦々しい態度、傷めんがための不當なる計略の下に行ふチャージなど特に慎まねばならぬことである。勝敗のみが決してゲームの全目的ではあるまい、一般の反省を促す爲めに一言つけ加へて置く。

## 文理大對農大

文大1(0-0, 1-0)0 農大。十一月十七日、この兩軍にとつては本シーズンの總決算日で、農大敗るれば二シーズン第二部にあつて辛苦を嘗めた効なく、返り咲きの本シーズンだけ明大に快勝したのを、せめてもの慰めとして施行の第二部に落ちて行く日、文理大に

ビニーニョンは農大のそれより遙かに優れてゐた。C・F井上が殊の一点を擧げる迄には、決して不自然な何ものもない、F・W線の相互關係は極めて圓滑にいつてゐた。多少焦つて無理もないではないが、農大の如く不自然と知りながら無理押しするところはなく、極めて順調に進められていつたものである。

試合が開始されるや、即ち場内は亢奮と焦躁の渦が巻いてゐた。

援者の叫びも悲壯の極に達してゐた、宜なる戦である。結果は遂に對零で文理大勝ち、農大はまたも返り咲く日をたゞねて落ち行ことになつた。

總體的に見て農大は劣弱さを示してゐた、期待されたF・W線はスピードもおちコンビニーニョンは求めて得られぬ、殊に球に對してコントロールを失してゐた、H・B線もキックは切れて過失多く、進退共に無氣力で攻撃力は貧弱なものであつた。これに引換へ文理大はH・B線の徳田が正確なあたりを見せて廣範囲にわたつて活躍し、未だ應えぬ時田がこのタイミングに出て、森田の精悍と共にこのラインを堅實なものとし、F・B線小笠原の必死の守備とで好陣を布き、農大の攻撃力をよく防いでゐた。農大のF・W線は文理大のF・W線よりも遅いダッシュを持ち合せてはゐたが、日頃のこの味を見せる機会は殆んどなかつた、斯くて勝敗を決定する残りの問題は、文理大の攻撃力如何である、この文理大F・W線のコン

ビニーニョンは農大のそれより遙かに優れてゐた。C・F井上が殊の一点を擧げる迄には、決して不自然な何ものもない、F・W線の相互關係は極めて圓滑にいつてゐた。多少焦つて無理もないではないが、農大の如く不自然と知りながら無理押しするところはなく、極めて順調に進められていつたものである。

常に協力を念頭に置いていた文理大の得點は自然であり、殊にあきらめ多く他のフォローもカバアもなく、單獨でヒタ押しに押し切らうとする農大に無理はあつても得點のないのは當然と見るより他にない。殊にバス・ウォークにも滑らかさがなく横の統制はむしより前後の連絡關係も擴く行はれてゐたのではどうにもならないはずだ。

この日の出来榮えでは文理大の勝利は先づ順當であると言つてよからうが、シーズン毎に新進の活躍を妻いものがあつては、このシーズン創ケ峰のウツチャリ鮮やかなのは賞めるにしても、このさき枕を高くして寝ては居られない。また辛うじて第一部に止つてもそれけ誇りでも何でもない。今日只今から來シーズンの手ぬかりないやうに準備して進める要があらう。農大は各選手の努力と先輩校友の後援支持が今日あらしめたのであるが、力があつても調子の出る日と出ない日があり、不運な日にあつて長蛇を逸したのである。大いに將來のため自重して欲しいものである。

## 十二月の主なる競技

### サッカー

早大對關西學院の定期蹴球試合は、七日から三日間阪神甲子園球場で舉行。

東都大學蹴球聯盟第一部の慶應試合は十四日、早帝試合は十五日ともに明治神宮競技場で舉行。

東西學生蹴球聯盟の優勝者対抗試合は二十五日明治神宮競技場で舉行。

# 東京學生蹴球リーグ戦

## 帝大四度目の優勝確実となる

東京蹴球カレヂ・リーグ戦の中で早大対慶大戦の豫想は慶應にやや有利であつたが、早大は一般の豫想を裏切つていつもながらの底力を示して遂に慶應を敗退せしめた。つゞく帝明戦は帝大鮮やかな所を見せて凱歌を挙げ、前に四戦四勝で本シーズンも優勝の刻印を捺してしまつた。残るは帝早の一戦のみ、かくて第一戦はさしたる曲折もなく略々順調な歩みを見せてゐるが第二部は終りに近づいて東京高校の勇奮に依り大波瀾を生んだ。法政と一高が全勝士つかずといふ所で最後に雌雄を決するものと見られてゐたが去る三十日の對東高戦で法政不覺の敗を蒙り、第一部昇格に暗影を投げかけてしまつた。一勝つて次シーズンに

返り咲くか法政必死となつてこの一戦を奪ひ、更に昇格の決戦を行ふか、終末の興味は第一部よりも第二部にうつつた。

第三部は成城高校依然優勢を示しシーズン前半不振の工大は最後の一戦に勁敵日蔵を伏して氣焰を擧げ、立大の第二位は動かぬ所。商船と外語が危い所へ足を入れてしまつてもかれてゐる。

第四部は落ちる懸念のない代りに優勝の見込の立たない所は井澤し切つてゐる。新加入慈大、日大、大正のその意氣にならふべきである。

本シーズンのカレヂ・リーグ戦は各部を通じて五十五試合の中、残るは僅か五試合、いよいよ終局は近づい...

## 早大慶應を破る

### 竹 腰 重 九

早慶蹴球戦は好天候に恵まれて絶好のグラウンド・コンディションの下に行はれた。而して戦前に幾分弱味ありと豫想せられた早大は、今シーズン初めての好調を示して堂々と慶應を破つた。レフエリーとしての私の感想は、雙方ともに見苦しい反則なく實に氣持よく終始する事が出来たといへば十分であると思ふ。激しい試合のレフエリーを勧めつゝ受けた感じが、どの位頼るに足るかは疑問であるが、委嘱により試合中に受け

た印象を基として若干の考察を試みよう。試合開始當初より、早大のメンバーの面上には必勝を期する緊張の色が見えたに反し、慶應側には何處となく意氣込の不足を感じられた。しかしてその氣持の差は、前半早大一點を先んずるに及んで一層顯著になり、それがプレーの上に反映して早大は益々好調に乗るに反し、慶應は焦慮を更に強くして落ち着きを失つた感がある。兩チームは今秋神宮豫選に顔合せをして三対一で慶應が快勝

したのであつたが、それはこの日の試合の相當大きい影響を持つたと考へられる。早大はそれに鑑みてかメンバーハの大移動を行つてゐたが、十分の信頼を置くに足る本田・G・Kに据ゑたことも開將横村・H・Bとしたことも、試合の進行につれて成功の度を強めて行つた。これに反して慶應は豫選における快勝も考へ合せて、自他共に幾分の優勢が豫想されまし信じられてもみたのに、本田には二、三の好機を巧みに外され、横村には市橋を完全にマークせられて、可なり氣持の上に動搖を來してみた様に見受けられた。更にその上先の神宮豫選の際には、早大は満鉄連盟の疲労の出るころであつたに對し、二十四日の試合は慶應は神宮全國決勝戦、リーグ戦等幾多の激戦に心身の弛緩または焦慮は必然的に生すべき状態に在り、さきと今とは全く逆のコンディションに在つたことが考へられる。

◇

慶應の頼みとする處はF・Wの鋭い攻撃にある。球がF・Wに移つてから後の慶應のH・B及びF・Bの動きはすべてF・Wの鋭い攻撃を豫期して組合せられてゐる。しかるに當日の慶應F・Wの動きは、全く懶惰を缺いて、全體として鋭さを出すフォーメーションに入つてゐなかつた。しかして早大H・Bは意氣込激しいためにダツシユ早く慶F・Wに餘裕を與

へず、かつ持前の粘り強さは慶應F・Wの鋭利な攻撃を覆す強味があつた。しかして味方のF・Wの粘り強さに助けられて慶應F・WよりF・Wへの球を容易にカットして、慶應F・Wに逆襲の機會を與へることが少かつた。鋭さは兎角脆さを生じ易い。早大H・Bの健闘と慶應F・W五人の間の動き方の不調和のために、慶應F・Wは球を受けて直ちに滑らかに攻撃に移り得ず、逡巡しなければならなかつた。慶應の後軍はその間にF・Wの前進を豫期してそれを掩護する隙形に移らんとしたのであるが、F・Wに豫期の進出がなく、且つF・Wからバック・パスを受けてもその後の処理が適當でなかつたために、或ひはタックル或ひはカットによつて球が早大に移つた時には慶應の陣形は著しくゆがめられてゐた。

其處に早大F・Wに餘裕を持つて球を受けるだけの間隙を生じ、慶應の後軍は進出の腰を折られた形となり脆さを現した。而してそれけ試合開始後間もなく再三起つたので、慶應の後軍は可成りの精神的衝撃を受けたと思われる。その衝撃の爲めにかF・Wが時に好調に進む時にも慶應の後軍はそれを十分に掩護するだけの動きを取り得なかつた様に見受けられ、その攻撃を連續的なものにして得點まで持つて行くことが出来難かつたかに見受けられた。

◇

以上は慶應が持前の強味を表はし得なかつた原因であるが、慶應に全く機会がなかつたのではなく、個人的技術的においては早大に優るものを持ち、好調に乗れば鋭い攻撃力を持つF・Wは再三ならず好機を作つたが或け早大G・K・本田の心惜い迄に落ち着いた好プレーに阻止せられ、或は焦慮のための失策にそれを結實させるに至らなかつたことが屢次見受けられた。兩軍のF・Bについて見れば、早大の井出・吉澤は、宮部・杉村・横村の健闘に恵まれて比較的樂に返球し得る機会多く、攻撃的役目をも十分に果し、G・K・本田に依頼した果敢なプレーにより、屢次見舞ふた危機を外してゐた。これに反して慶應の山上・岩崎は共に守備範囲狭く、H・Bとの連絡も思ふにまかせなかつた爲に、キックは不確実となつて攻撃に参加出来なかつた様に見受けられた。キックの強い岩波の出場出来なかつた事は、この意味において

慶應にとつては可なりの打撃であつことと思はれる。

前述の如く早大F・Wは餘裕を持つて球を受ける事が出来たが、その多くは、市橋をマークしてみて、カットした横村からR・I・R・W等右側へのパスと、宮部・杉村の線から洩れた球をクリアした井出の剛球を受けた場合であつた。それ等の場合にもスピードのみ頼らない早大F・Wは慶應F・Wが好調時に示す鋭い切れ味は示さなかつたが、老巧な高橋・浅井は餘裕を示して滑らかにショート・パスに移る事が出来た爲にF・Wの個人的な粘り強さと相俟つて慶應の後軍に完全なクリアリングをさせず、味方のH・Bを活躍させる要因を作つた。

試合全體を通じての印象として残ることは、早大の粘り強さが慶應の鋭さを押へたといふ感じである。双方の實力は正に伯仲であり慶應が好調に乗つた時には早大ゴ

ールは屢次危機に瀕し、F・Wも慶應のH・B・F・Bに完全に近いまでに阻まれてゐるのが見られた。たゞ慶應の好調はそれの結果を見るまで續かず、早大のそれは可なり永く續いたために如上の印象が残るのである。

◇

我々はこの試合において、攻撃の不振は必ず守備の不振を生み、その守備の不振はまた攻撃の不振の度を加重することを見た。しかしてまた一方のチームの振、不振は、他方のチームに反対の効果を及ぼす事をさまざまに眼前に示された。此の意味において、早慶兩チーム共一流チームたるの名に背かぬ良く組織立てられた好チームである事が首肯出来ると思ふ。

シーズンの半においてメンバーを入れ代へる事の、技術的効果を敢て問題外として考ふれば、定位の決定に幾多の苦慮を重ねて來た早大の此日の編成は、文字通り背水の陣であつた事と考へられる。此の意味に於ても昨年と今年は全く逆のコンディションに在つたと見られやう。旺盛な闘志は出足を早くし、一蹴一技にも激しさと重味を加へる等、自己の持つ力を十二分に表はせる。諸種の條件に恵まれて、優越する闘志を以て戦ふ事の出來た早大が技術伯仲の試合に勝つたのは寧ろ當然であつらう。

擱筆するにあたり兩チームの一層の御自重を祈る。



慶應東大のサッカー試合

Keio-Tokyo Imperial soccer game.

\* 右ページにつづく

※左ページからつづく

# 帝大明大に勝つ

鈴木重義

帝明蹴球戦は十一月二十五日午後二時半より明治神宮競技場で行はれた。前半二対零、後半五対一で帝大の大勝に歸した。

この日生憎の雨天で、共に十分の技を見ることが出来なかつたことは甚だ遺憾に思ふ。この日のゲームにより兩チームを考へるに次の様なことが概略的に頭に浮ぶ。

帝大はゴール・キーパーに阿良を起用したのみで他は全部従來のまゝの陣容を以つて對してゐる。帝大は比較的「ムラ」のないティーム、しかも高いレベルにおいて揃つてゐる。この點が帝大の強みであり、他のティームの容易におよばざるところである。一方帝大のこの日のメンバーを見るにF・C

宮澤君病んでか出場せず、F・Wに甚だ淋しみがあつた。帝大は凡ての新進のティームがある様に、實に元気なティームであつて、時に元気過ぎる感がある。如何に味方が形勢不利にあつても、平然と最後迄戦ひ抜くその闘志に見上げた所がある。技から云へば、かなり「ムラ」があり、帝大とは大分の差を認めなければならないが、元氣で之を補ひ、之を以て早大を破り、慶大を破つてゐる。帝大のF・Wは高澤君その軸として之をまとめ、常に頼もしい攻撃をしてゐたが、君の不出場は、この大事なゲームに對して甚だ惜しく思ふ。若し君をして立たしめば、帝大を破り得ぬにしても、もう少しどうにかなつたらうと思はれる。帝大の完璧に對し、帝大をより満足か状態において戦はしめたかつた。

◆

更に兩ティームの戦法、不適當の言葉かと思ふが、いい言葉を思ひ出せない。見るに、帝大は大體ショート・パス・システムをとり、横の連絡、縦の連絡にもかなりの苦心のあとを見せて、我が國では餘り見られなかつた一つのティームとしての動きを認めることが出来る。がしかしキーパーとF・Bライン、H・Bラインの連絡に幾分の緩みがあるのを感じる。またF・Wの一部に少しく單獨行動い、言葉ではないが、の傾が見える。之は弱いティームには絶對的の強さではあるが、然し同等乃至より以上の強ティームに對

する時に無力となる虞がありはしないか。これがため、全面的に帝大の強さを肯定する事を躊躇する。

帝大のそれは、その元氣とあはせ考へねばならぬ。帝大はF・Wを前進せしめて置き、F・B、H・Bは大きく前に蹴り、F・Wはそれを追つて突進するといふ様な形を大體とつてゐる。故に帝大は常にF・WラインとH・Bラインとの間に大きな溝をなしてゐる。戦法としては餘り感心出来ないが味方が非常に元氣である時は或は又體格的に優秀な時、或は又相手が臆病な時に奇効を奏する。だが相手が相當強く、堅實なティームの時は無力となる虞がある。帝大のこの戦の敗も亦この邊に胚胎してゐるのではなからうか。

この日の戦績を見るに、前半において帝大はいつも足みを見せなかつた。幾分明大の元氣にひるんだ點が見え、あはせてグラウンドの悪コンディションに悩んでゐた。帝大としても同様幾分のあせりぎみと悪グラウンドに災された。獨得の元氣も底から出た元氣に少しく缺けてゐた様で、ことさらに元氣を出さんとして、却つて不利に導いてゐた感がある。

帝大最初の得點は、文句なしとして、第二點をペナルティに依り與へたのは帝大としては實にあき

らめられぬ失策といわねばならぬ。帝大は前半かなりに帝大に肉薄したが、折角攻め入つても大事の時にいくつもゴール・キックをして終つた。實にもつたない氣がする。

帝大もまた同様の愚を繰返してゐたが、前半ペナルティをもつて得點したのを除いては、一箇所をとつたのみに終つてゐる。

後半に至つて帝大は漸く落付きを見せ、攻めるにも守るにもいつ

もの調子を出し合理的な得點を重ねて行つた。後半に弱い帝大としては珍らしいことであつた。帝大は逆にいつもの如く平然と、あくまで戦ふ餘裕もなくますますあせりぎみになつてますます得點の差を大にしてしまつた。殊に帝大のバツク・メンの着實な守りにあつて、帝大のF・Wは如何とも出來なかつた。これが帝大にはよりよきコンビネーション或はシステム、殊にG・Kを數に入れたものを、殊に局部的でなしに、より強きティームに對しても通用するシステムを考へ出して貰ひたいと思ふ。

また帝大はもつと合理的に得點する方法をとつたなら、あの元氣が更に生きて來さうに思ふ。キック・アンド・ラッシュ的なフォームは何時でも奏効すると想はれない、帝大の意氣に合ふ何か合理的な策を案出して貰ひたい。

更に帝大は今シーズンその元氣に依つて異常な成績を収めたと同時に、對帝大戦の如きは「策士策に倒る」の感なきにしもあらず、一考を煩したいと思ふ。



(上) 十一月二十五日神宮競技場で舉行の帝大対明大のサッカー試合  
(下) 十一月二十九日神宮競技場で舉行の早慶サッカー試合

Upper: Soccer game between the Tokyo Imperials and Meiji  
Bottom: at Meiji Shrine, November 25.  
Waseda - Keio soccer game at Meiji Shrine,

# 關西學生蹴球聯盟戰終る

## 京大を破つて關學再び優勝す

高 田 正 夫

興味を以て迎へられた京大對關學蹴球戦は、十一月二十四日神戸遊園地において行はれたが、戦前兩軍全く互角と評せられてゐたにもかゝらず、試合そのものは案外あつけなく、關學はその前衛中のウイーカ・ポイントと目されてゐたライト・サイドの活躍に全員の士氣大いに振り、思はぬ得點を重ねたに反し、京大は日頃の元氣全くなく、その得意とする前衛ライト・サイドよりする攻撃も徒らに關學L・H高橋をして名を成さしめたに止まり、遂におそれられてゐた猛襲を發揮する事もなく三対一のスコアを以て敗退した。

◇

關學選手の氣分を十分研究せる京大は、如何にしても得點を先んじて相手の出鼻を挫き、意氣の沮喪を利用してこの大事な試合を有利に導かんとしてL・Hに今シーズンやスランプに陥つてゐたが最近とみにその當りを回復して來たと傳へらるゝ有賀を退けて、むしろディフェンスに弱い小幡をして戦はしめた事に選手の起用を誤り、結果は反対に關學前衛ライト・サイドをして自由に活躍せしめ容易にディフェンス・ラインを攪乱されてしまつた。

京大は攻撃に全力をそそがんとしたため、H・B線が一體に進出し過ぎ、關學バックスのロング・ファーディングとC・F櫻野得意のダズリング・バスとによつて起つた味方の危機を收拾し得ず、關

學のために得點を先取され、反つて精神的打撃を被つた。

更に京大のパッシング・メソッドはあまりにも一定のフォーメーションにとらはれすぎ、前衛相互間、或はまたH・B線よりのパッシングは常に一つの軌道を行くが如く、あまりにも形式にとらはれすぎ、此の競技のパッシングの生命とする變化性にとぼしく、京大プレイヤーのなす送球は常に關學プレイヤーの豫知するところとなり、京大のためにはあまりにも無氣力なあまりにも慘めな記録を印してしまつた。要するに今春行はれた對英艦サフオーク戦及び十月行はれた對英艦ヘルメス戦に兩軍の残した戦績を共通の尺度として、京大を唯一の目標として準備おこたりなかつた關學の前に、あまりにも相手方バックスを無視した戦法を固守しきつたことが京大敗戦の根本原因となつたのであるまいか。

更にパッシングの進行を豫期され阻止され勝であつた京大は、その結果F・W線の進出に速力を缺きたるに反し、關學は得意とするラピッド・パッシング・システムによって自由にチェンジ・ベースを行ひ京大を壓迫した事は、ボールの進行が次第に迅速になりつゝある近年の蹴球戦においては關學に歩を認められるのではあるまいか。

◇

この日面白き好対照をなしたこ

られなかつた。

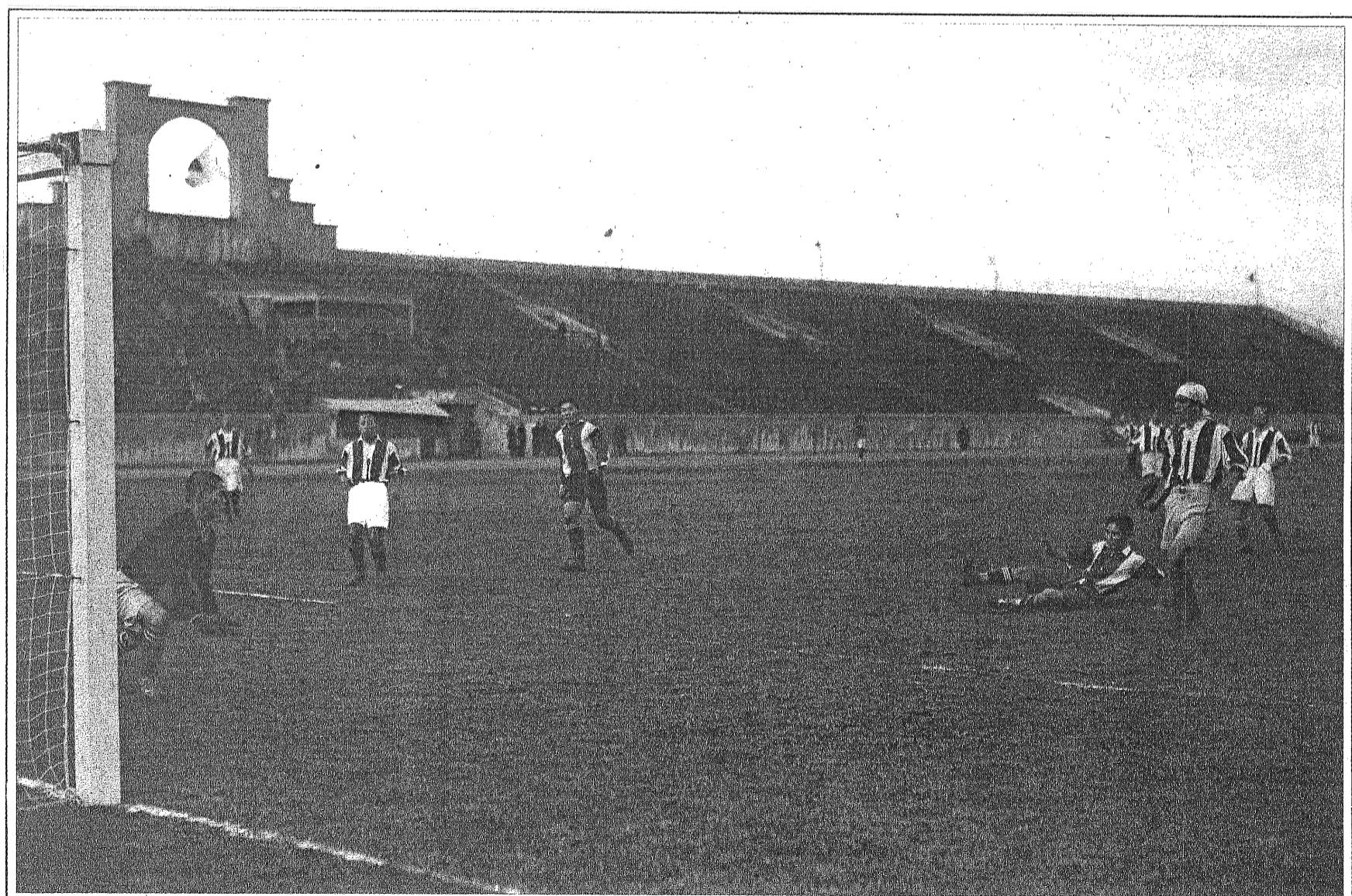
なほ前半三十五分、京大C・Hのショットを關學L・B門脇蹴り返し、その球が京大R・W澤野の前に行き澤野のショットは決定的のものとみえたがゴール・キーパー齋藤これをコーナー・キックとして危機を脱し、續いて四十一分關學ゴール前に起つたブリーより出でた球をC・H西村ショットしこれも正にゴール・インとみえたが、L・B門脇の一蹴はよくピッチを数ふ等、關學としては全く幸運に恵まれた試合をした。

◇

吾等はこの試合がたゞ單に昭和四年度における關西學生蹴球リーグ戦の第一位決定戦なるが故に興味を湧かせたことよりも、寧ろ學ぶべき多くのものを與へて呉れた意味において、本聯盟戦中の白眉でありまた今シーズン關西において行はれたビッグ・ゲームの一として算へ度い。

筆を擱くに當り、京大主將C・H西村の熟練したる活躍と、關學

R・H石井があだかも彼等がモツトとするノーブル・スタボーネスの表徴の如きプレー振りを見せてくれた事、數年來バックスメンとして戦ひ續けてきた京大L・W加茂下がF・Wメンとしても十分その力量を發揮し、關學L・H高橋が短髪よくヘッディングに相手を近付けしめなかつた事に稱讃の辭を措まぬもので、此の關西學生蹴球聯盟が今後益々活躍されん事を祈るものである。



早大對關西學院のサッカー定期試合は十一月三十日、十二月一日甲子園競技場で舉行、一二回共に早大の敗に歸した寫眞はその第一回試合の一場景  
The Waseda and Kwansei Gakuin soccer teams played on the Koshien grounds November 30 and December 1, in both of which Waseda was beaten.

# 偉大なる東西の両チーム

## 本年の蹴球界に對立する東大開學

山 田 午 郎



日本選手権をその掌中に收め、歸神後更に關西カレヂ・リーグの覇權を握つて開學の黃金時代を再現してゐる一方、東大は今年も東京カレヂ・リーグの王座を譲らぬ豪勢振りを見せてゐる。この東西に蟠居する兩虎の相博つ日は近きに迎へ得るが、更にこの兩者を繞つて關東には早慶明、關西では京大神話大あり勝敗の運命こそつけられてはゐるが、力量は五十歩百歩の間に置かれてゐる。大正の末期において、俱樂部級から大學級にその實力が全く移ると共に其の技術も亦戦法も合理化されて面目を一新した。

自然これに伴うて一般的に其の實力も向上の道を順調にたどつてゐる。大正末期と本シーズン前半とを較べて見るならば、僅々四、五年間の差であるが全く隔世の感を抱かしむるものがある。

然しこれを地理的に展望する時は政治、文化の都會集中と同様な關係の下に球界は東京、京阪の二大中心地を持つてゐて又それぞれ異なる流を見せてゐる。

この異なる流れの中にあって傑出

するものが即ち前述の諸チームであるが、その中に精彩を放つ東大開學は特に代表的のもので、しかも両チーム共に本シーズンは從來かつてないところの大記録を残してゐる。開學はこのシーズン大小取り交ぜて三十試合を行ひ、たゞ一回の引分あるのみで敗戦の記録を残さぬといふ實に驚異に値する記録を止めてゐる。一方東大はまだリーグ戦を完了してはゐないが群雄の割據する關東において既に本シーズンも確實に覇權を握るに足る優勝點を集めて、ここに四シーズン優勝の稀有の記録を作った。實に偉大な記録である、斯かる記録を印したシーズンは未だ曾つてない所のもので、權東競技大會を控へてこの大収穫は實に心強い。

しかもこの兩者が来る廿五日東京に相會して雌雄を決することは斯界の向上にまた一脈の生氣を加へ、これを機會に關東西に依るその異なる流れの得失も交流されて、刺戟を待つ斯界には茲に新しい戦法も生きれるのであらう。これがひいては球界の世界的進出の暗示となるかの氣もしないでもない。

昭和四年度蹴球シーズンも茲に其の前半の終了を見るに至つたが明年初夏の候東京に開かれる極東選手権大會を控へて球界は其の後半も等閑に附することが出来ない。

殊にその代表チームの選出に關しては未だその具體的方法が公示されてゐないので、前回の上海に開かれた同大會において初めて比軍を一蹴し第二位をかも得た球史の前に一層の緊張を見せるものと思はれる。斯くの如く球界は多事且つ一面甚だ多難の秋である。

◇

本シーズン前期の成績を以て球界の情勢を見るならび誰しも東に東大在り西に開學在りの感を深くするであらう。開學は十月下旬全

## 關學對早大蹴球試合を觀る

2-0、3-0 て關西學院勝つ

今川 義六

今秋の關學は、バックスにおける傳統的強味に加へ、更にフォワードにも從来に見られなかつた鋭い攻撃力を見せ、その戦闘の示す如く名實共に日本一流のチームたる真價を發揮した。これに對し早大チームの今秋の東都におけるカレッジ・リーグ戦の成績は、初め昨年のそれに比し稍々苦戦の様であつたが、最近においては陣容の改編を行ひ好調にある慶應を粉碎して、我等をして早大義へずの感を深くせしめ、彼等また必勝の意氣と確信を以て關學の牙城に迫つた。何れが勝つか、關學F・Bの巨彈の如き長蹴、體力絶倫にして健闘たるH・B、またC・Fを中心一寸の隙をも見逃さぬ十分に洗練されたフォワード。一方早大は昨年までその一大特長であつた所の、恐る可きH・Bラインを解體し、新しい組織の下にタクチックスに勝れた強チームとして恐らく水も洩さぬ戦法に出づるであらうことはファンの賛しく期待したところであつた。即ち此のゲームは從來の戦績より見るも、また戦法の上より見るも全く見逃し得ないものであつた。

◇

以下先づ極く簡単に戰況と經過を略述し、これに少し許りの單見を加へる事にしたい。

第一回戦は十一月三十日午後一時キックオフ(甲子園南運動場)早大前衛中の強豪淺井貢傷のため出場を中止すれば、關學また後衛に無くてはならぬL・F門脇病氣のため参加せず、兩軍の心労は想像に難くない。そしてこの兩選手の不参加は観面に戰況に影響した。夜來の雨やまず、グラウンドのコンディションは頗る悪い、前半早大の攻撃は容易に關學のH・Bを破り得ず、唯時々關學の罷を衝くC・H邊りからの深いパスで左側の守りを破つてみたが、後衛續かずといつた形で折角高橋のパスもカットされてゴールを脅かすに至らず、關學また天候のために京大戦當時の出足なく時々両サイドより深く攻め入るも、徒らに本田に名を成さしむるのみ、かくして兩軍得點なく前半を終つた。

後半に至つて雨が晴れ、グラウンドのコンディションは漸く良くなつた。果然戦ひは物凄いテンポで展開した。兩軍の動きは見違へるほどキビキビして來た、技も冴えて來た、見事な長蹴も飛び出した、然し戰況は漸次關學に有利に傾いて來た、關學C・Fは適宜にオープシレ I・Rの健實なショート・バスと相俟つてセンター・ス

リーはスムースな連絡でオープシレ、左右のウイングをして度々強ショットを放つに至らしめた。勿論早大G・Kの活躍は加速度的に目覺ましいものとなつた、然し袁しい哉、早大ハーブスのフォローは漸減的に衰へ來り、當然の躍結として關學は2ゴールを納めた(14分と30分)。2點共ゴール前の混戦中より出でた球をC・F及びL・Wが強蹴した堂々たる得点である。早大奮起しC・H-C・F-I・L-L・W-I・Lと一時關學の右側を壓迫したが、關學バックス懸命の防禦に、間もなく中央に返され以後接戦裡にタイム・アップとなる。

◇

第二回戦は十二月一日午後三時、キック・オフ。關學一勝の後を受け早大は如何なる戦法を以て

關學の猛襲を斥け、また如何なるメムバーを以て關學の堅陣を打ち破らんとするか。風は稍々強いが、晴天だ。前半早大の元氣は優しく、忽ち中央より攻め、I・Lの返す球をL・H猛シユートすれば、關學劣らず逆襲しC・Hのシユートする等一進一退の展開が行はれたが、漸次關學の前衛好調となり、8分R・H-C・F-R・Wと渡り、岩田のシユートはゴール前を通つてL・Wに流れ出るのを島猛蹴すれば惜しくも外れる。關學のアタック益々鋭く9分にはI・R大きく前方に蹴るを、C・F増野先づヘッドで受けて好蹴すれば本田辛くも外して危機を脱す、13分またもやC・H、R・Wに長蹴するを、岩田ヘッドイングでC・Fに返せば、増野深くR・Wに返して早大陣を破つたが、岩田の凡蹴に空し、早大奮起し15分ごろよりライト・サイドより壓迫を重ねるもショットに至らず、16分關學L・Wより逆襲に轉じ、島強引に早大ハーフを引離し更に両F・Bをも抜いたが、本田の見事なクリヤーに事なし、關學更に猛襲を續け、C・FとR・Wショート・バスで早大陣に肉薄し混戦となる時、バックスされたボールを堺井ゴールの左隅を破つて一点を先取す、時に20分、奮起した早大は、杉村のロング・ショットをC・F浅井更にヘッドしたが惜しくも外れて空し、關學忽ち盛り返しC・F-I・L-C・H-I・L-C・Hと好連絡で進み、後藤シユートしたが早大の好守に空し、24分早大右側より大きくI・Lにバスして逆襲に轉じたが、高師の長蹴バーに當つて惜しくも空し、早大更に攻撃の手を緩めず、L・W-I・L-C・Fと見事な連絡で浅井ショット

のアアルで早大フリー・キックせしも關學の猛襲依然として續き逆風に悩む早大は容易に逆襲に轉ずる能はず、56分R・H-C・F-R・Wと渡り、岩田のショットはキーパーの直前を突いて物にならず。次で60分關學後藤R・Hに渡すを、石井良輔見事なロップを送れば、東浦すかさず跳躍し綺麗なヘッドイングで右隅上を突けば本田懸命にジャムしたが及ばず計三點となつて大勢既に決す。早大挽回これ力むるも風勢益々不利、盛んにバックス・ヒール等用ふるも關學のハーブス頑張つて抜けず、關學また度々オフサイドとなりて好機を逸する中、67分關學C・H早大陣に長蹴すれば早大L・Fヘッドで返すのを、待ち構へた岩田素早く中へ送れば、東浦好蹴したが惜しくも成らず、早大棹尾の勇を鼓舞して逆襲に轉じ浅井ドリブルしてI・Lにバスすれば、高師よく受けてゴール中央より關學ゴール30ヤードに迫り直球を放つたがキーパーの直前に飛び空し、その後關學依然として壓迫を重ねる中タイム・アップとなる。

◇

一、二回戦を通じて實に美しい試合であった。關西では稀に見る快戦であったが、タクティクスにおいては幾分物足りなく感じた。

まづ兩軍の前衛を見るに、個人的技術は兎も角とし、關學フォワードには何といつても無理の無いコンビネーションがあつた、しかし、その锐いバッキングのコースは多くの撃倒C・F増野により蘇生し延長し、餘裕を與へられて早大の堅陣を亂した、彼は比較的

バックス・チャーチして關學陣350碼邊よりフリー・キックせしもならず、續いて關學攻むる時東浦オフサイドして早大フリー・キック。50分關學C・F40碼邊よりボールを殺してI・Rに渡すを、堺井好蹴したがゴール・オーバーに止む。關學いよいよ逆迫を續け、二度のコーナー・キックを得たるも、早大必死の健闘に空し、次で52分關學R・Hの好バスを岩田シユートすれば、本田、増野、東浦二人のチャージを見事に外して觀衆を喰らす。54分關學ハーフよりのバスを島受けてロング・ショットを送れば、意外にも早大キーパーとフルバックスとの連絡破れあつたが、彼等の攻撃の

多くは単なる壓迫、漫然たる壓迫であつて得點を豫想させ、相手を危機に陥れる攻撃が少なかつた。裏からこれを觀れば關學のバックスが餘りに強かつたともいへるであらう。それにも門脇など關學の左陣を今少し破り得たならば、或は日ごろの好調を呼び醒まして、今一段の凄味を示し得たであらうと惜しまれる。中衛では早大杉村の奮闘に全く涙ぐましきのがあつた、彼は動きの足らぬ前衛とウング・ハーフを援けて、F・Bと共に懸命に働いた。本田とともに早大軍の花であつた。守備における關學はF・B、H・Bと前好機を逸する中、67分關學C・H早大陣に長蹴すれば早大L・Fヘッドで返すのを、待ち構へた岩田素早く中へ送れば、東浦好蹴したが惜しくも成らず、早大棹尾の勇を鼓舞して逆襲に轉じ浅井ドリブルしてI・Lにバスすれば、高師よく受けてゴール中央より關學ゴール30ヤードに迫り直球を放つたがキーパーの直前に飛び空し、その後關學依然として壓迫を重ねる中タイム・アップとなる。

◇

上述せる如く結果は萬人の期待を裏切つて、早大遂にその銳鋒を現し得ずについたのは、何といつても遠征軍として附き物の、色々不利な點に加へて選手個人のコンディションも非常に悪かつたことに基因するもので、誠に同情に堪へない。然し敗れたりといへ、依然として早稻田は早稻田である。彼等イレヴァンは最後の瞬間まで堂々と根強く美しい努力を續けてゐた。筆者は關學の今日あるまでの眞面目な努力に敬意を拂ひ、併せて今日の榮譽を祝福すると同時に、早大の捲土重來を信じて疑はぬものである。

得意の長蹴に躊躇つても懸命にゴールを死守した、その奮闘は二回戦において不覺にも關學に與へた二點目の如きは償うて餘りありといへる。兩軍共に甲乙は無いむしろキックの如きは早大を取り度い、矢鱈に大きいキックは蹴つた本人には痛快だが、守備力の整備した相手には効果は決して望めない。之れは相手の失策を豫想した攻め方で、最早今日においては一派チームの取る可き方法ではない。須く能ふ限りパスすべきである。強大なキックはかくしてこそ初めてその真價を發揮し得るものといはねばなるまい。

關學のG・K齋藤は遂にその妙技を現す可き機會を與へられなかつたが、早大の本田は關西球界では初めての、全く物珍しい程の活躍をした。彼の敏捷なるモーション・ボールをキヤツチしてからの落付き拂つた度胸は小面憎い程で、危機を救ひ相手を翻弄した事は枚舉に遑がない。

上述せる如く結果は萬人の期待を裏切つて、早大遂にその銳鋒を現し得ずについたのは、何といつても遠征軍として附き物の、色々不利な點に加へて選手個人のコンディションも非常に悪かつたことに基因するもので、誠に同情に堪へない。然し敗れたりといへ、依然として早稻田は早稻田である。彼等イレヴァンは最後の瞬間まで堂々と根強く美しい努力を續けてゐた。筆者は關學の今日あるまでの眞面目な努力に敬意を拂ひ、併せて今日の榮譽を祝福すると同時に、早大の捲土重來を信じて疑はぬものである。

終りに兩チームの好ゲームにより、關西蹴球界に美しい印象とよき刺戟を與へられたことを、兩チームに深く感謝する次第である。



甲子園競技場で舉行した關西學院對早大的サッカー試合

Kwansei-Waseda soccer game.